

第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

対象事業実施区域及びその周囲における自然的状況及び社会的状況について、環境要素の区分ごとに事業特性を踏まえ、「第 6 章 対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法」を検討するに当たり必要と考えられる範囲を対象に入手可能な最新の文献その他の資料により把握した。

3.1 自然的状況

3.1.1 大気環境の状況

1. 気象の状況

対象事業実施区域は鹿児島県西部の薩摩半島に位置し、海岸部は東シナ海に面し温暖な気候となっているが、内陸部はやや気温が低い傾向が見られる。

対象事業実施区域及びその周囲の地域気象観測所として、表 3.1-1 及び図 3.1-1 のとおり、川内地域気象観測所、八重山地域気象観測所及び東市来地域気象観測所が存在する。

表 3.1-1 対象事業実施区域及びその周囲における地域気象観測所

観測所名	所在地	緯度経度	海面上 の高さ	風速計 の高さ	温度計の 高さ	観測種目				
						気温	風	降水量	日照	積雪
川 内	薩摩川内市中郷	緯度 31° 50.0′ 経度 130° 18.9′	5m	6.4m	1.5m	○	○	○	○	—
八重山	薩摩川内市入来町 浦之名字大谷	緯度 31° 44.8′ 経度 130° 26.3′	533m	—	—	—	—	○	—	—
東市来	日置市東市来町 湯田	緯度 31° 40.1′ 経度 130° 19.7′	40m	6.5m	1.5m	○	○	○	○	—

注：「—」は出典に記載がないことを示す。

〔「地域気象観測所一覧（令和元年 11 月 5 日現在）」（気象庁、令和元年）より作成〕

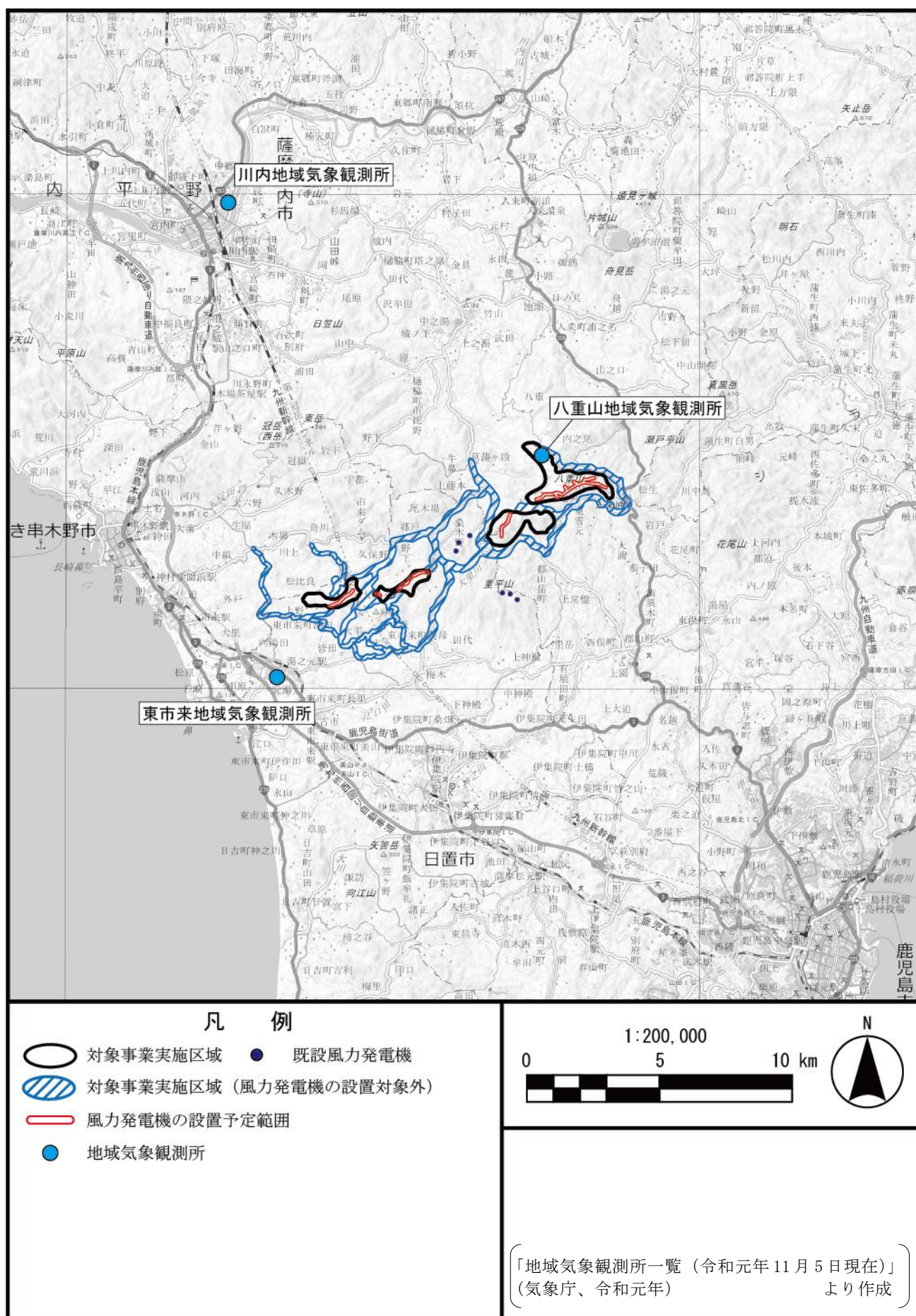


図 3.1-1 地域気象観測所位置

川内地域気象観測所における平年値及び平成 30 年の気象概況は表 3.1-2、平成 30 年の風向出現頻度及び風向別平均風速は表 3.1-3、風配図は図 3.1-2 のとおりである。平成 30 年の年間降水量は 2,457.5mm、年平均気温は 17.2℃、年平均風速は 1.8m/s、日照時間は 1,953.6 時間であり、年間の風向出現頻度は北北東が 18.3%と最も高くなっている。なお、当観測所では雪の観測を実施していない。

表 3.1-2(1) 川内地域気象観測所の気象概況（平年値）

要素名	年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
平均気温 (℃)	17.0	6.5	7.8	11.0	15.4	19.4	23.1	27.0	27.4	24.5	19.0	13.5	8.5
日最高気温 (℃)	22.3	11.8	13.2	16.3	21.1	24.9	27.6	31.4	32.5	29.8	25.1	19.7	14.4
日最低気温 (℃)	12.3	1.8	2.7	5.8	10.0	14.6	19.4	23.5	23.7	20.5	14.0	8.4	3.5
平均風速 (m/s)	1.6	1.5	1.7	1.9	1.8	1.7	1.6	1.8	1.7	1.4	1.2	1.2	1.4
日照時間 (時間)	1,857.0	107.5	123.0	146.6	170.6	172.1	124.0	182.4	209.1	179.1	180.7	138.4	125.7
降水量 (mm)	2,281.4	91.1	113.9	175.7	192.8	219.0	438.3	303.4	235.5	233.2	93.5	94.0	90.8

注：1. 平年値は 1981～2010 年の 30 年間の観測値の平均をもとに算出した。

2. 日照時間については 1986～2010 年の値である。

〔過去の気象データ検索〕（気象庁 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成

表 3.1-2(2) 川内地域気象観測所の気象概況（平成 30 年）

月	降水量(mm)				気温(℃)					風向・風速(m/s)					日照 時間 (時間)
	合 計	日最大	最 大		平 均			最 高	最 低	平均 風速	最大風速		最大瞬間風速		
			1 時間	10 分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速	風向	
1	116.0	36.0	12.0	6.5	5.4	10.6	1.1	20.4	-4.4	1.6	8.5	西北西	16.6	西北西	114.8
2	80.5	24.0	13.5	6.0	6.0	11.3	1.3	17.5	-3.0	1.7	10.6	南南東	16.9	南南東	125.8
3	201.0	64.0	23.5	10.0	12.6	18.8	6.7	25.3	-0.5	2.2	10.5	東	17.6	東	185.2
4	138.0	65.5	13.0	5.5	16.6	22.7	11.0	28.4	5.8	2.2	9.7	北西	18.5	北西	204.9
5	283.0	108.5	24.5	10.0	20.3	25.4	15.8	30.9	6.8	2.0	7.8	西北西	14.7	南西	159.5
6	395.0	157.0	64.0	17.5	23.8	28.2	20.2	32.5	14.8	1.7	7.4	南南西	14.2	南南西	138.7
7	461.0	122.0	32.5	8.5	27.4	32.1	24.2	35.8	22.2	2.4	11.6	南南東	21.4	南南東	216.4
8	70.5	24.0	14.5	8.5	28.4	33.4	24.9	35.6	21.2	2.4	9.7	東	19.1	東北東	234.6
9	440.5	119.5	41.5	16.5	24.8	29.6	21.3	33.5	16.8	1.7	11.6	北西	26.6	北西	147.1
10	54.5	19.0	9.0	6.5	17.9	23.9	13.1	30.3	8.2	1.6	11.5	南	20.3	南南東	173.5
11	95.5	20.5	19.0	10.5	13.2	19.9	8.0	25.2	1.0	1.1	6.3	東北東	11.2	東北東	169.5
12	122.0	62.5	13.5	9.5	10.1	14.3	6.1	24.4	-2.9	1.5	8.5	東北東	15.9	東北東	83.6
年	2,457.5	157.0	64.0	17.5	17.2	22.5	12.8	35.8	-4.4	1.8	11.6	北西	26.6	北西	1,953.6

〔過去の気象データ検索〕（気象庁 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成

表 3.1-3 川内地域気象観測所の風向出現頻度及び風向別平均風速（平成 30 年）

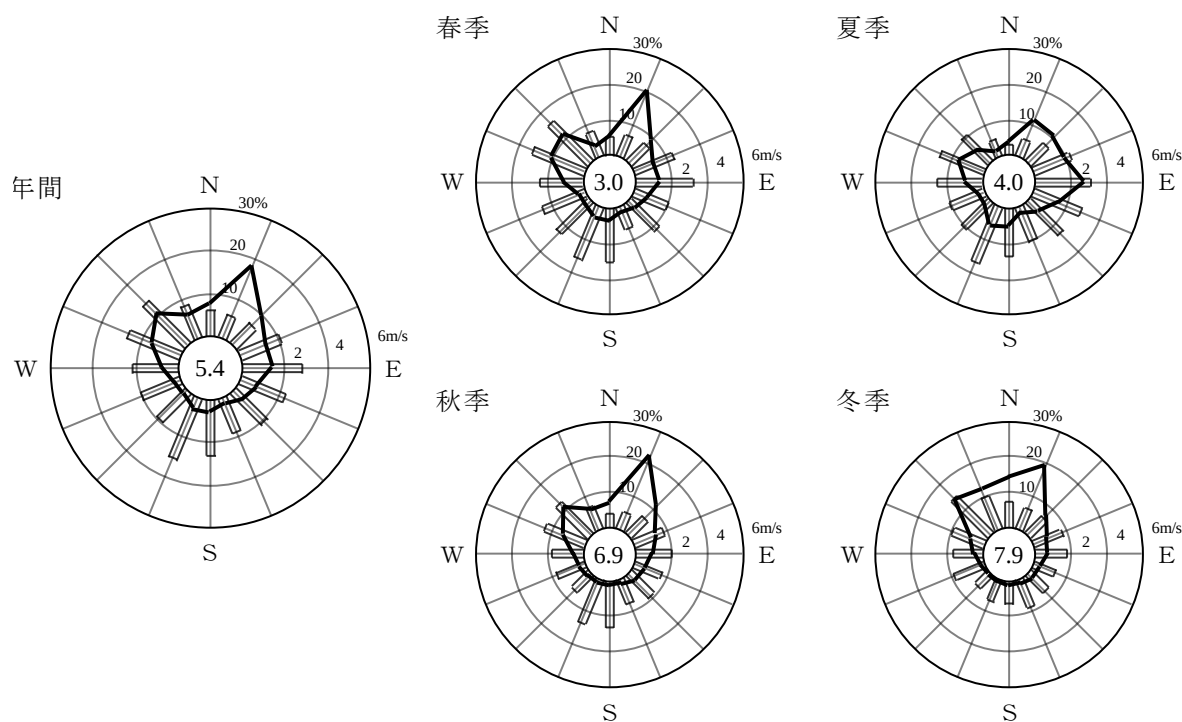
風向	春季（3～5月）		夏季（6～8月）		秋季（9～11月）		冬季（1,2,12月）		年間	
	風向出現頻度（％）	平均風速（m/s）	風向出現頻度（％）	平均風速（m/s）	風向出現頻度（％）	平均風速（m/s）	風向出現頻度（％）	平均風速（m/s）	風向出現頻度（％）	平均風速（m/s）
北北東	20.5	1.3	10.9	1.0	22.3	1.0	19.5	1.3	18.3	1.1
北東	9.3	1.4	10.3	1.4	11.5	1.3	7.6	1.3	9.7	1.3
東北東	6.0	2.4	9.7	2.2	6.7	1.8	4.3	1.7	6.7	2.0
東	6.8	3.2	13.9	3.1	4.7	2.0	3.7	1.8	7.3	2.8
東南東	4.1	2.0	7.8	2.9	3.5	1.6	2.2	1.3	4.4	2.2
南東	2.8	2.2	4.4	2.6	3.0	1.8	2.2	1.4	3.1	2.1
南南東	1.8	1.3	2.0	2.1	1.6	1.5	1.5	1.7	1.7	1.7
南	3.6	3.0	5.2	2.7	1.6	2.6	1.6	1.3	3.0	2.6
南南西	3.5	3.2	5.9	3.4	1.5	2.7	0.9	1.3	3.0	3.1
南西	1.9	2.5	1.7	2.1	1.3	1.3	0.7	1.0	1.4	1.9
西南西	1.7	2.6	1.5	2.0	1.8	1.7	1.2	1.8	1.6	2.0
西	5.3	2.4	4.8	2.5	2.8	1.8	2.3	1.7	3.8	2.2
西北西	10.3	3.2	7.9	2.7	6.8	2.4	4.0	1.9	7.3	2.7
北西	11.0	3.2	4.9	2.1	11.0	2.5	14.2	2.9	10.2	2.8
北北西	3.2	1.5	1.5	1.0	6.0	1.4	12.3	2.0	5.7	1.7
北	5.4	1.1	3.4	0.6	6.9	0.8	14.1	1.5	7.4	1.2
静穏	3.0	0.1	4.0	0.1	6.9	0.1	7.9	0.1	5.4	0.1
合計・平均	100	2.2	100	2.2	100	1.5	100	1.6	100	1.9
（欠測）	0		0		0		0		0	

注：1. 静穏は 0.2m/s 以下である。

2. 風向出現頻度は四捨五入を行っているため、個々の項目の合計と総数は一致しない場合がある。

3. 風向出現頻度の「0」は出現しなかったことを示す。

〔過去の気象データ〕（気象庁 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成



注：1. 風配図の実線は風向出現頻度（％）、棒線は平均風速（m/s）を示す。

2. 風配図の円内の数字は、静穏率（風速 0.2m/s 以下、％）を示す。

〔過去の気象データ〕（気象庁 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成

図 3.1-2 川内地域気象観測所の風配図（平成 30 年）

八重山地域気象観測所では降水量のみの観測となっており、平成 21 年から 10 年間及び平成 30 年の気象概況は表 3.1-4 のとおりである。平成 30 年の年間降水量は 3,510.5mm である。

表 3.1-4(1) 八重山地域気象観測所の気象概況（平成 21～30 年）

年	降水量(mm)			
	合 計	日最大	最 大	
			1 時間	10 分間
平成 21 年	730.0]	113.0]	31.0]	11.0]
平成 22 年	3,326.5]	279.0]	67.0]	25.5]
平成 23 年	2,893.5	168.0	51.0	24.0
平成 24 年	3,564.5	194.0	52.0	18.5
平成 25 年	2,623.0	177.5	77.0	20.0
平成 26 年	2,997.0	143.5	36.0	18.0
平成 27 年	3,880.0	179.0	58.5	19.0
平成 28 年	3,776.0	193.5	69.0	20.5
平成 29 年	2,661.0	135.5	80.0	22.0
平成 30 年	3,510.5	209.5	54.0	24.0

注：「] 」は統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けている（資料不足値）。値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いないが、極値、合計、度数等の統計ではその値以上（以下）であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用できる場合がある。

〔「過去の気象データ検索」（気象庁 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成〕

表 3.1-4(2) 八重山地域気象観測所の気象概況（平成 30 年）

月	降水量(mm)			
	合 計	日最大	最 大	
			1 時間	10 分間
1	142.0	40.5	15.0	6.5
2	114.5)	41.5)	24.0)	12.0)
3	270.5	82.0	28.0	11.0
4	230.0	101.5	18.0	8.5
5	453.5	171.0	48.5	14.5
6	462.0	185.0	51.0	24.0
7	730.5	209.5	46.0	13.0
8	47.0	19.0	13.0	3.5
9	681.0	114.0	54.0	23.5
10	93.0	25.0	13.0	6.5
11	141.5	64.0	30.0	9.0
12	145.0	62.0	22.5	9.5
年	3,510.5	209.5	54.0	24.0

注：「) 」は統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱う（準正常値）。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の 80%を基準とする。

〔「過去の気象データ検索」（気象庁 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成〕

東市来地域気象観測所における平年値及び平成 30 年の気象概況は表 3.1-5、平成 30 年の風向出現頻度及び風向別平均風速は表 3.1-6、風配図は図 3.1-3 のとおりである。平成 30 年の年間降水量は 2,540.0mm、年平均気温は 17.9℃、年平均風速は 2.0m/s、日照時間は 2,085.3 時間であり、年間の風向出現頻度は東南東が 17.9%と最も高くなっている。なお、当観測所では雪の観測を実施していない。

表 3.1-5(1) 東市来地域気象観測所の気象概況（平年値）

要素名	年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
平均気温 (℃)	16.9	7.3	8.3	11.2	15.3	19.0	22.5	26.3	26.8	24.1	19.2	14.0	9.2
日最高気温 (℃)	21.6	11.8	12.9	15.8	20.2	23.8	26.4	29.9	31.1	28.9	24.6	19.4	14.3
日最低気温 (℃)	12.5	2.6	3.4	6.2	10.2	14.3	19.1	23.2	23.3	20.1	14.3	8.9	4.2
平均風速 (m/s)	2.0	2.3	2.4	2.4	2.2	2.0	1.8	1.7	1.9	1.7	1.7	1.7	2.0
日照時間 (時間)	1,966.8	111.9	126.9	148.4	175.7	179.9	129.5	200.1	222.3	192.4	190.7	151.2	132.9
降水量 (mm)	2,145.7	76.7	100.8	166.7	188.9	202.5	427.7	279.4	214.3	225.0	95.3	93.3	77.8

注：1. 平年値は 1981～2010 年の 30 年間の観測値の平均をもとに算出した。

2. 日照時間については 1986～2010 年の値である。

〔過去の気象データ検索〕（気象庁 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成

表 3.1-5(2) 東市来地域気象観測所の気象概況（平成 30 年）

月	降水量(mm)				気温(℃)					風向・風速(m/s)					日照 時間 (時間)
	合 計	日最大	最 大		平 均			最 高	最 低	平均 風速	最大風速		最大瞬間風速		
			1 時間	10 分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速	風向	
1	106.0	40.5	15.0	10.0	6.6	11.1	1.8	20.7	−4.9	2.2	9.8	西北西	20.3	西北西	117.8
2	92.5	30.0	22.5	17.0	7.0	11.6	2.2	16.8	−2.0	2.1	9.3	西	16.8	西	131.6
3	195.5	48.5	19.5	8.5	13.4	18.6	7.9	24.4	−0.4	2.3	10.4	西	19.9	西北西	185.6
4	137.5	45.0	23.0	13.5	17.1	22.2	11.8	27.3	7.6	2.2	9.3	西北西	18.2	北西	226.3
5	383.0	110.0	72.5	20.5	20.7	25.0	16.8	29.3	7.3	2.1	9.0	東	17.9	東	172.8
6	323.5	106.0	49.0	25.0	24.0	27.7	20.7	31.3	15.7	1.8	6.7	東	13.5	東	145.4
7	460.5	172.5	40.5	10.5	27.5	31.3	24.5	34.3	22.1	2.2	8.9	東南東	16.9	南東	231.6
8	51.0	18.0	14.5	11.0	28.5	32.9	25.0	35.7	19.7	2.3	10.5	東南東	19.9	東南東	250.2
9	456.5	115.0	32.0	13.0	25.3	29.5	21.9	33.1	17.9	1.8	12.5	北北西	31.5	北西	163.2
10	58.0	26.5	13.5	8.0	18.8	24.1	14.0	30.1	8.9	1.7	10.1	東南東	20.7	東	188.6
11	90.0	35.0	15.0	4.5	14.4	20.1	8.7	25.4	2.3	1.3	4.9	北西	10.6	北北西	182.7
12	186.0	93.5	30.5	19.0	11.2	14.9	7.3	23.6	0.3	1.9	7.5	東	15.3	西北西	89.5
年	2,540.0	172.5	72.5	25.0	17.9	22.4	13.6	35.7	−4.9	2.0	12.5	北北西	31.5	北西	2,085.3

〔過去の気象データ検索〕（気象庁 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成

表 3.1-6 東市来地域気象観測所の風向出現頻度及び風向別平均風速（平成 30 年）

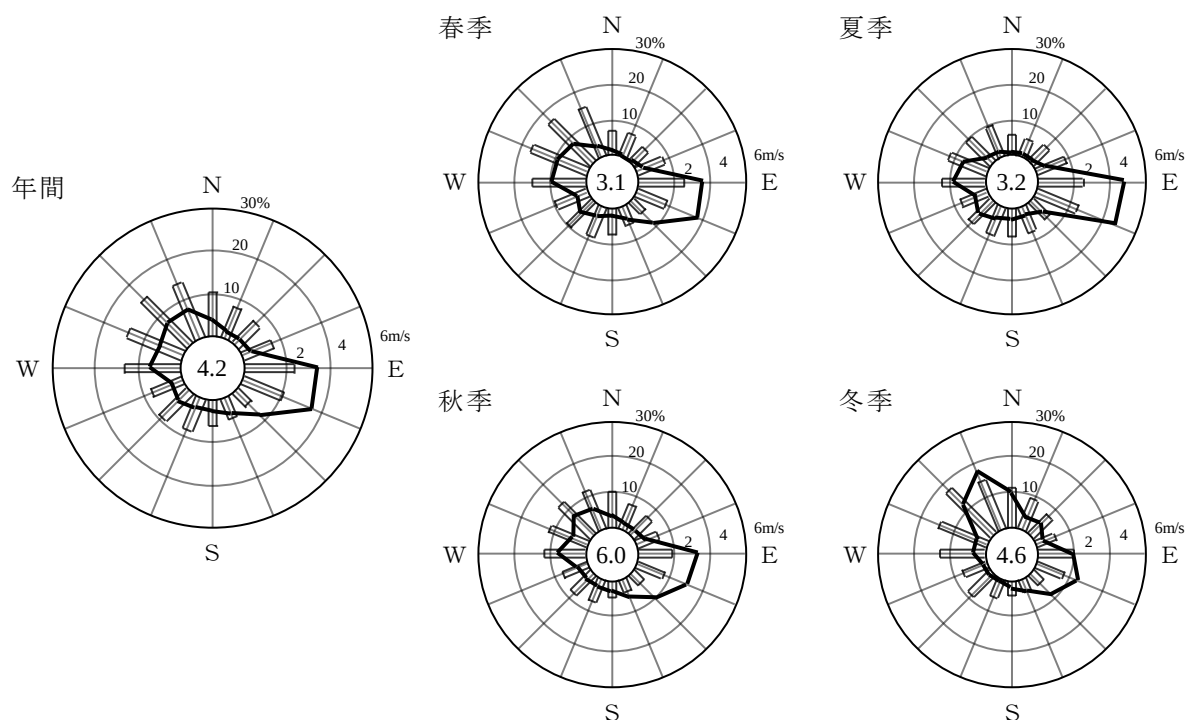
風向	春季（3～5月）		夏季（6～8月）		秋季（9～11月）		冬季（1,2,12月）		年間	
	風向出現頻度（％）	平均風速（m/s）	風向出現頻度（％）	平均風速（m/s）	風向出現頻度（％）	平均風速（m/s）	風向出現頻度（％）	平均風速（m/s）	風向出現頻度（％）	平均風速（m/s）
北北東	0.5	1.4	0.7	1.0	1.6	1.5	3.5	1.8	1.6	1.6
北東	0.6	1.1	0.8	1.2	1.7	1.4	4.5	1.5	1.9	1.4
東北東	2.1	1.6	3.1	1.8	2.7	1.3	2.2	1.1	2.5	1.5
東	18.2	2.6	24.5	2.5	16.7	1.9	9.7	2.0	17.3	2.3
東南東	18.8	1.8	24.3	2.5	15.5	1.6	12.7	1.6	17.9	2.0
南東	8.9	0.9	5.0	1.3	10.3	0.8	8.8	0.8	8.3	0.9
南南東	4.1	1.1	2.9	1.5	5.9	0.8	3.8	0.8	4.2	1.0
南	2.3	1.5	3.3	1.6	3.0	0.9	2.2	0.8	2.7	1.2
南南西	3.3	1.8	3.8	1.7	2.4	1.4	1.0	1.1	2.6	1.6
南西	5.0	2.0	5.2	1.7	2.6	1.6	1.1	1.7	3.5	1.8
西南西	3.0	1.9	3.2	1.6	3.0	1.5	0.9	1.4	2.6	1.6
西	9.4	3.0	8.9	2.4	7.5	2.3	3.0	2.5	7.2	2.6
西北西	8.9	3.4	7.1	2.3	4.2	2.3	2.8	2.9	5.7	2.8
北西	7.6	3.3	2.0	1.9	7.6	2.5	11.9	3.5	7.2	3.1
北北西	3.2	3.0	1.4	1.9	6.3	2.4	17.5	3.0	7.1	2.8
北	1.2	1.4	0.5	1.2	3.1	2.0	9.7	2.3	3.6	2.1
静穏	3.1	0.2	3.2	0.1	6.0	0.1	4.6	0.1	4.2	0.1
合計・平均	100	2.2	100	2.1	100	1.6	100	2.0	100	2.0
（欠測）	0		0		0		0		0	

注：1. 静穏は0.2m/s以下である。

2. 風向出現頻度は四捨五入を行っているため、個々の項目の合計と総数は一致しない場合がある。

3. 風向出現頻度の「0」は出現しなかったことを示す。

〔過去の気象データ〕（気象庁 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成



注：1. 風配図の実線は風向出現頻度（％）、棒線は平均風速（m/s）を示す。

2. 風配図の円内の数字は、静穏率（風速 0.2m/s 以下、％）を示す。

〔過去の気象データ〕（気象庁 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成

図 3.1-3 東市来地域気象観測所の風配図（平成 30 年）

2. 大気質の状況

鹿児島県における大気質の状況として、平成 30 年度は一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）17 局、自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）2 局の計 19 局で「大気汚染防止法」（昭和 43 年法律第 97 号、最終改正：平成 29 年 6 月 2 日）に基づく常時監視測定が実施されている。

対象事業実施区域の周囲の測定局として、一般局の「鹿児島市役所局」及び「環境保健センター局」が鹿児島市に、「環境放射線監視センター局」が薩摩川内市に設置されている。また、自排局の「鴨池局」が鹿児島市に、「薩摩川内局」が薩摩川内市に設置されている。

各測定局の概要及び測定項目は表 3.1-7、位置は図 3.1-4 のとおりである。

表 3.1-7 測定局の概要及び測定項目（平成 30 年度）

区 分	市 名	測定局	二酸化 硫黄 (SO ₂)	二酸化 窒素 (NO ₂)	浮遊粒子状 物質 (SPM)	一酸化 炭素 (CO)	微小粒子 状物質 (PM2.5)	光化学オキ シダント (Ox)
一般局	鹿児島市	鹿児島市役所	○	○	○	—	○	○
		環境保健センター	○	—	○	—	—	○
	薩摩川内市	環境放射線 監視センター	○	○	○	—	—	○
自排局	鹿児島市	鴨池	○	○	○	○	○	—
	薩摩川内市	薩摩川内	○	○	○	○	○	—

注：「○」は測定が行われていること、「—」は行われていないことを示す。

〔「平成 30 年度大気・騒音調査結果」（鹿児島県、令和元年）より作成〕

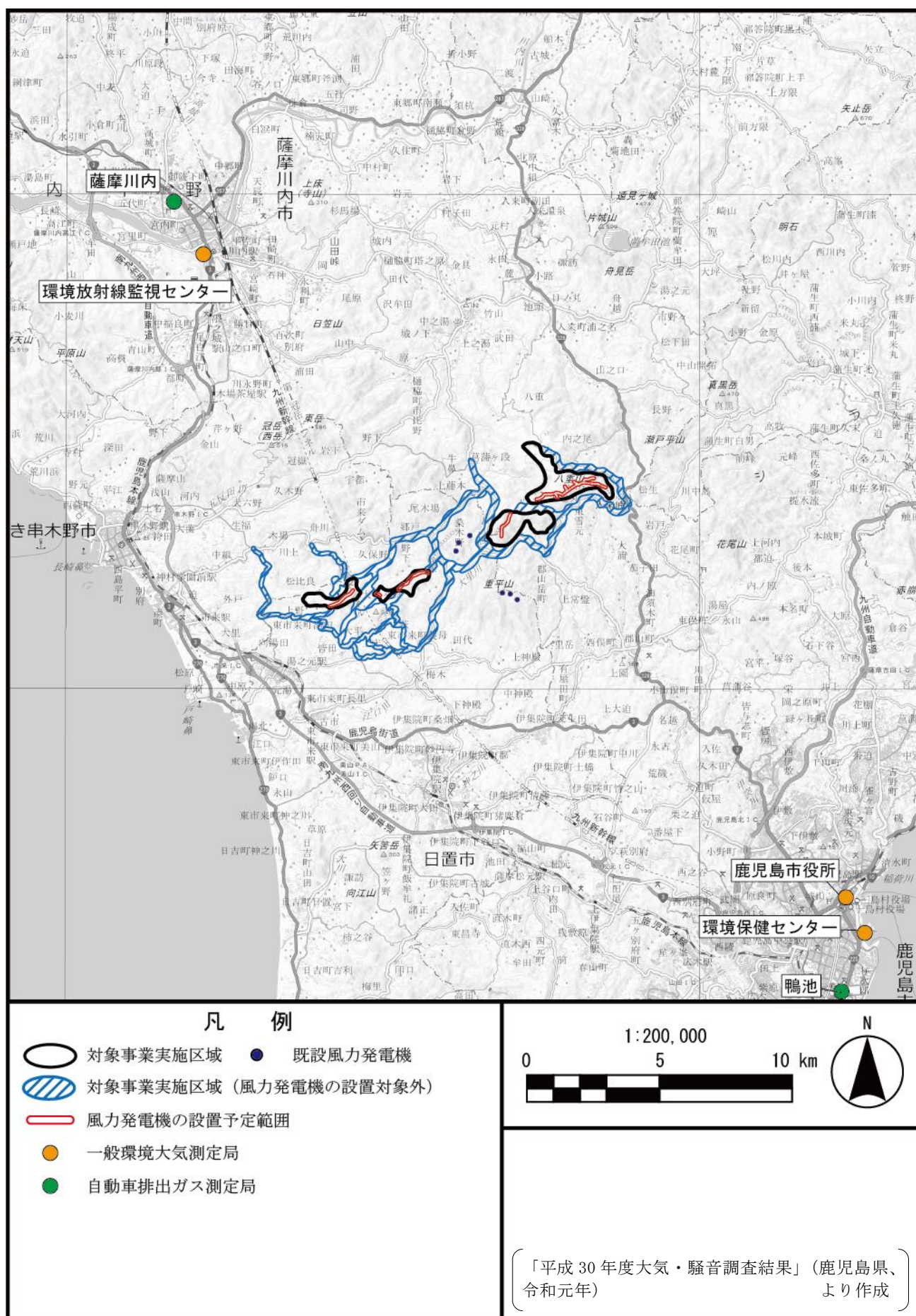


図 3.1-4 大気測定局の位置

(1) 二酸化硫黄

平成 30 年度における二酸化硫黄の測定結果は表 3.1-8 のとおりであり、環境基準を達成している。

また、過去 5 年間ににおける年平均値の経年変化は、表 3.1-9 及び図 3.1-5 のとおりである。

※環境基準とその評価

環境基準：1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

短期的評価：1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

長期的評価：1 時間値の 1 日平均値の年間 2% 除外値が 0.04ppm 以下であること。ただし、1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

表 3.1-8 二酸化硫黄の測定結果（平成 30 年度）

区 分	市	測定局	年平均値	1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数とその割合		1 日平均値が 0.04ppm を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	1 日平均値の年間 2% 除外値	1 日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無
			ppm	時 間	%	日	%	ppm	ppm	有×・無○
一般局	鹿児島市	鹿児島市役所	0.004	5	0.1	0	0.0	0.152	0.012	○
		環境保健センター	0.004	6	0.1	0	0.0	0.218	0.014	○
	薩摩川内市	環境放射線監視センター	0.001	0	0.0	0	0.0	0.061	0.005	○
自排局	鹿児島市	鴨池	0.004	5	0.1	0	0.0	0.188	0.013	○
	薩摩川内市	薩摩川内	0.001	0	0.0	0	0.0	0.054	0.005	○

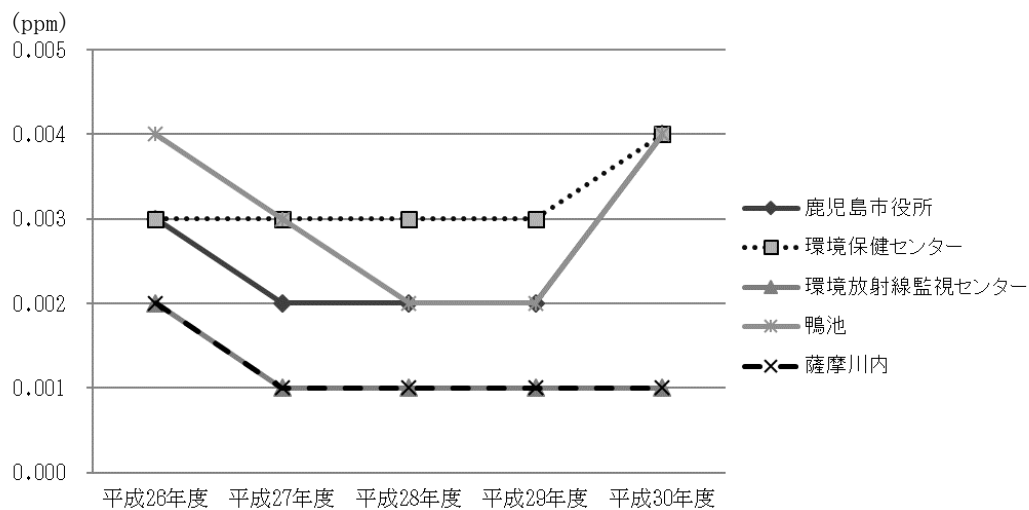
〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕

表 3.1-9 二酸化硫黄の経年変化（平成 26～30 年度）

（単位：ppm）

区 分	市	測定局	項 目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
一般局	鹿児島市	鹿児島市役所	年平均値	0.003	0.002	0.002	0.002	0.004
		環境保健センター		0.003	0.003	0.003	0.003	0.004
	薩摩川内市	環境放射線監視センター		0.002	0.001	0.001	0.001	0.001
自排局	鹿児島市	鴨池		0.004	0.003	0.002	0.002	0.004
	薩摩川内市	薩摩川内		0.002	0.001	0.001	0.001	0.001

〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕



〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕

図 3.1-5 二酸化硫黄の経年変化（平成 26～30 年度）

(2) 二酸化窒素

平成 30 年度における二酸化窒素の測定結果は表 3.1-10 のとおりであり、環境基準を達成している。

また、過去 5 年間ににおける年平均値の経年変化は、表 3.1-11 及び図 3.1-6 のとおりである。

※環境基準とその評価

環境基準：1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内またはそれ以下であること。

長期的評価：1 時間値の 1 日平均値の年間 98% 値が 0.06ppm を超えないこと。

表 3.1-10 二酸化窒素の測定結果（平成 30 年度）

区 分	市	測定局	年平均値	1 時間値					1 日平均値					98%値評価 による 1 日 平均値が 0.06ppm を 超えた日数
				最高値	0.2ppm を超 えた時間数 とその割合		0.1ppm 以上 0.2ppm 以下 の時間数と その割合		0.06ppm を 超えた日数 とその割合		0.04ppm 以 上 0.06ppm 以下の日数 とその割合		年間 98%値	
			ppm	ppm	時間	%	時間	%	日	%	日	%	ppm	
一般局	鹿児島市	鹿児島市役所	0.009	0.045	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.018	0
	薩摩川内市	環境放射線監視 センター	0.004	0.072	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.009	0
自排局	鹿児島市	鴨池	0.012	0.052	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.021	0
	薩摩川内市	薩摩川内	0.008	0.035	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.014	0

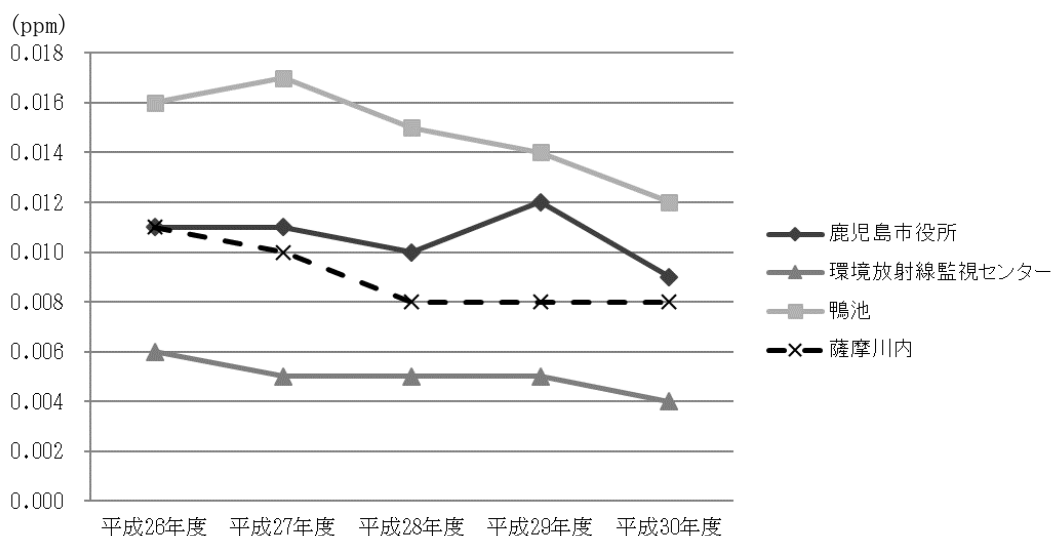
〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕

表 3.1-11 二酸化窒素の経年変化（平成 26～30 年度）

（単位：ppm）

区 分	市	測定局	項 目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
一般局	鹿児島市	鹿児島市役所	年平均値	0.011	0.011	0.010	0.012	0.009
	薩摩川内市	環境放射線監視センター		0.006	0.005	0.005	0.005	0.004
自排局	鹿児島市	鴨池		0.016	0.017	0.015	0.014	0.012
	薩摩川内市	薩摩川内		0.011	0.010	0.008	0.008	0.008

〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕



〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕

図 3.1-6 二酸化窒素の経年変化（平成 26～30 年度）

(3) 浮遊粒子状物質

平成 30 年度における浮遊粒子状物質の測定結果は表 3. 1-12 のとおりであり、環境基準を達成している。

また、過去 5 年間ににおける年平均値の経年変化は、表 3. 1-13 及び図 3. 1-7 のとおりである。

※環境基準とその評価

環境基準：1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であること。

短期的評価：1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であること。

長期的評価：1 時間値の 1 日平均値の年間 2% 除外値が 0.10mg/m³ 以下であること、ただし、1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³ を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

表 3. 1-12 浮遊粒子状物質の測定結果（平成 30 年度）

区 分	市	測定局	年 平 均 値	1 時間値が 0.20mg/m ³ を 超えた時間数と その割合		1 日平均値が 0.10mg/m ³ を 超えた日数と その割合		1 時間値 の最高値	1 日平均値の 年間 2% 除外値	1 日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた 日が 2 日以上連続 したことの有無
			mg/m ³	時 間	%	日	%	mg/m ³	mg/m ³	有×・無○
一般局	鹿児島市	鹿児島市役所	0.014	0	0.0	0	0.0	0.180	0.039	○
		環境保健センター	0.022	0	0.0	0	0.0	0.191	0.059	○
	薩摩川内市	環境放射線 監視センター	0.019	0	0.0	0	0.0	0.142	0.039	○
自排局	鹿児島市	鴨池	0.027	6	0.1	0	0.0	0.347	0.049	○
	薩摩川内市	薩摩川内	0.020	0	0.0	0	0.0	0.116	0.043	○

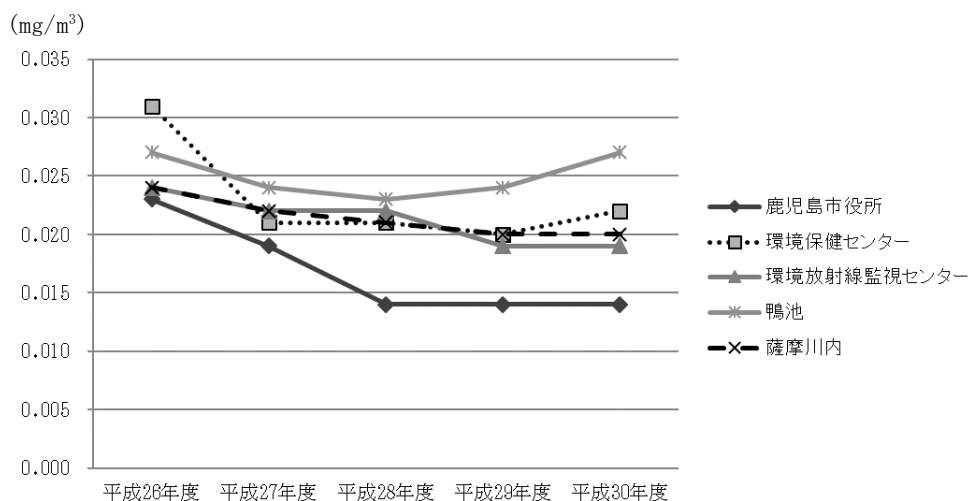
〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕

表 3. 1-13 浮遊粒子状物質の経年変化（平成 26～30 年度）

（単位：mg/m³）

区 分	市	測定局	項 目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
一般局	鹿児島市	鹿児島市役所	年平均値	0.023	0.019	0.014	0.014	0.014
		環境保健センター		0.031	0.021	0.021	0.020	0.022
	薩摩川内市	環境放射線監視センター		0.024	0.022	0.022	0.019	0.019
自排局	鹿児島市	鴨池		0.027	0.024	0.023	0.024	0.027
	薩摩川内市	薩摩川内		0.024	0.022	0.021	0.020	0.020

〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕



〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕

図 3. 1-7 浮遊粒子状物質の経年変化（平成 26～30 年度）

(4)一酸化炭素

平成 30 年度における一酸化炭素の測定結果は表 3.1-14 のとおりであり、環境基準を達成している。

また、過去 5 年間ににおける年平均値の経年変化は、表 3.1-15 及び図 3.1-8 のとおりである。

※環境基準とその評価

環境基準：1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。

短期的評価：1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。

長期的評価：1 日平均値の 2%除外値が 10ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 10ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

表 3.1-14 一酸化炭素の測定結果（平成 30 年度）

区分	市	測定局名	年平均値	8 時間値が 20ppm を超えた回数とその割合		1 日平均値が 10ppm を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	1 日平均値の年間 2% 除外値	1 日平均値が 10ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による 1 日平均値が 10ppm を超えた日数
			ppm	回	%	日	%	ppm	ppm	有×・無○	日
自排局	鹿児島市	鴨池	0.2	0	0.0	0	0.0	2.2	0.4	○	0
	薩摩川内市	薩摩川内	0.1	0	0.0	0	0.0	1.7	0.3	○	0

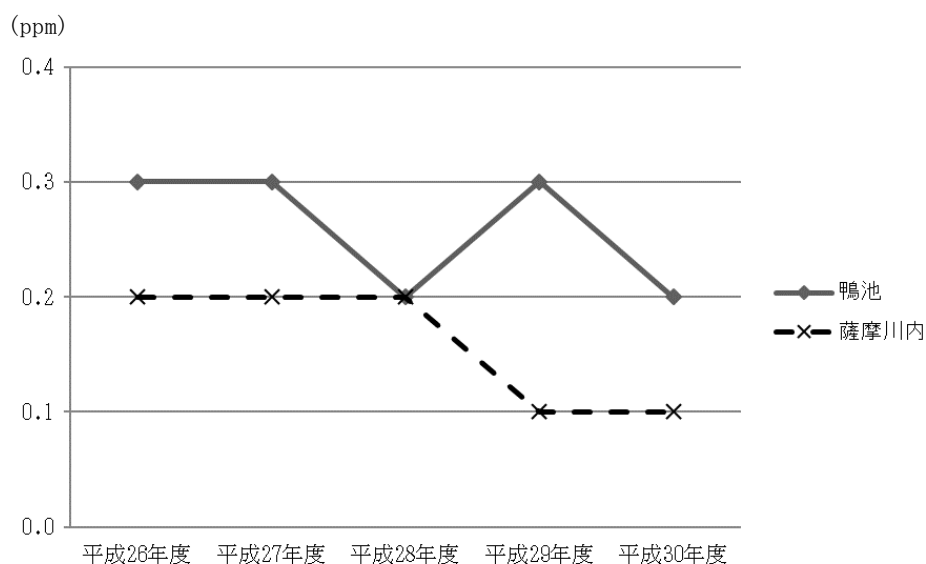
〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕

表 3.1-15 一酸化炭素の経年変化（平成 26～30 年度）

（単位：ppm）

区 分	市	測定局	項 目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
自排局	鹿児島市	鴨池	年平均値	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2
	薩摩川内市	薩摩川内	年平均値	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1

〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕



〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕

図 3.1-8 一酸化炭素の経年変化（平成 26～30 年度）

(5) 微小粒子状物質

平成 30 年度における微小粒子状物質の測定結果は表 3.1-16 のとおりであり、鹿児島市役所局及び薩摩川内局ともに環境基準を達成していない。

また、過去 5 年間に於ける 1 年平均値の経年変化は、表 3.1-17 及び図 3.1-9 のとおりである。

※環境基準とその評価

環境基準：1 年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

短期基準：1 日平均値のうち年間 98 パーセンタイル値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

長期基準：1 年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

表 3.1-16 微小粒子状物質の測定結果（平成 30 年度）

区分	市	測定局	有効 測定日数	1 年平均値 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	1 日平均値		
					年間 98 パーセンタイル値 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合	
			日			日	%
一般局	鹿児島市	鹿児島市役所	352	15.5	31.2	2	0.6
自排局	鹿児島市	鴨池	363	15.5	33.6	5	1.4
	薩摩川内市	薩摩川内	365	15.1	29.5	3	0.8

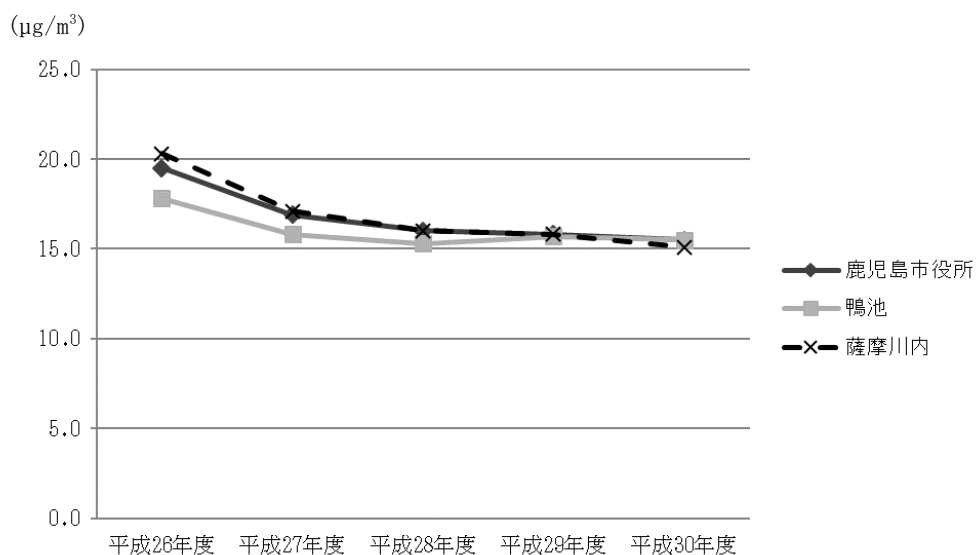
〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成

表 3.1-17 微小粒子状物質の経年変化（平成 26～30 年度）

（単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）

区 分	市	測定局	項 目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
一般局	鹿児島市	鹿児島市役所	1 年平均値	19.5	16.9	16.0	15.8	15.5
自排局	鹿児島市	鴨池		17.8	15.8	15.3	15.7	15.5
	薩摩川内市	薩摩川内		20.3	17.1	16.0	15.8	15.1

〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成



〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成

図 3.1-9 微小粒子状物質の経年変化（平成 26～30 年度）

(6) 光化学オキシダント

平成 30 年度における光化学オキシダントの測定結果は表 3.1-18 のとおりであり、すべての測定局で環境基準を達成していない。

また、過去 5 年間ににおける昼間の 1 時間値の年平均値の経年変化は、表 3.1-19 及び図 3.1-10 のとおりである。

※環境基準とその評価

環境基準：1 時間値が 0.06ppm 以下であること。

環境基準の評価：昼間（5 時～20 時まで）の時間帯において、1 時間値が 0.06ppm 以下であること。

表 3.1-18 光化学オキシダントの測定結果（平成 30 年度）

区分	市	測定局	昼間 測定 日数	昼間 測定 時間	年平均値	昼間の 1 時間値 が 0.06ppm を 超えた日数と 時間数		昼間の 1 時間値 が 0.12ppm を 超えた 日数と時間数		昼間の 1 時間値の 最高値	日最高 1 時間値の 年平均値
			日	時 間	ppm	日	時 間	日	時 間	ppm	ppm
一般局	鹿児島市	鹿児島市役所	352	5,225	0.029	36	149	0	0	0.090	0.042
		環境保健センター	365	5,461	0.025	17	60	0	0	0.088	0.038
	薩摩川内市	環境放射線監視 センター	365	5,454	0.032	47	233	0	0	0.098	0.045

注：昼間の測定時間は 5 時～20 時である。

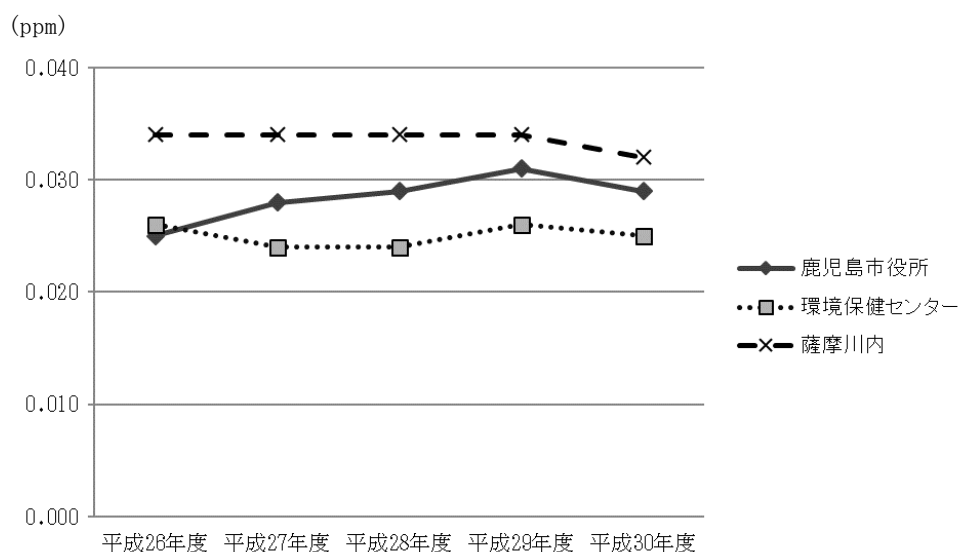
〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕

表 3.1-19 光化学オキシダントの経年変化（平成 26～30 年度）

（単位：ppm）

区 分	市	測定局	項 目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
一般局	鹿児島市	鹿児島市役所	昼間の 1 時間値の 年平均値	0.025	0.028	0.029	0.031	0.029
		環境保健センター		0.026	0.024	0.024	0.026	0.025
	薩摩川内市	環境放射線監視 センター		0.034	0.034	0.034	0.034	0.032

〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕



〔平成 30 年度大気・騒音調査結果〕（鹿児島県、令和元年）より作成〕

図 3.1-10 光化学オキシダントの経年変化（平成 26～30 年度）

(7) 大気汚染に係る苦情の発生状況

大気汚染に係る公害苦情の受理件数は、「令和元年版環境白書」（鹿児島県、令和元年）によると、平成 30 年度は日置市、いちき串木野市及び始良市が 0 件、鹿児島市が 8 件、薩摩川内市が 21 件である。

3. 騒音の状況

(1) 環境騒音の状況

対象事業実施区域及びその周囲における一般環境騒音の状況について、平成 30 年度の調査結果は表 3.1-20、測定地点は図 3.1-11 のとおりである。いちき串木野市及び始良市において公表された調査結果はない。

表 3.1-20 一般環境騒音の調査結果（平成 30 年度）

（単位：デシベル（A））

市	測定地点	用途 地域	環境基準 類型	測定値(L _{Aeq})		環境基準		達成状況		
				昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼夜
日置市	伊集院町	1 中	A	49	43	55	45	○	○	○

〔「平成 30 年度大気・騒音調査結果」（鹿児島県、令和元年）より作成〕

(2) 自動車騒音の状況

日置市、鹿児島市、薩摩川内市、いちき串木野市及び始良市の自動車騒音の状況について、平成 30 年度は表 3.1-21 のとおり、騒音測定が実施されている。

表 3.1-21 自動車騒音常時監視結果（平成 30 年度）

実施主体	区 分	評価 区間 延長 (km)	評価 区間数 (区間)	評価結果（全体）						
				住居等 戸数 (戸)	昼・夜		昼 間		夜 間	
					達成戸数 (戸)	達成率 (%)	達成戸数 (戸)	達成率 (%)	達成戸数 (戸)	達成率 (%)
日置市	一般国道	23.2	21	1,072	1,054	98.3	1,065	99.3	1,054	98.3
	県 道	5.9	9	724	724	100.0	724	100.0	724	100.0
	合 計	29.1	30	1,796	1,778	99.0	1,789	99.6	1,778	99.0
鹿児島市	高速自動車国道	18.7	12	763	751	98.4	751	98.4	751	98.4
	一般国道	101.8	87	15,984	13,059	81.7	13,219	82.7	13,292	83.2
	県 道	268.0	189	28,405	26,583	93.6	26,689	94.0	27,292	96.1
	市町村道	20.8	21	15,683	15,314	97.6	15,363	98.0	15,500	98.8
	合 計	409.3	309	60,835	55,707	91.6	56,022	92.1	56,835	93.4
薩摩川内市	一般国道	1.7	4	209	209	100.0	209	100.0	209	100.0
	合 計	1.7	4	209	209	100.0	209	100.0	209	100.0
いちき 串木野市	一般国道	17.7	15	1,173	1,097	93.5	1,097	93.5	1,172	99.9
	県 道	13.3	12	554	554	100.0	554	100.0	554	100.0
	合 計	31.0	27	1,727	1,651	95.6	1,651	95.6	1,726	99.9
始良市	一般国道	8.4	5	405	403	99.5	405	100.0	403	99.5
	合 計	8.4	5	405	403	99.5	405	100.0	403	99.5

〔「平成 30 年度大気・騒音調査結果」（鹿児島県、令和元年）より作成〕

(3) 新幹線鉄道騒音の状況

対象事業実施区域及びその周囲における新幹線鉄道騒音の状況について、平成 30 年度の調査結果は表 3.1-22、測定地点は図 3.1-11 のとおりであり、日置市東市来町養母、日置市伊集院町下神殿及びいちき串木野市冠岳は環境基準を達成していない。

表 3.1-22 新幹線鉄道（九州新幹線）騒音の調査結果（平成 30 年度）

測定地点	類 型	測定値（デシベル）	環境基準（デシベル）
日置市東市来町養母	I	72	70 以下
日置市伊集院町下神殿	I	75	70 以下
日置市伊集院町郡	I	70	70 以下
いちき串木野市冠岳	I	71	70 以下

〔「平成 30 年度九州新幹線鉄道に係る騒音・振動調査結果について」（鹿児島県、令和元年）より作成〕

(4) 騒音に係る苦情の発生状況

騒音に係る公害苦情受理件数は、「令和元年版環境白書」（鹿児島県、令和元年）によると、平成 30 年度は日置市、いちき串木野市及び姶良市が 0 件、鹿児島市が 54 件、薩摩川内市が 10 件である。

4. 振動の状況

(1) 環境振動の状況

対象事業実施区域及びその周囲における環境振動の状況について、鹿児島県、日置市、鹿児島市、薩摩川内市、いちき串木野市及び姶良市において公表された測定結果はない。

(2) 道路交通振動の状況

対象事業実施区域及びその周囲における道路交通振動の状況について、鹿児島県、日置市、鹿児島市、薩摩川内市、いちき串木野市及び姶良市において公表された測定結果はない。

(3) 振動に係る苦情の発生状況

振動に係る公害苦情受理件数は、「令和元年版環境白書」（鹿児島県、令和元年）によると、平成 30 年度は日置市、いちき串木野市及び姶良市が 0 件、鹿児島市が 8 件、薩摩川内市が 1 件である。

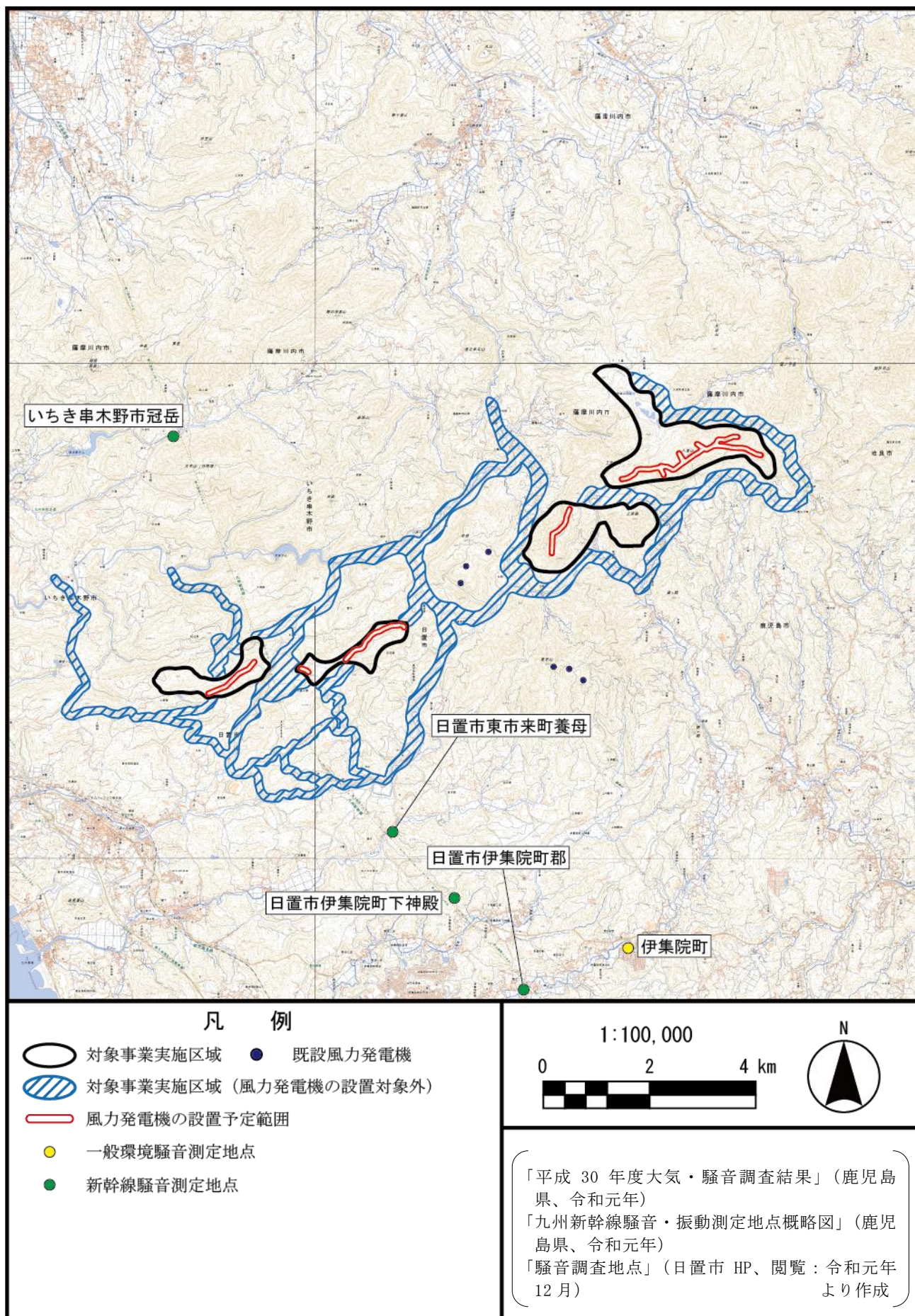


図 3.1-11 騒音測定地点

3.1.2 水環境の状況

1. 水象の状況

(1) 河川

対象事業実施区域及びその周囲における主要な河川の状況は、図 3.1-12 のとおりである。
対象事業実施区域の北側には一級河川川内川水系の市比野川、武田川、城後川等が、西側には二級河川八房川水系の八房川、二級河川大里川水系の大里川が、南側には二級河川神之川水系の神之川、二級河川甲突川水系の甲突川等がある。

(2) 海域

対象事業実施区域及びその周囲における海域の状況は、図 3.1-12 のとおり薩摩半島西部海域がある。

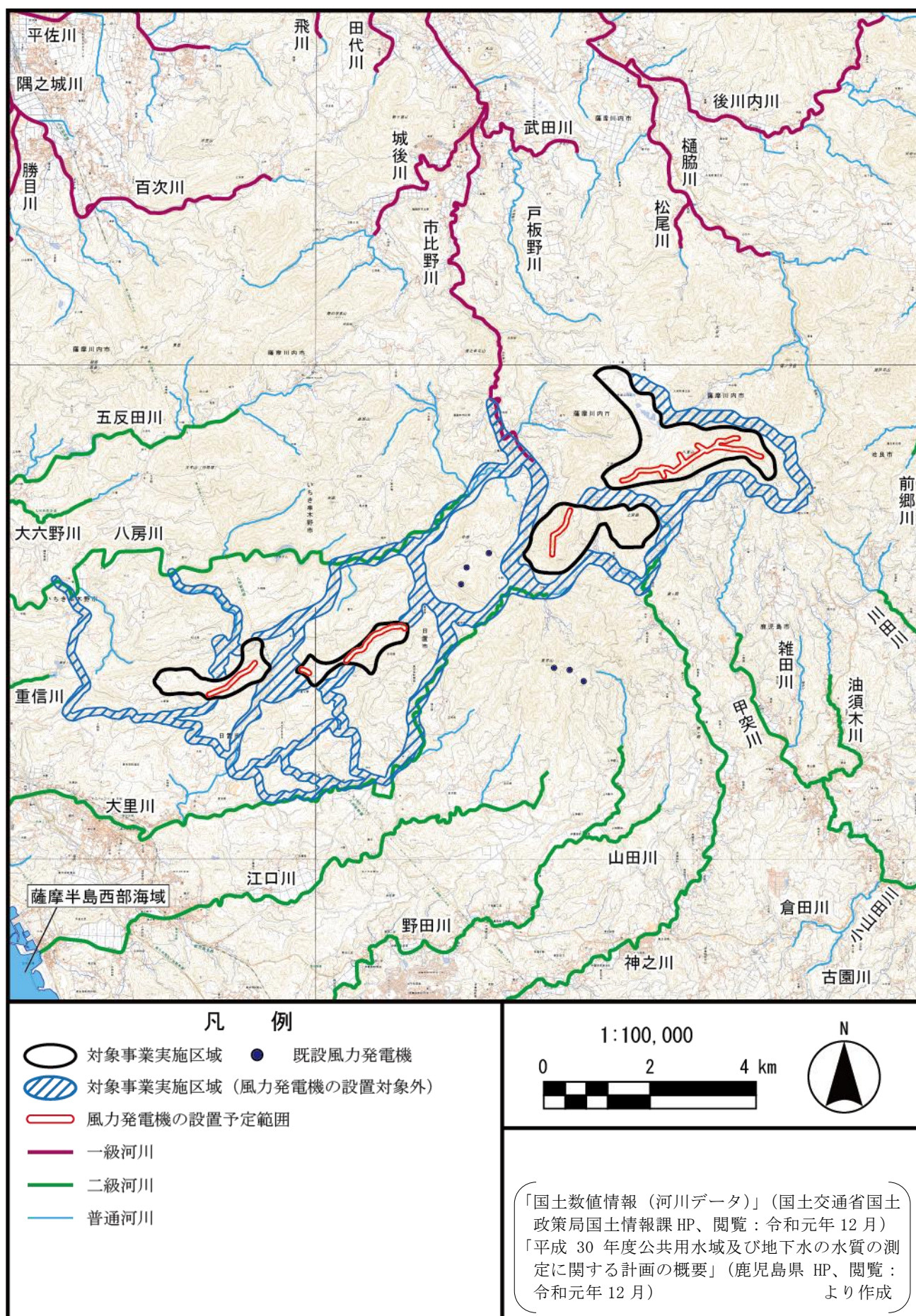


図 3.1-12 主要な河川及び海域の状況

2. 水質の状況

(1) 河川の水質

対象事業実施区域及びその周囲における河川の水質の状況として、平成 30 年度の水質測定結果は表 3.1-23、測定地点は図 3.1-13 のとおりである。

表 3.1-23(1) 河川の水質測定結果（健康項目）

水域名		八房川				環境基準
地点名		川上橋				
測定項目	単 位	最大値	平均値	m	n	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.55	0.55	0	1	10 以下

注：「m」は環境基準値を超える検体数、「n」は総検体数を示す。

〔「平成 30 年度公共用水域の水質測定結果」（鹿児島県 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成〕

表 3.1-23(2) 河川の水質測定結果（生活環境項目）

水域名	地点名	類型	水素イオン濃度(pH)				溶存酸素量(DO) (mg/L)				
			最小値	最大値	m	n	最小値	最大値	m	n	日間平均値
											平均値
八房川	川上橋	A	7.4	7.5	0	6	6.9	11	5	6	9
環境基準値		A	6.5 以上 8.5 以下				7.5 以上				

水域名	地点名	類型	生物化学的酸素要求量(BOD) (mg/L)						
			日間平均値						
			最小値	最大値	x	y	平均値	75%値	
八房川	川上橋	A	<0.5	0.8	0	6	0.6	0.7	
環境基準値		A	2 以下						

水域名	地点名	類型	浮遊物質(SS) (mg/L)					大腸菌群数 (MPN/100mL)				
			最小値	最大値	m	n	日間平均値	最小値	最大値	m	n	日間平均値
							平均値					平均値
八房川	川上橋	A	<1	4	0	6	2	3,300	33,000	6	6	12,000
環境基準値		A	25 以下					1,000 以下				

注：1. 「m」は環境基準値を超える検体数、「n」は総検体数を示す。

2. 「x」は環境基準に値しない日数、「y」は総観測日を示す。

3. 「<」は定量下限値未満であることを示す。

〔「平成 30 年度公共用水域の水質測定結果」（鹿児島県 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成〕

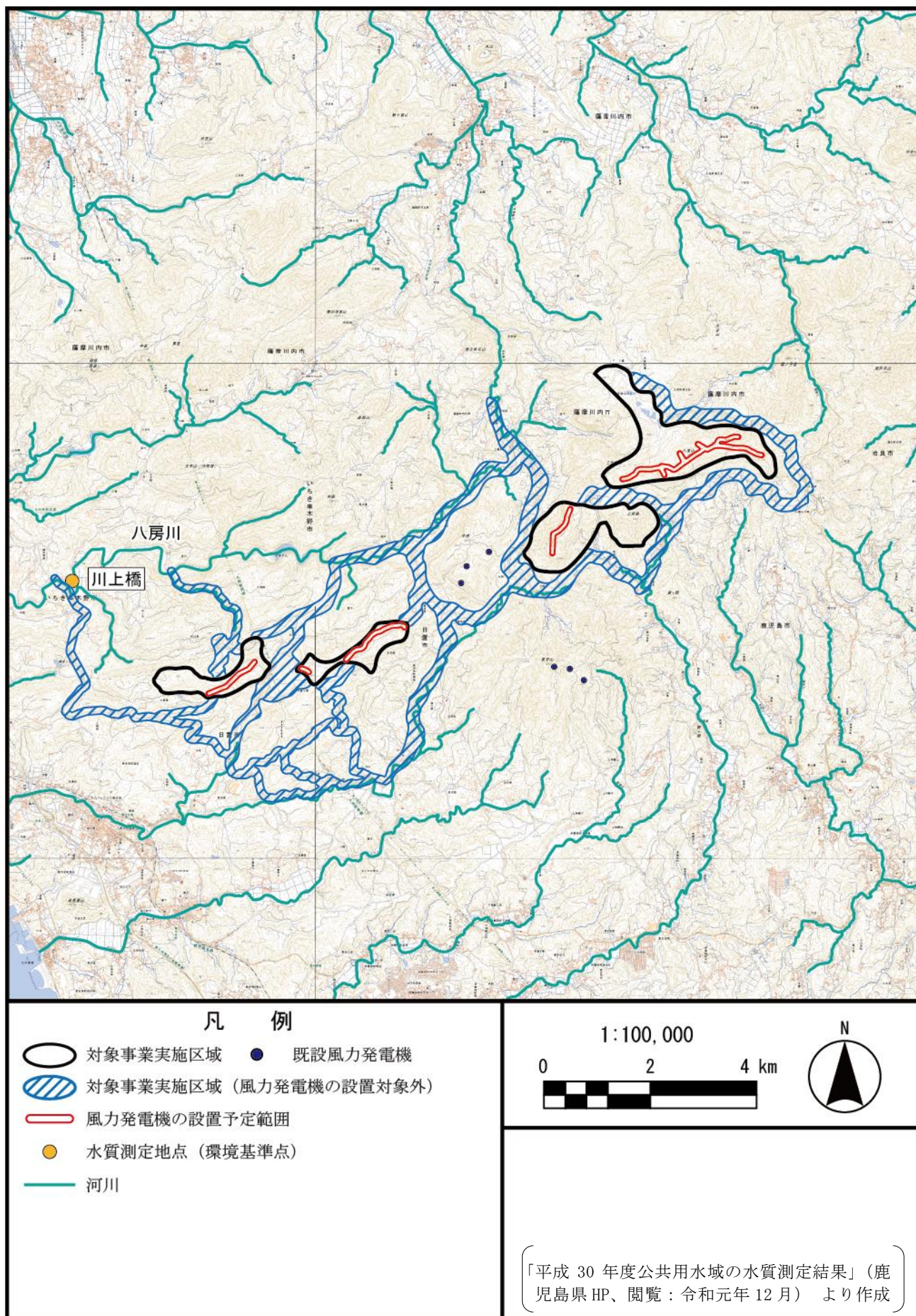


図 3.1-13 水質測定地点

(2) 海域の水質

対象事業実施区域の周囲の海域において、水質測定は実施されていない。

(3) 地下水の水質

対象事業実施区域及びその周囲における地下水の水質の状況として、平成 29 年度は継続監視調査が薩摩川内市樋脇町市比野で、概況調査（ローリング方式）が日置市日吉町日置、薩摩川内市樋脇町市比野及び入来町浦之名で、概況調査（定点方式）がいちき串木野市湊町で行われている。測定結果は表 3.1-24 のとおりである。

表 3.1-24(1) 地下水水質の測定結果（平成 29 年度）

市町名		薩摩川内市			環境基準
地区名		樋脇町市比野	樋脇町市比野	樋脇町市比野	
調査区分		継続監視調査	継続監視調査	継続監視調査	
用途		その他	その他	生活用水	
測定項目		測定値			
カドミウム	mg/L	—	—	—	0.003mg/L 以下
全シアン	mg/L	—	—	—	検出されないこと
鉛	mg/L	—	—	—	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	—	—	—	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	—	—	0.004	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	—	—	—	0.0005 mg/L 以下
PCB	mg/L	—	—	—	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	—	—	—	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	—	—	—	0.002 mg/L 以下
クロロエチレン	mg/L	—	—	—	0.002 mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	—	—	—	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	—	—	—	0.1 mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	—	—	—	0.04 mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	—	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	—	—	—	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	0.002	0.003	—	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	—	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	—	—	—	0.002 mg/L 以下
チウラム	mg/L	—	—	—	0.006 mg/L 以下
シマジン	mg/L	—	—	—	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	—	—	—	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	—	—	—	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	—	—	—	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	—	—	—	10 mg/L 以下
ふっ素	mg/L	—	—	—	0.8 mg/L 以下
ほう素	mg/L	—	—	—	1 mg/L 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	—	—	—	0.05 mg/L 以下

注：1. 「<」は定量下限値未満であることを示す。

2. 「—」は出典に未記載の項目を示す。

〔平成 29 年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果〕（鹿児島県 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成]

表 3.1-24(2) 地下水水質の測定結果（平成 29 年度）

市町名		日置市	薩摩川内市		いちき串木野市	環境基準
地区名		日吉町日置	樋脇町市比野	入来町浦之名	湊町	
調査区分		概況調査 (ローリング方式)	概況調査 (ローリング方式)	概況調査 (ローリング方式)	概況調査 (定点方式)	
用途		一般飲用	一般飲用	一般飲用	生活用水	
測定項目		測定値				
カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	－	0.003mg/L 以下
全シアン	mg/L	N. D.	N. D.	N. D.	－	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	－	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	－	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.006	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.00005	<0.00005	<0.00005	－	0.0005 mg/L 以下
PCB	mg/L	－	－	－	－	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	－	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	－	0.002 mg/L 以下
クロロエチレン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	－	0.002 mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	－	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	－	0.1 mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	－	0.04 mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	－	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	－	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	－	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	－	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	－	0.002 mg/L 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	－	0.006 mg/L 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	－	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	－	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	－	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	－	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	2.1	0.17	0.36	－	10 mg/L 以下
ふっ素	mg/L	0.11	<0.08	<0.08	－	0.8 mg/L 以下
ほう素	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	－	1 mg/L 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	－	0.05 mg/L 以下

注：1. 「<」は定量下限値未満であることを示す。

2. 「—」は出典に未記載の項目を示す。

3. 「N. D.」は検出されないことを示す。

〔平成 29 年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果〕（鹿児島県 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成〕

(4) 水質に係る苦情の発生状況

水質汚濁に係る公害苦情受理件数は、「令和元年版環境白書」（鹿児島県、令和元年）によると、平成 30 年度は日置市、いちき串木野市及び姶良市が 0 件、鹿児島市が 24 件、薩摩川内市が 3 件である。

3. 水底の底質の状況

鹿児島県、国、市町及び一部事務組合では「ダイオキシン類対策特別措置法」（平成 11 年法律第 105 号、最終改正：平成 26 年 6 月 18 日）に基づき、ダイオキシン類による汚染の状況を調査している。「平成 30 年度ダイオキシン類対策特別措置法に基づく常時監視結果について」

（鹿児島県 HP、閲覧：令和元年 12 月）によると平成 30 年度は、公共用水域の底質について 14 地点で調査を実施しており、すべての地点で環境基準を達成している。

なお、対象事業実施区域及びその周囲において、調査は実施されていない。

3.1.3 土壌及び地盤の状況

1. 土壌の状況

(1) 土壌

対象事業実施区域及びその周囲における、土壌の状況は図 3.1-14 のとおりである。

対象事業実施区域は主に黒ボク土壌、淡色黒ボク土壌、乾性褐色森林土壌、褐色森林土壌等からなっている。

(2) 土壌汚染

「土壌汚染対策法」（平成 14 年法律第 53 号、最終改正：平成 29 年 6 月 2 日）に基づく要措置区域及び形質変更時要届出区域の指定について、「土壌汚染対策法に基づく要措置区域・形質変更時要届出区域」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）によると、令和元年 12 月 31 日現在、対象事業実施区域及びその周囲において、要措置区域及び形質変更時要届出区域の指定はされていない。

(3) 土壌汚染に係る苦情の発生状況

土壌汚染に係る公害苦情受理件数は、「令和元年版環境白書」（鹿児島県、令和元年）によると、平成 30 年度は日置市、鹿児島市、いちき串木野市及び姶良市が 0 件、薩摩川内市が 2 件である。

2. 地盤の状況

(1) 地盤沈下の状況

「平成 29 年度 全国の地盤沈下地域の概況」（環境省、平成 31 年）によると、日置市、鹿児島市、薩摩川内市、いちき串木野市及び姶良市において地盤沈下は確認されていない。

(2) 地盤沈下に係る苦情の発生状況

地盤沈下に係る公害苦情受理件数は、「令和元年版環境白書」（鹿児島県、令和元年）によると、平成 30 年度は日置市、鹿児島市、薩摩川内市、いちき串木野市、姶良市ともに 0 件である。

3.1.4 地形及び地質の状況

1. 地形の状況

対象事業実施区域及びその周囲における地形の状況は図 3.1-15 のとおりである。

対象事業実施区域は主に中起伏火山地、小起伏火山地、丘陵地Ⅱ等からなっている。

2. 地質の状況

対象事業実施区域及びその周囲における表層地質の状況は図 3.1-16 のとおりである。

対象事業実施区域は安山岩質岩石、玄武岩質岩石、ローム等が分布している。

3. 重要な地形・地質

対象事業実施区域及びその周囲における重要な地形・地質として以下を対象として抽出した。

- ・「日本の地形レッドデータブック第 1、2 集」（日本の地形レッドデータブック作成委員会、平成 12、14 年）に掲載されている地形
- ・「日本の典型地形」（（財）日本地図センター、平成 11 年）に掲載されている地形
- ・「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」（環境庁、平成元年）に掲載されている地形、地質、自然現象に係る自然景観資源
- ・「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：平成 30 年 6 月 8 日）に定める史跡、名勝、天然記念物のうち地形・地質に関するもの

対象事業実施区域及びその周囲における、「日本の地形レッドデータブック第 1 集、第 2 集」（日本の地形レッドデータブック作成委員会、平成 12、14 年）において選定された地形はない。

対象事業実施区域及びその周囲における、「日本の典型地形」（（財）日本地図センター、平成 11 年）による典型地形はない。

対象事業実施区域及びその周囲における、「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」（環境庁、平成元年）による自然景観資源の分布は、表 3.1-25 及び図 3.1-17 のとおりであり、「八原高原」、「高塚台地」等がある。

対象事業実施区域及びその周囲における、「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：平成 30 年 6 月 8 日）により指定されている重要な地形及び地質はない。

表 3.1-25 重要な地形・地質（自然景観資源）

区 分	名 称
火山群	藺牟田火山
	始良火山
非火山性高原	八原高原
	高塚台地
非火山性孤峰	丸山
	遠見番山
断崖・岩壁	仙人岳
	岩下の断崖
	清浦南部の断崖
	清浦の断崖
岩峰・岩柱	子授け岩
峡谷・溪谷	清浦近くの溪谷
滝	轟滝
	藤本滝
	三方塚山近くの滝
	平木場近くの滝
	湯の滝
海食崖	江口蓬莱
節理	材木岩

〔「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」（環境庁、平成元年）より作成〕

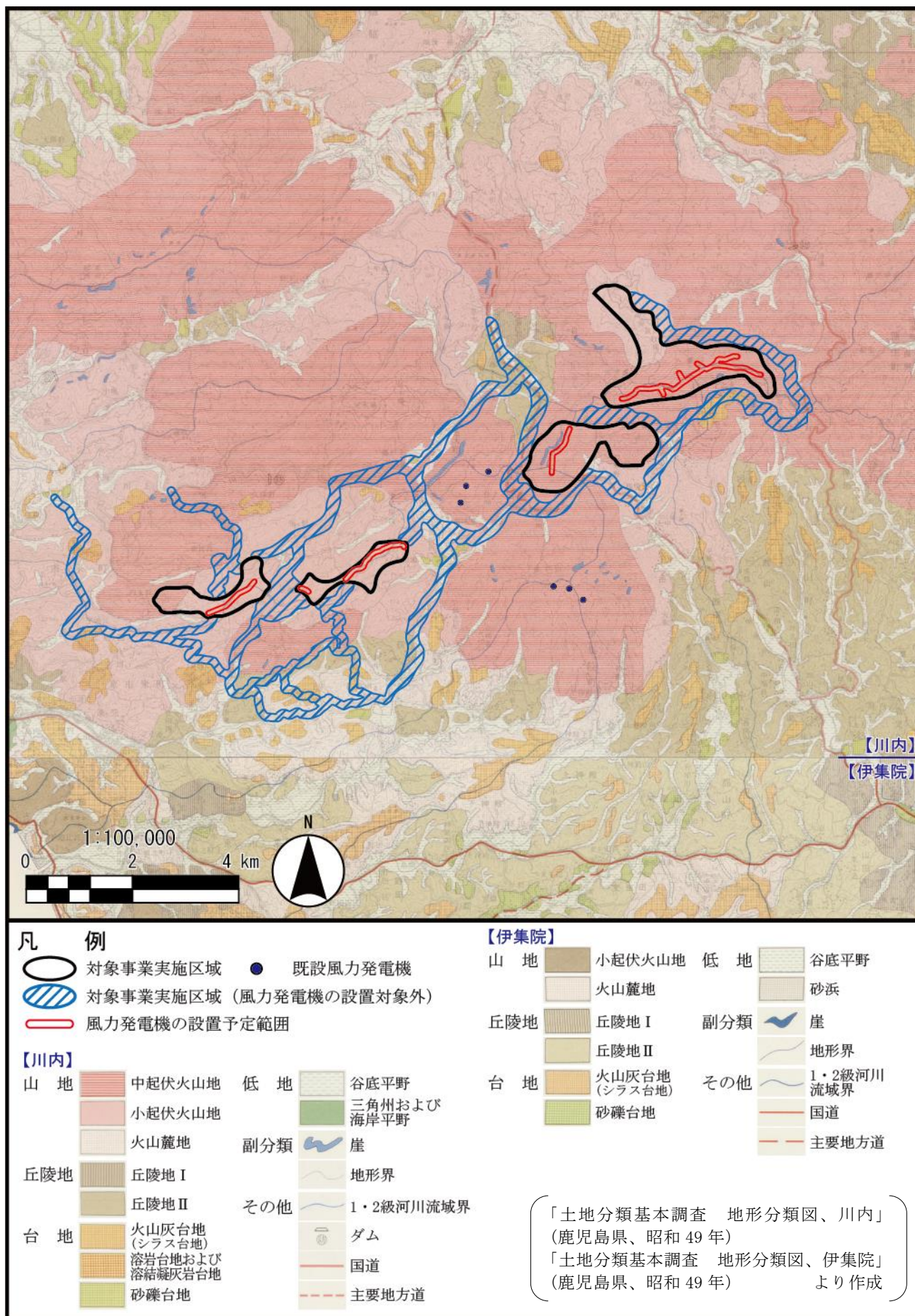


図 3.1-15 地形分類図

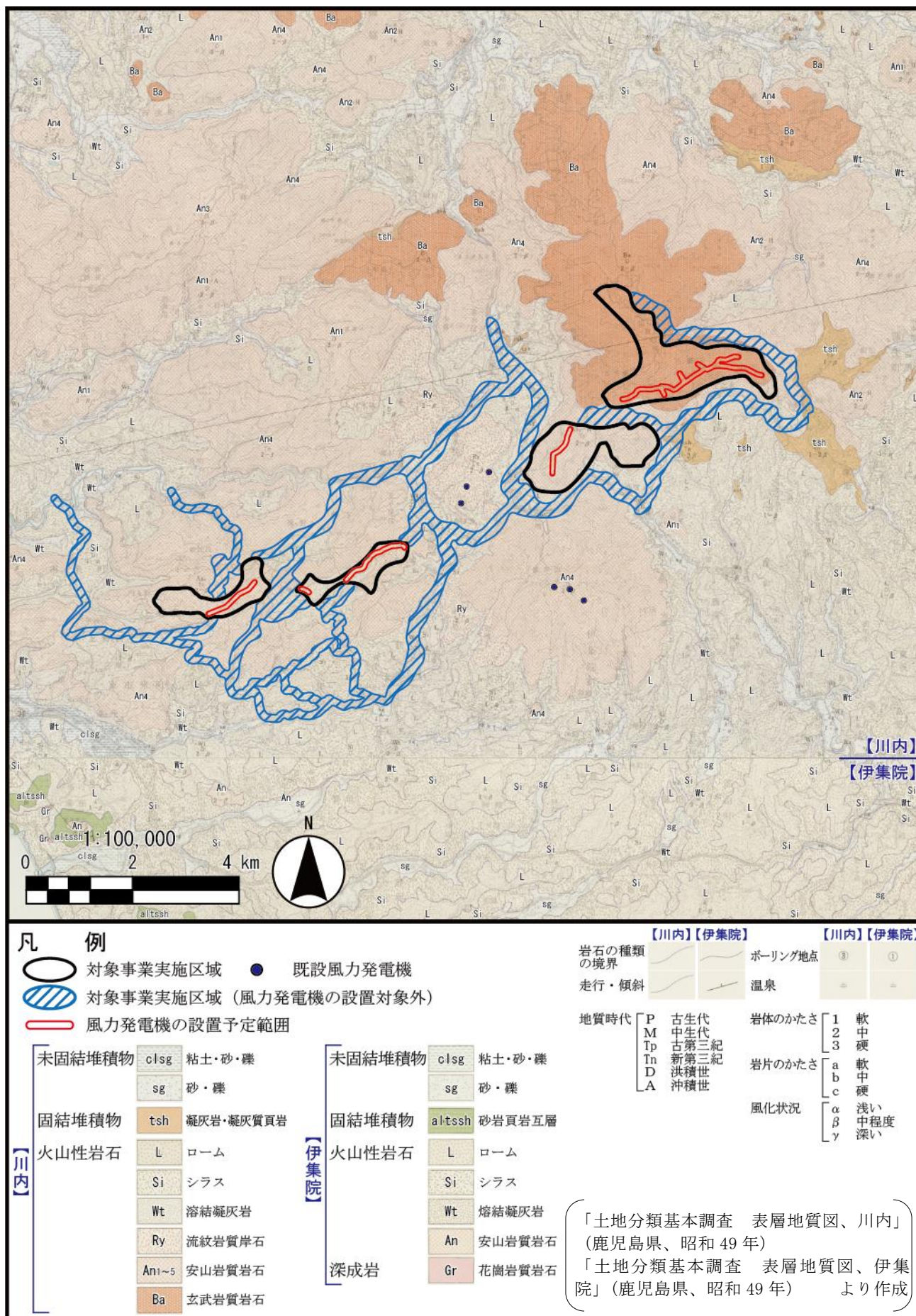


図 3.1-16 表層地質図

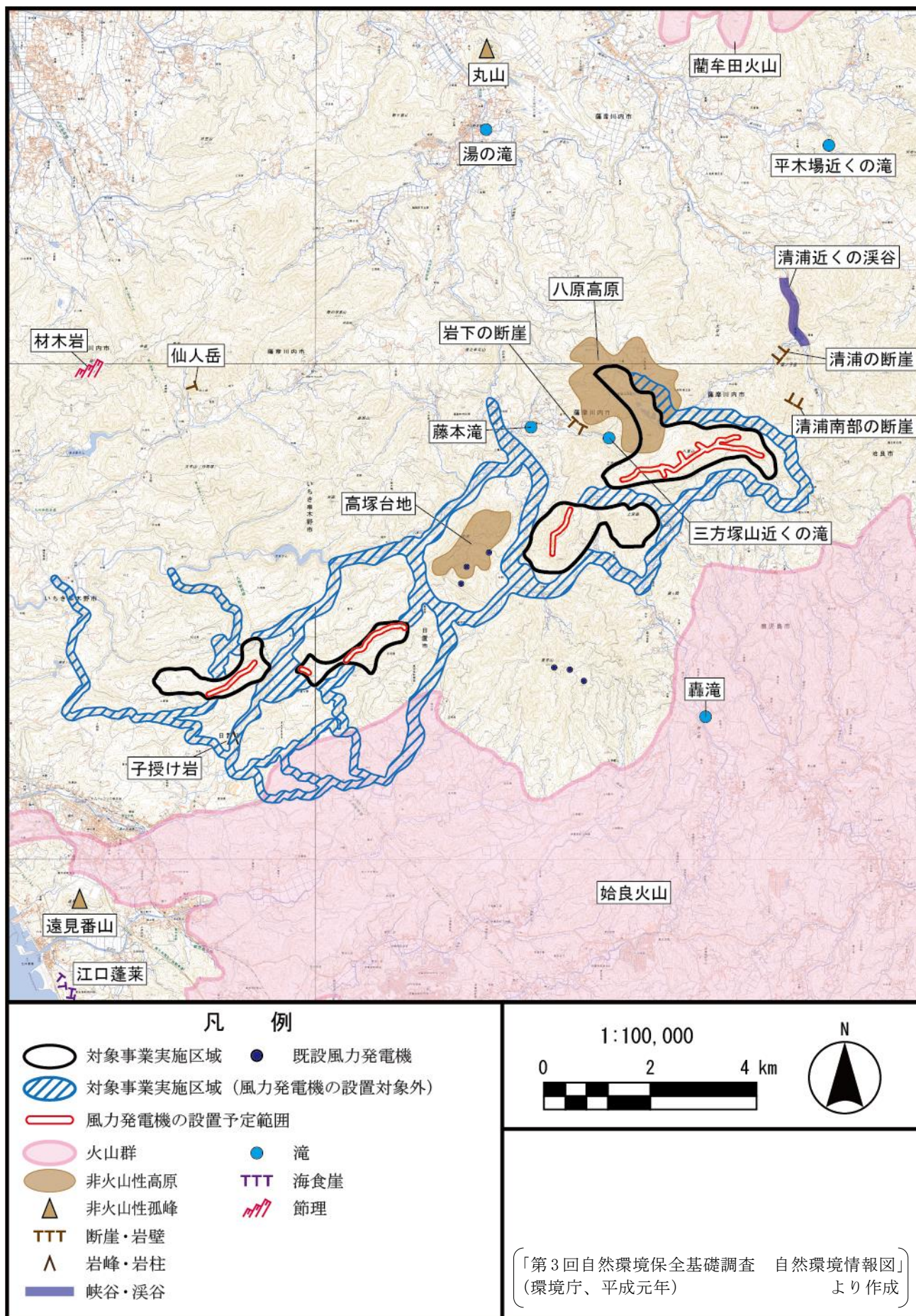


図 3.1-17 重要な地形・地質の状況 (自然景観資源)

3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

1. 動物の生息の状況

動物の生息状況は、当該地域の自然特性を勘案し、対象事業実施区域及びその周囲を対象に、文献その他の資料（「改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編－鹿児島県レッドデータブック 2016－」（鹿児島県、平成 28 年）等）により整理した。

対象事業実施区域及びその周囲における確認種を抽出した文献その他の資料による調査範囲は、表 3.1-26 及び図 3.1-18 のとおりである。

表 3.1-26 文献その他の資料による調査範囲（動物）

文献その他の資料名	調査範囲
「生物多様性情報システム－基礎調査データベース検索－（第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書）」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）	対象事業実施区域が含まれる二次メッシュ※
「生物多様性情報システム－基礎調査データベース検索－（第 3 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書）」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）	対象事業実施区域が含まれる二次メッシュ※
「生物多様性情報システム－基礎調査データベース検索－（第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書）」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）	対象事業実施区域が含まれる二次メッシュ※
「生物多様性情報システム－基礎調査データベース検索－（第 5 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書）」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）	対象事業実施区域が含まれる二次メッシュ※
「生物多様性情報システム－基礎調査データベース検索－（第 6 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書）」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）	対象事業実施区域が含まれる二次メッシュ※
「第 6 回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書」（環境省、平成 16 年）	対象事業実施区域が含まれる 1/50,000 地形図に相当する範囲
「生物多様性情報システム－ガンカモ類の生息調査－平成 20～29 年度調査」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）	対象事業実施区域及びその周辺の調査地点
「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）	対象事業実施区域を含む分布図の対象メッシュ
「環境省報道発表資料－希少猛禽類調査（イヌワシ・クマタカ）の結果について」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）	対象事業実施区域を含む分布図の対象メッシュ
「環境アセスメントデータベース EADAS（イーダス）」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）	対象事業実施区域及びその周辺
「改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編－鹿児島県レッドデータブック 2016－」（鹿児島県、平成 28 年）	日置市、鹿児島市、薩摩川内市、いちき串木野市、姶良市（旧市町村含む）
「東市来町誌」（東市来町、平成 17 年）	旧東市来町
「入来町誌 上巻」（入来町、昭和 39 年）	旧入来町
「川内の生物」（川内町、昭和 56 年）	旧川内町
「姶良市誌」（姶良市、平成 31 年）	姶良市

注：表中の※については、以下のとおり。

※：二次メッシュは、国土地理院発行の 1/25,000 の地形図の図郭割の範囲に相当する。

(1) 動物相の概要

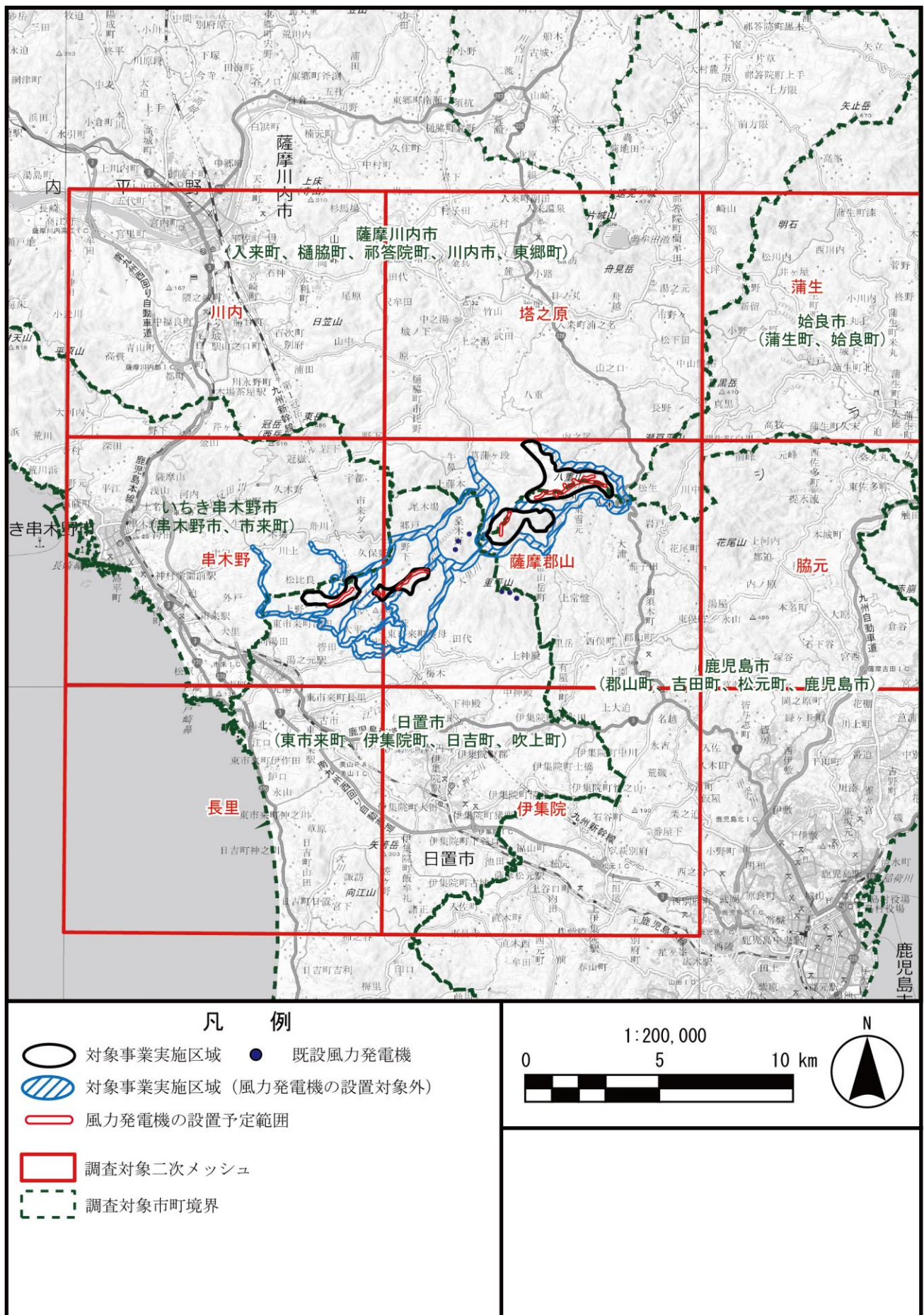
対象事業実施区域及びその周囲の動物相の概要は、表 3.1-27 のとおりであり、哺乳類 30 種、鳥類 255 種、爬虫類 15 種、両生類 12 種、昆虫類 528 種、陸産貝類 40 種、魚類 65 種、底生動物 61 種の合計 1,006 種が確認されている。

表 3.1-27 動物相の概要

分 類	主な確認種
哺乳類	カワネズミ、ヒミズ、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ニホンザル、ノウサギ、ムササビ、カヤネズミ、タヌキ、キツネ、テン、イノシシ、ニホンジカ、カモシカ等 (30 種)
鳥 類	キジ、オシドリ、カルガモ、キジバト、ゴイサギ、アオサギ、ホトトギス、アマツバメ、イソシギ、ノスリ、フクロウ、カワセミ、アオゲラ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、モズ、カケス、ヤマガラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、トラツグミ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ等 (255 種)
爬虫類	ニホンイシガメ、ニホンスッポン、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ等 (15 種)
両生類	アカハライモリ、ニホンアマガエル、タゴガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ウシガエル、ツチガエル、ヌマガエル、カジカガエル等 (12 種)
昆虫類	オオアオイトトンボ、ミヤマサナエ、ムカシヤンマ、オオゴキブリ、ヤブキリ、ツチイナゴ、アブラゼミ、エサキアメンボ、ツノトンボ、ホソバセセリ、サツマジミ、コジャノメ、ヒメヤママユ、ホシホウジャク、セカオサムシ、マメゲンゴロウ、コカブトムシ、サビキコリ、センノキカミキリ、ヨモギハムシ、ヒメクロオトシブミ、オオゾウムシ、ヒメアリ、トビイロシワアリ、キムネクマバチ等 (528 種)
陸産貝類	ゴマオカタニシ、ヤマタニシ、サツمامシオイ、アズキガイ、キュウシュウゴマガイ、ヤマクルマガイ、カタギセル、ナメクジ、ヒメベッコウ、ハリマキビ、ヒラシタラガイ、ウスカワマイマイ、ツクシマイマイ等 (40 種)
魚 類	ニホンウナギ、オイカワ、タカハヤ、ウグイ、カマツカ、ナマズ、アユ、オオクチバス、カワアナゴ、シマヨシノボリ、サツキハゼ等 (65 種)
底生動物	ヒメカノコガイ、マルタニシ、カワニナ、フトヘナタリガイ、ヒメモノアラガイ、サカマキガイ、カラスガイ、ハナグリ、ニホンスナモグリ等 (61 種)
合 計	1,006 種

注：1. 種名及び配列については原則として、哺乳類、両生類、爬虫類、昆虫類、陸産貝類、魚類、底生動物は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、令和元年）、鳥類は「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（日本鳥学会、平成 24 年）に準拠した。

2. 確認種については、表 3.1-26 に示す文献その他の資料より抽出した。



「生物多様性情報システムーガンカモ類の生息調査ー」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）によると、対象事業実施区域及びその周囲では、図 3.1-19 のとおり、計 7 地点でガンカモ調査が実施された。その結果、平成 20 年度～平成 29 年度までの調査結果では表 3.1-28 のとおり、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ等が確認され、特に、マガモが多く調査地点で確認されている。

表 3.1-28 ガンカモ類の渡来状況

(単位：個体)

調査地点名	調査年度	オシドリ	マガモ	カルガモ	コガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	キンクロハジロ	カモ類種不明
生福 (串木野ダム)	平成 22 年度				5				
	平成 23 年度		9						
	平成 24 年度	10			12				
	平成 25 年度	16			6				6
	平成 26 年度		28						
	平成 27 年度		14		3				
	平成 28 年度		14	16	10				
湯田 (湯田地区の池)	平成 29 年度							10	
	平成 20 年度		7						
養母 (江口川)	平成 29 年度		4						
	平成 23 年度		3	3			10		
	平成 25 年度				2	13			
	平成 27 年度		6						
	平成 28 年度				15				
有屋田	平成 29 年度					41	68		
	平成 20 年度		2						
	平成 23 年度		4	2		6			
	平成 24 年度		2						
	平成 25 年度		18						
	平成 26 年度		13						
	平成 27 年度		2						
西俣	平成 29 年度		2						
	平成 21 年度				1				
	平成 23 年度		6	4		10			
柿園	平成 25 年度		2						
	平成 21 年度		3		2				
	平成 23 年度			450					
	平成 26 年度		5						
	平成 27 年度		12						
清浦ダム	平成 29 年度		10						
	平成 23 年度	2							
	平成 24 年度	2			1				

注：1. 調査は各年度 1 月に行われている。

2. 調査対象種のうち、確認されていない種については割愛した。

3. 調査年度のうち、ガン・カモ・ハクチョウ類が確認されていない年度については割愛した。

〔「生物多様性情報システムーガンカモ類の生息調査ー」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成〕

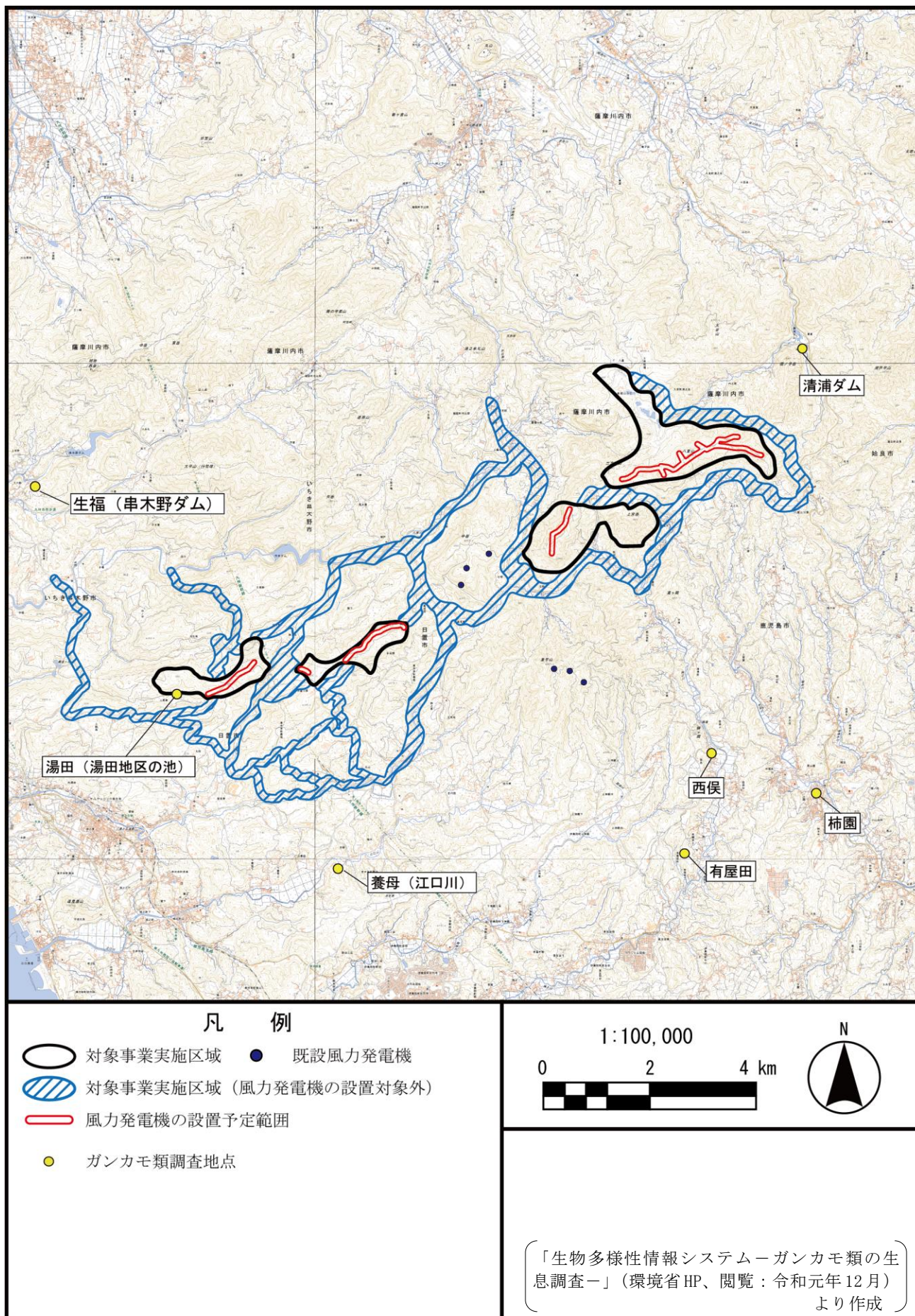
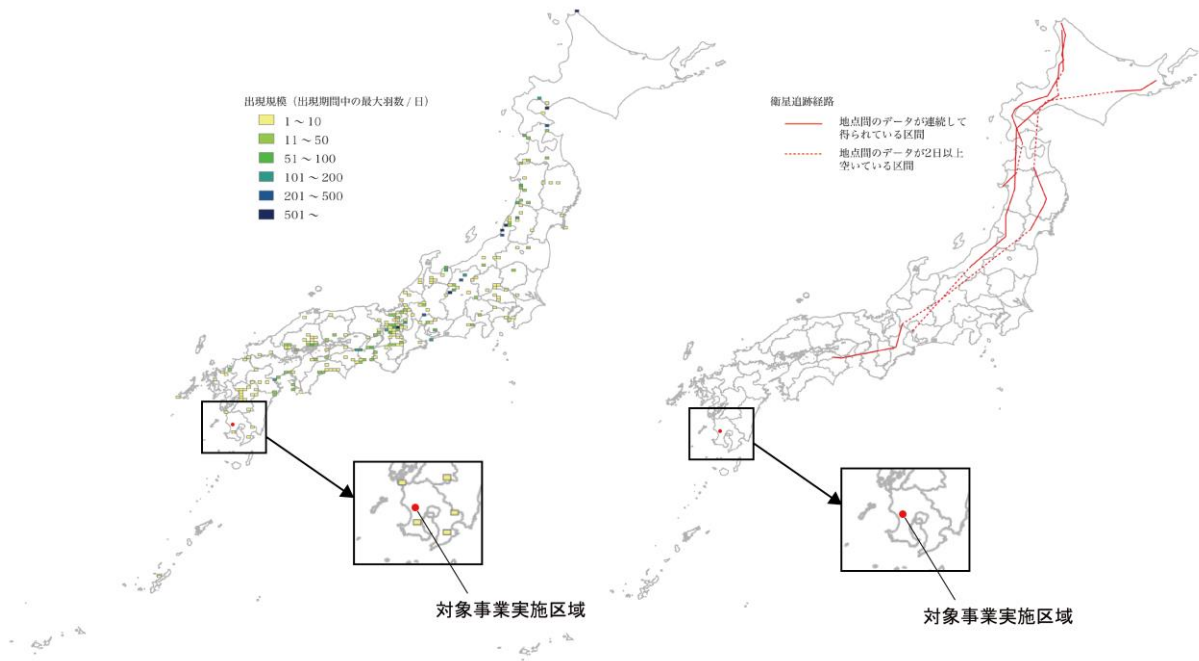


図 3.1-19 ガンカモ類の調査地点

猛禽類については、「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）によると、図 3.1-20～図 3.1-23 のとおり、対象事業実施区域の周囲においてサシバの渡りが確認されているものの、ノスリ、ハチクマ、アカハラダカの渡りは確認されていない。「風力発電立地検討のためのセンシティブティマップ」（環境アセスメントデータベース“EADAS”〔イーダス〕、閲覧：令和元年 12 月）によると、図 3.1-24 のとおり、日中の渡りルートとして、対象事業実施区域の周囲においてツル類、アカハラダカ、サシバ、ハチクマ等の通過が確認されているが、対象事業実施区域の上空を通過するルートはない。また、夜間の渡りルートをみても、春季と秋季とも、対象事業実施区域の上空を移動している記録はない。

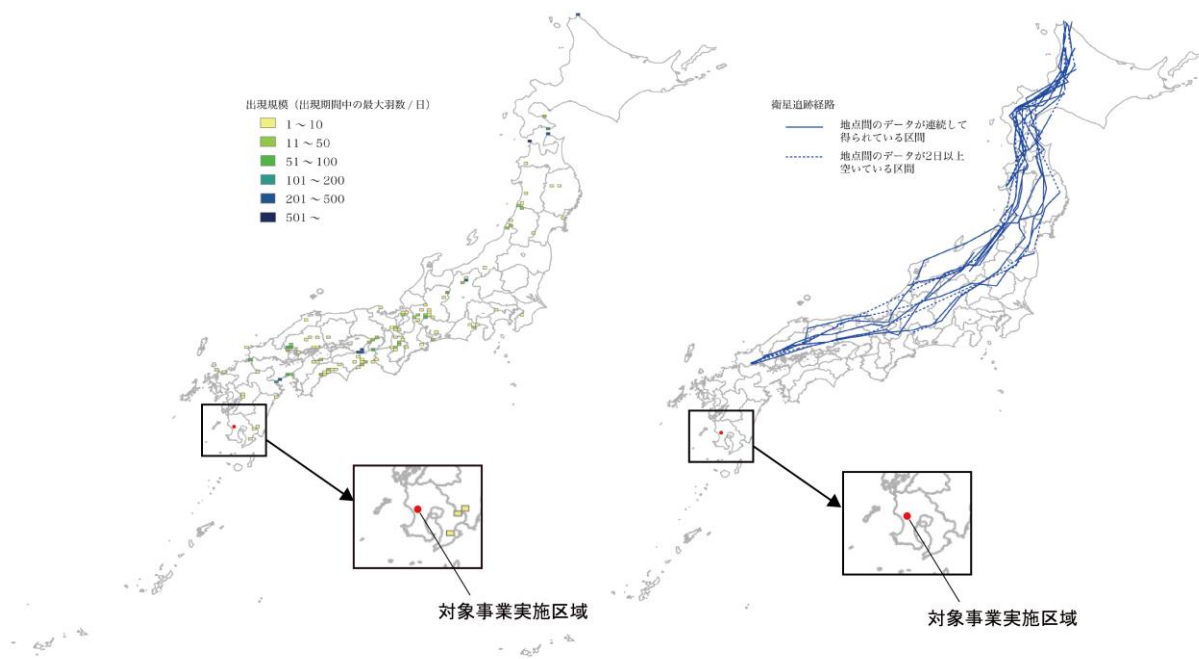
「環境省報道発表資料－希少猛禽類調査（イヌワシ・クマタカ）の結果について－」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）及び「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）によると、図 3.1-25 のとおり、対象事業実施区域を含むメッシュにおいてイヌワシ及びクマタカの生息確認はない。なお、「風力発電立地検討のためのセンシティブティマップ」（環境アセスメントデータベース“EADAS”〔イーダス〕、閲覧：令和元年 12 月）による注意喚起レベルは、図 3.1-26 のとおりであり、対象事業実施区域を含むメッシュについては、「情報なし」となっている。

このほか、「コウモリ生息情報」（環境アセスメントデータベース“EADAS”〔イーダス〕、閲覧：令和元年 12 月）によると、図 3.1-28 のとおり、対象事業実施区域の周囲にはアブラコウモリの生息情報がある。



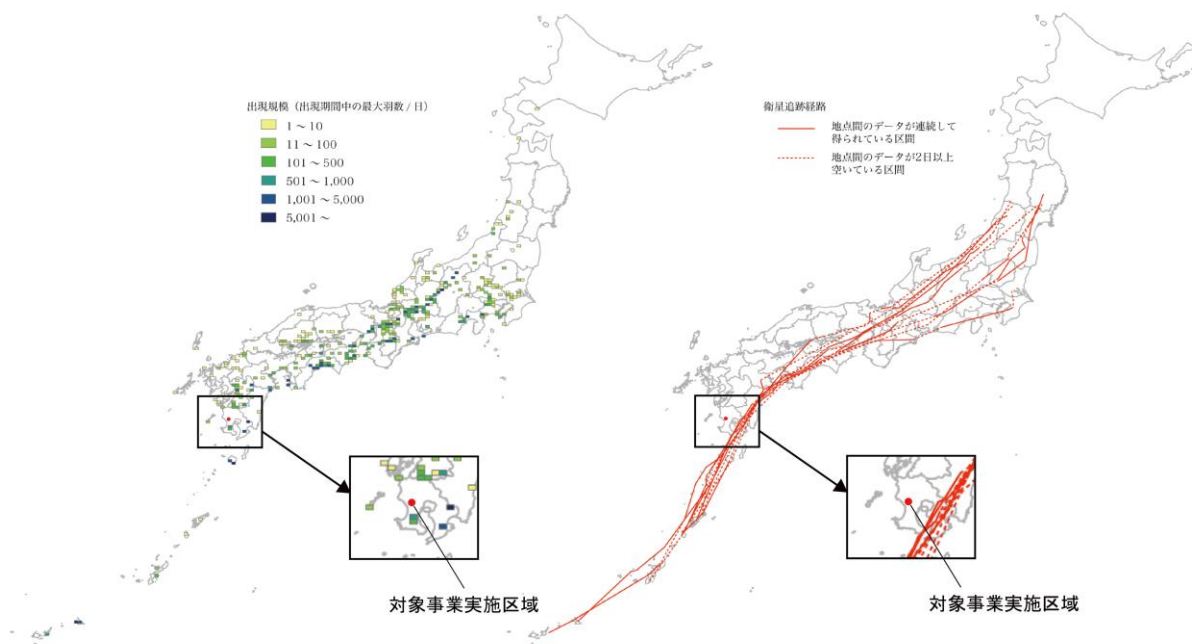
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

図 3.1-20(1) ノスリの秋季の渡り経路



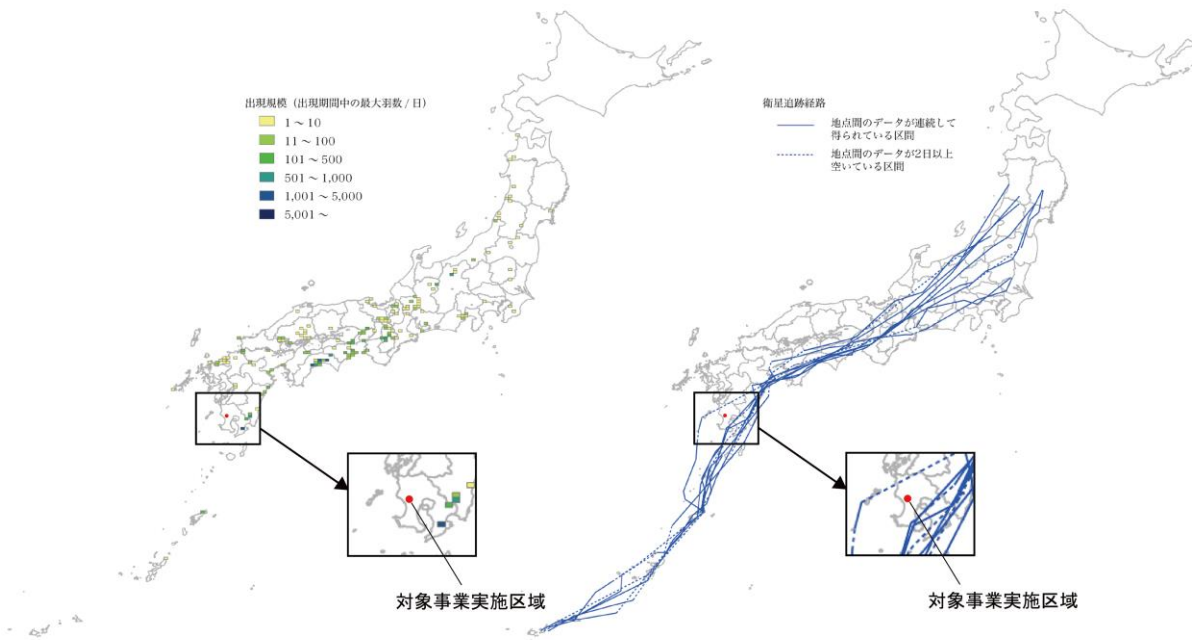
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

図 3.1-20(2) ノスリの春季の渡り経路



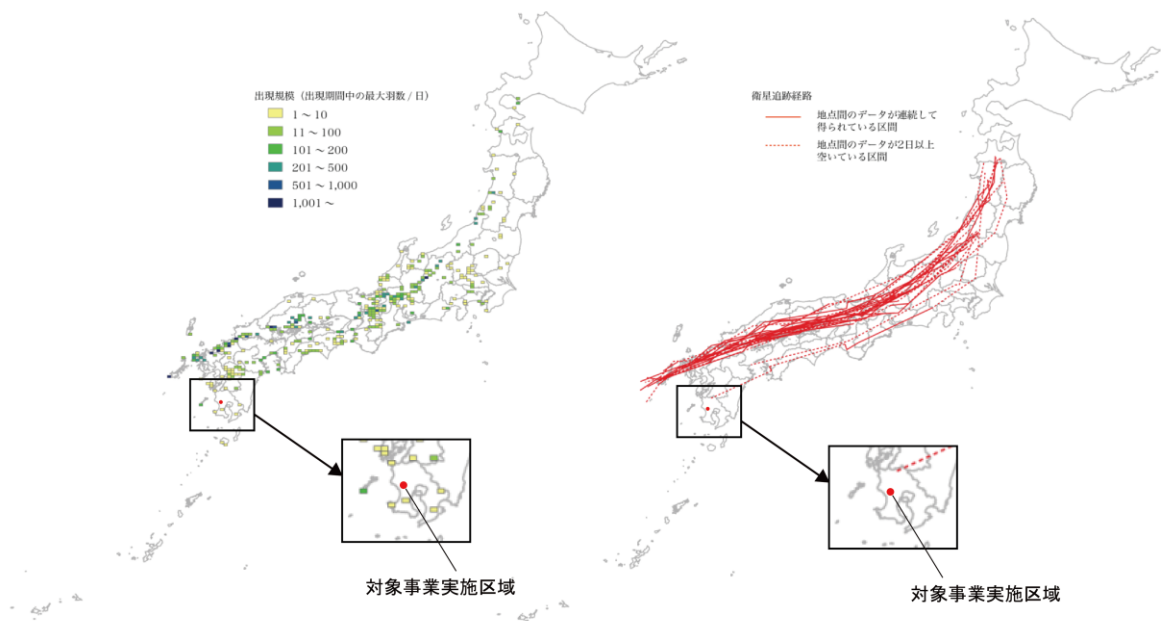
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

図 3.1-21 (1) サシバの秋季の渡り経路



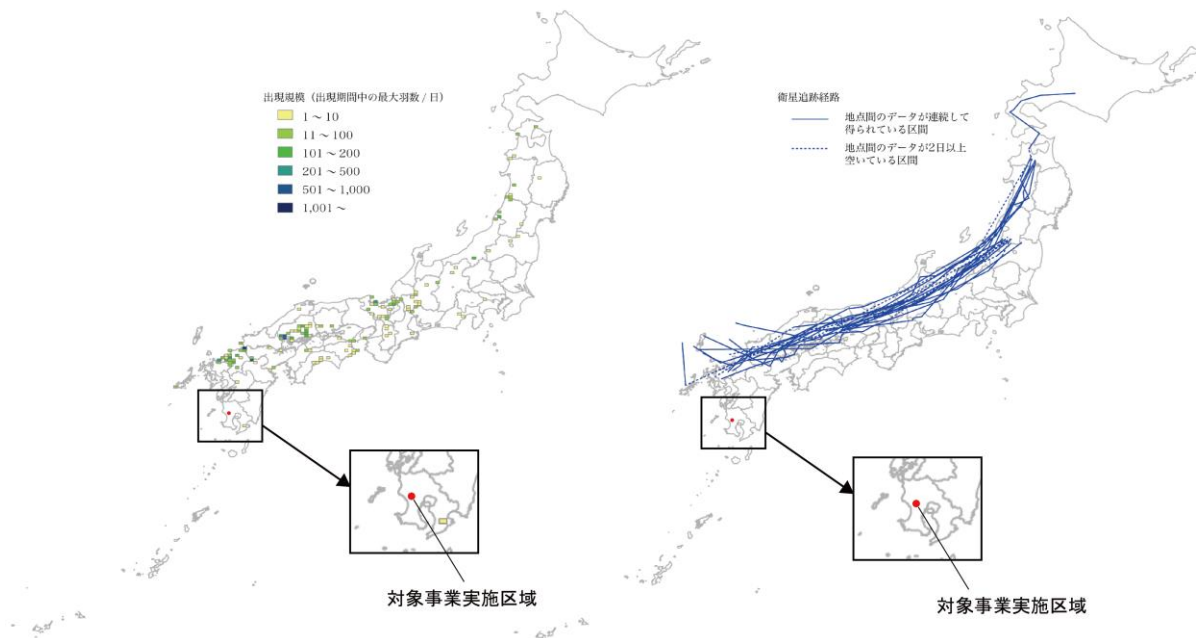
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

図 3.1-21 (2) サシバの春季の渡り経路



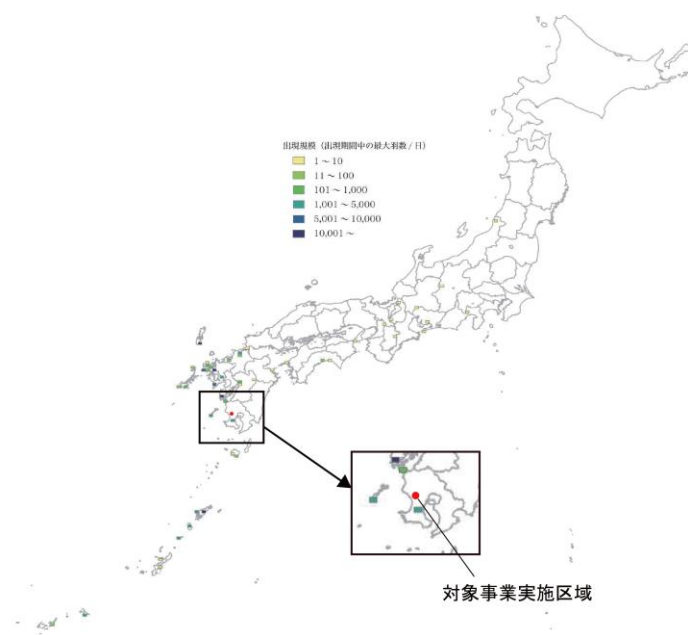
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

図 3.1-22(1) ハチクマの秋季の渡り経路



〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

図 3.1-22(2) ハチクマの春季の渡り経路



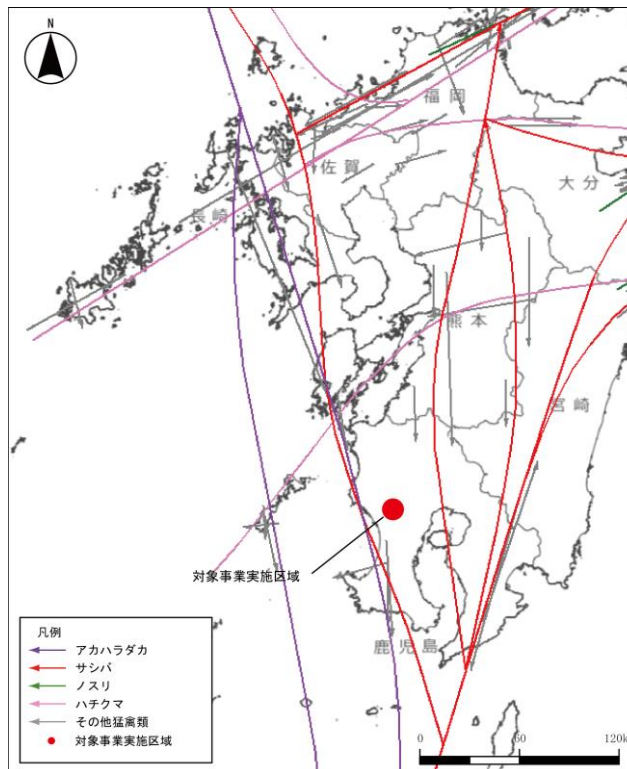
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」(環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版) より作成〕

図 3.1-23 アカハラダカの秋季の渡り経路



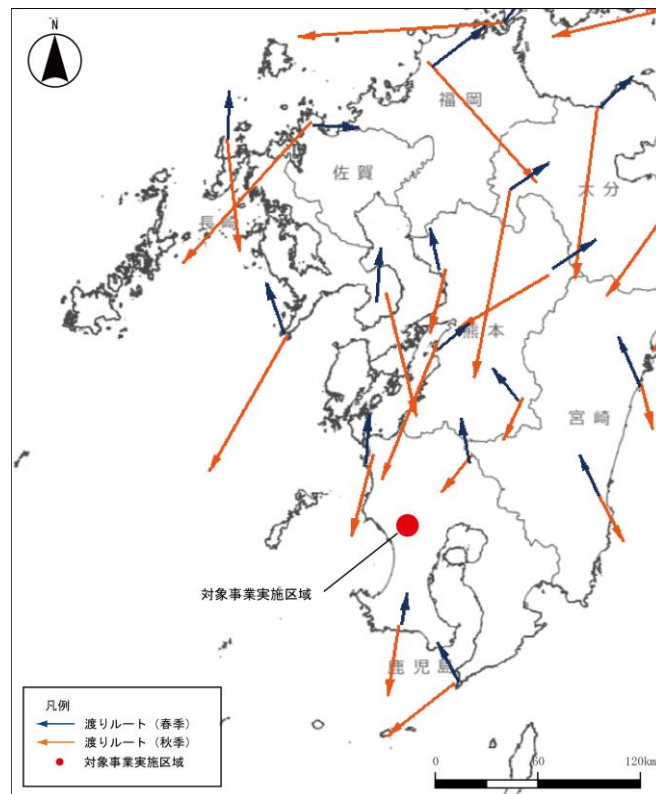
「センシティブティマップ 日中の渡りルート」
 (環境アセスメントデータベース“EADAS”[イーダス]、
 閲覧：令和元年12月) より作成

図 3.1-24(1) 日中の渡りルート(猛禽類を除く)



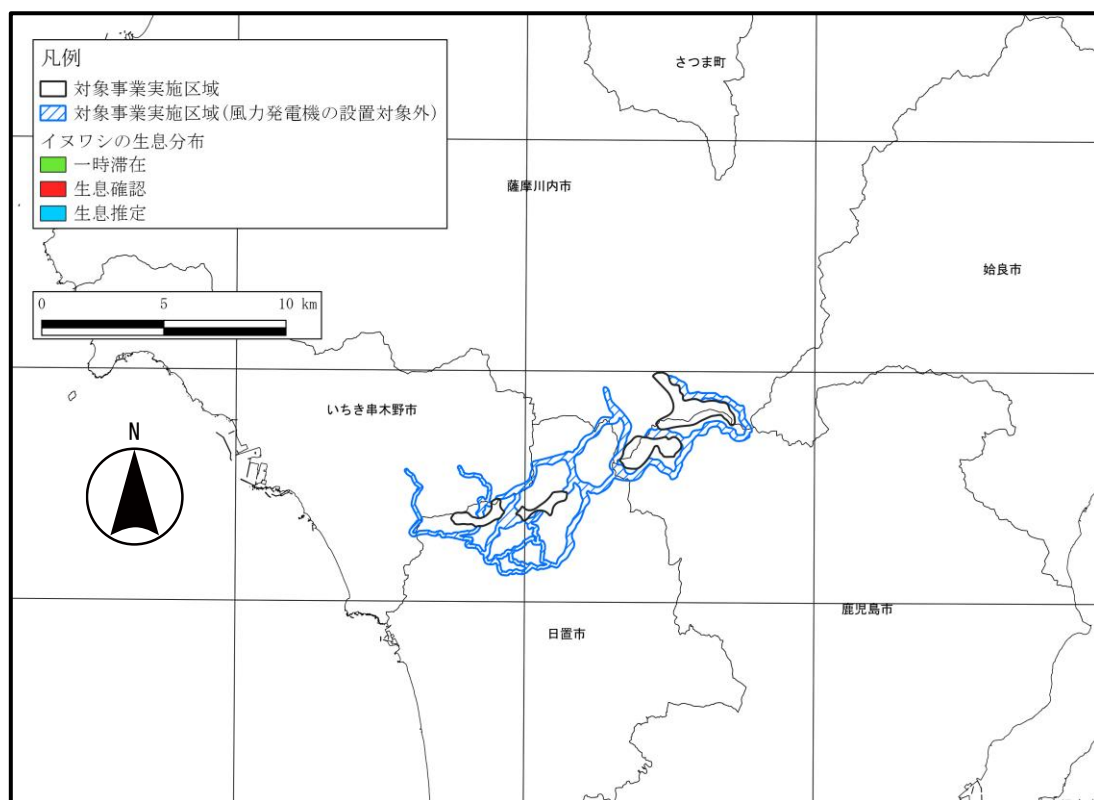
「センシティブティマップ 日中の渡りルート」
 (環境アセスメントデータベース“EADAS”[イーダス]、
 閲覧：令和元年12月) より作成

図 3.1-24(2) 日中の渡りルート(猛禽類)



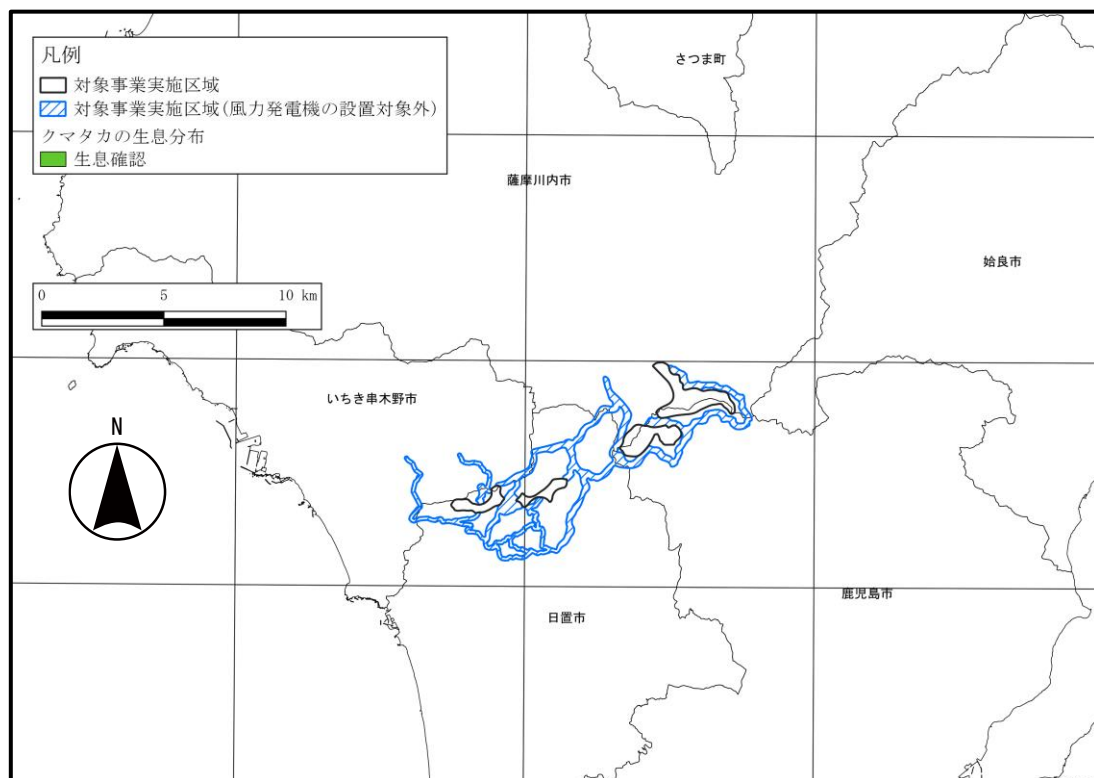
「センシティビティマップ 夜間の渡りルート」
 (環境アセスメントデータベース“EADAS”〔イーダス〕、
 閲覧：令和元年12月) より作成

図 3.1-24(3) 夜間の渡りルート(春季・秋季)



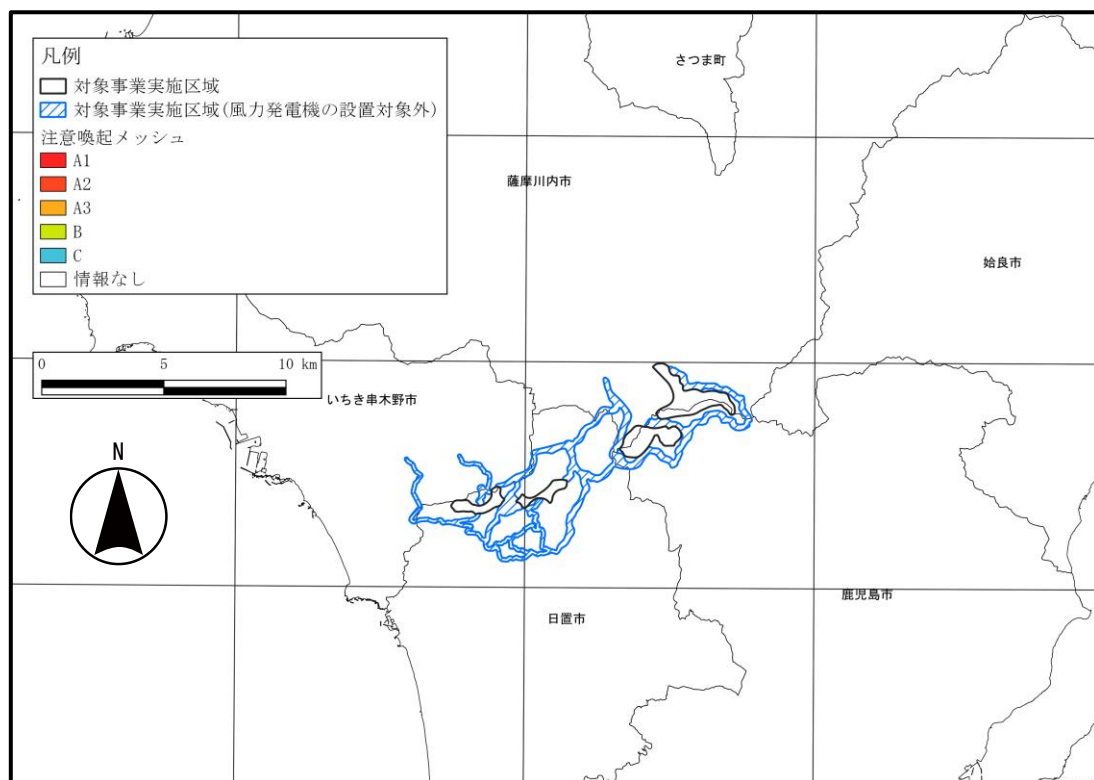
「環境省報道発表資料－希少猛禽類調査（イヌワシ・クマタカ）の結果について－」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）
 「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成

図 3.1-25(1) イヌワシ分布メッシュ図



「環境省報道発表資料－希少猛禽類調査（イヌワシ・クマタカ）の結果について－」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）
 「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成

図 3.1-25(2) クマタカ分布メッシュ図



〔「センシティブティマップ 注意喚起メッシュ」(環境アセスメントデータベース「EADAS」〔イーダス〕、
 閲覧：令和元年12月)より作成〕

図 3.1-26 センシティブティマップにおける注意喚起メッシュ図

参考資料：「地理情報システム（GIS）：センシティビティマップについて」

（「環境アセスメントデータベース EADAS（イーダス）」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月））

◆注意喚起メッシュの作成方法

【重要種】

まずバードストライクとの関連性が高い種や生息地の改変に鋭敏な種を 10 種選定し、それぞれ程度の高い方から 3、2、1 とランク付けを行った。

重要種の選定は、はじめに環境省レッドリストから絶滅危惧種・野生絶滅種に記載されている 98 種を抽出した。次に、生息環境と陸域風力の設置場所との関係、バードストライクの事例の有無、風車との関連性（McGuinness et al. 2015）等から風力との関係が注目される重要種として 10 種を選定した。このうち、「個体数が極小」、「個体数が少なく減少傾向」、「生息地が局所的で生息地の減少の影響が大きくかつ生息環境が特殊」のいずれかに該当するイヌワシ、シマフクロウ、チュウヒ、オオヨシゴイ、サンカノゴイをランク 3 とし、それ以外の種については、国内でのバードストライクの事例が多いオジロワシをランク 2、事例が少ないもしくは関係が不明のクマタカ、オオワシ、タンチョウ、コウノトリをランク 1 とした。

最後に、重要種が分布している 10km メッシュにその重要種のランクを付け、10 種のメッシュを重ね合わせた。同一メッシュに複数の重要種が分布する場合には、最も大きいランクをそのメッシュに付けた。

【集団飛来地】

集団飛来地については、ガン類、ハクチョウ類、カモ類、シギ・チドリ類、カモメ類、ツル類（ナベヅル・マナヅル）、ウミネコの繁殖地、その他の水鳥類、海ワシ類及びその他の猛禽類を対象とした。水鳥類については、はじめにラムサール条約湿地に指定されている場所の個体数データ（モニタリングサイト 1000 調査）を基に、分類群ごとに個体数の基準を 3、2、1 とランク付けた（個体数の多いものはランクが高くなる）。

同様に、海ワシ類は「2016 年のオオワシ・オジロワシ一斉調査結果について」（オジロワシ・オオワシ合同調査グループ、平成 28 年）の個体数データから、猛禽類は「平成 27 年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書、風力発電施設立地適正化のための手引きに関する資料」（環境省自然環境局野生生物課、平成 28 年）の個体数データから、個体数の基準をランク付けた。

これらの基準を用いて、現地調査結果や文献による個体数データについて 10km メッシュごとにランクを付けた。

なお、集団飛来地のヒアリング調査結果の情報があるメッシュは一律ランク 1 を、集団飛来地に関連するラムサール条約湿地及び国指定鳥獣保護区は一律ランク 3 を付けている。

【重要種と集団飛来地の重ね合わせ】

最後に、メッシュごとに重要種と集団飛来地のランクを合計して、メッシュのランクを決定した（図 3.1-27）。メッシュのランクに応じて、注意喚起レベルを決定した（表 3.1-29）。

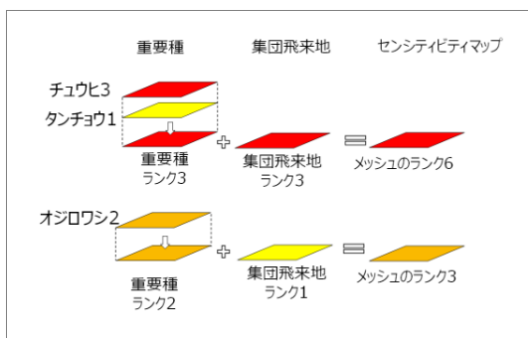


図 3.1-27 重要種と集団飛来地のメッシュの重ね合わせ(例)

メッシュのランク	注意喚起レベル
6	A1
5	A2
3～4	A3
2	B
1	C
0	情報なし

表 3.1-29 メッシュのランクと注意喚起レベル

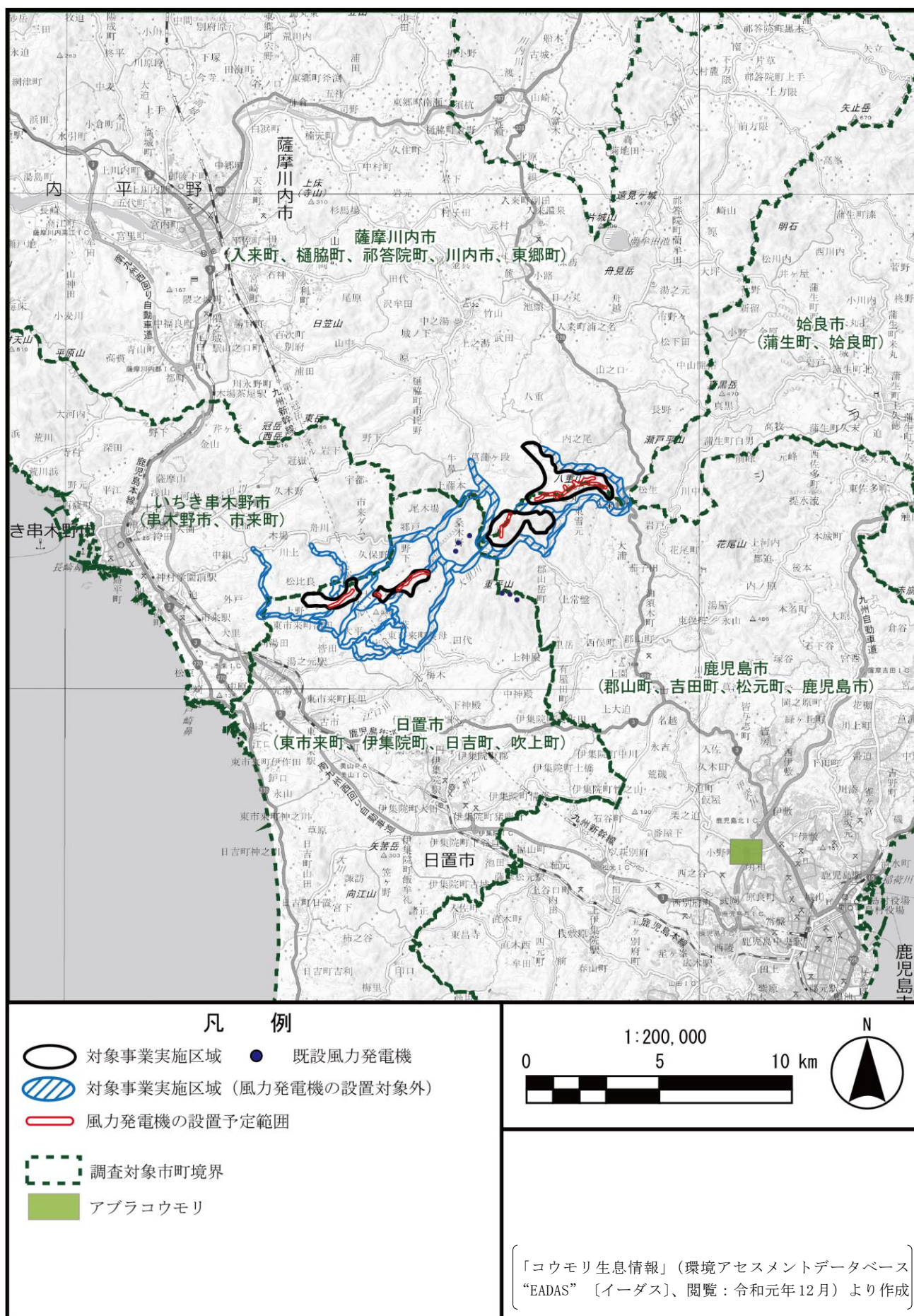


図 3.1-28 コウモリの生息状況

(2) 動物の重要な種

動物の重要な種は、「(1)動物相の概要」で確認された種について、表 3.1-30 に示す法令や規制等の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から選定した。

その結果、重要な種については、表 3.1-31 のとおり、哺乳類 22 種、鳥類 67 種、爬虫類 12 種、両生類 10 種、昆虫類 149 種、陸産貝類 40 種、魚類 12 種、底生動物 32 種が確認された。

「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：平成 30 年 6 月 8 日)によると、カワウソ、カモシカ及びコウノトリは特別天然記念物に、ヒシクイ、コクガン及びカラスバトが国の天然記念物に指定されている。「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号、最終改正：令和元年 6 月 14 日)に基づく国内希少野生動植物種にはカラスバト、コウノトリ、カラフトアオアシシギ、ヘラシギ、チュウヒ等 9 種が指定されている。「環境省レッドリスト 2019」(環境省、平成 31 年)の掲載種としては、哺乳類は、カワネズミ、ノレンコウモリ、ヤマコウモリ、カワウソ、カモシカの 5 種、鳥類は、オシドリ、ヨタカ、サシバ、クマタカ、ブッポウソウ、サンショウクイ等の 56 種、爬虫類は、アカウミガメ、ニホンイシガメ、ニホンスッポンの 3 種、両生類は、アカハライモリ、トノサマガエル の 2 種、昆虫類は、モートンイトトンボ、ベッコウトンボ、コオイムシ、ツマグロキチョウ、ゲンゴロウ等の 46 種、陸産貝類は、ゴマオカタニシ、サツمامシオイ、カタギセル、タカキビ等の 10 種、魚類は、ニホンウナギ、ドジョウ、アカメ、ゴマハゼ等の 10 種、底生動物は、ヒメカノコガイ、マルタニシ、カワアイガイ、モノアラガイ等の 21 種となっている。

「改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編 ―鹿児島県レッドデータブック 2016―」(鹿児島県、平成 28 年)の掲載種については、哺乳類は、カワネズミ、ノレンコウモリ、ヤマコウモリ、ヒメネズミ、カヤネズミ、キツネ等の 22 種、鳥類は、ヒシクイ、カリガネ、チュウヒ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、クマタカ等の 61 種、爬虫類は、アカウミガメ、ニホンイシガメ、ニホンマムシ等の 12 種、両生類は、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、トノサマガエル の 10 種、昆虫類は、ミヤマサナエ、キイロサナエ、ムカシヤンマ、アキアカネ、ヤマトマダラバッタ、タイコウチ、ミヤマセセリ、ホソバセセリ、ゲンゴロウ等の 138 種、陸産貝類は、ゴマオカタニシ、サツمامシオイ、キュウシュウゴマガイ、キヌツヤベッコウ、カサキビ等の 40 種、魚類は、ニホンウナギ、ドジョウ、アカメ、イドミミズハゼ、チクゼンハゼ等の 12 種、底生動物は、カノコガイ、マルタニシ、カワアイガイ、サツマクリイロカワザンショウガイ、モノアラガイ、ハクセンシオマネキ等の 25 種となっている。

表 3.1-30(1) 動物の重要な種の選定基準

選定基準		文献その他の資料	
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号、最終改正:平成 30 年 6 月 8 日)、 「鹿児島県文化財保護条例」(昭和 30 年鹿児島県条例第 48 号)、「日置市文化財保護条例」(平成 17 年日置市条例第 97 号)、「鹿児島市文化財保護条例」(昭和 47 年鹿児島市条例第 17 号)、 「薩摩川内市文化財保護条例」(平成 16 年薩摩川内市条例第 112 号)、「いちき串木野市文化財保護条例」(平成 17 年いちき串木野市条例第 177 号)、「始良市文化財保護条例」(平成 22 年始良市条例第 214 号)に基づく天然記念物	特天: 特別天然記念物 国天: 天然記念物 県天: 鹿児島県天然記念物 市天: 日置市指定天然記念物、鹿児島市指定天然記念物、薩摩川内市指定天然記念物、いちき串木野市指定天然記念物、始良市指定天然記念物	「国指定文化財等データベース」(文化庁 HP、閲覧: 令和元年 12 月)、「鹿児島県内の文化財一覧」(鹿児島県 HP、閲覧: 令和元年 12 月)、「文化財・伝統芸能」(日置市 HP、閲覧: 令和元年 12 月)、「薩摩川内市の文化財」(薩摩川内市 HP、閲覧: 令和元年 12 月)、「文化財マップ」(いちき串木野市 HP、閲覧: 令和元年 12 月)、「文化財(ヘリテージ)」(始良市 HP、閲覧: 令和元年 12 月)
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号、最終改正: 令和元年 6 月 14 日) 及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号、最終改正: 令和元年 11 月 7 日) に基づく国内希少野生動植物等	国内: 国内希少野生動植物種 特定: 特定国内希少野生動植物種 緊急: 緊急指定種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号、最終改正: 令和元年 11 月 7 日)
③	「環境省レッドリスト 2019」(環境省、平成 31 年) の掲載種	EX: 絶滅・・・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW: 野生絶滅・・・飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類・・・絶滅の危機に瀕している種 CR: 絶滅危惧ⅠA 類・・・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN: 絶滅危惧ⅠB 類・・・ⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU: 絶滅危惧Ⅱ類・・・絶滅の危険が増大している種 NT: 準絶滅危惧・・・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD: 情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	「環境省レッドリスト 2019 の公表について」(環境省 HP、閲覧: 令和元年 12 月)

表 3.1-30(2) 動物の重要な種の選定基準

選定基準		文献その他の資料
④	「改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編―鹿児島県レッドデータブック 2016―」（鹿児島県、平成 28 年）の掲載種 絶滅：過去に県内に生息・生育した確実な記録があり、飼育・栽培下を含め、県内ではすでに絶滅したと考えられる種 野生絶滅：過去に県内に生息・生育したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、県内において野生ではすでに絶滅したと考えられる種 絶滅危惧Ⅰ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、県内において近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種 絶滅危惧Ⅱ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、県内において近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられる種 準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息・生育状況の推移から見て、「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有すると判断される種 分布特性上重要：現在のところ県内でごく普通に見られ、絶滅もしくは消滅の危険は低いと考えられるが、その分布の特性から考えて、今後の動向に注意を払っていくべきであると判断される種 情報不足：環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧・消滅危惧のカテゴリーに移行しうる属性を持っているが、生息・生育状況をはじめとして、ランクの決定に足るだけの情報が得られていないもの	「改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編―鹿児島県レッドデータブック 2016―」（鹿児島県、平成 28 年）
⑤	「鹿児島県希少野生動植物の保護に関する条例」（平成 15 年鹿児島県条例第 11 号）ので指定される指定希少野生動植物 希少：指定希少野生動植物種	「指定希少野生動植物の保護について」（鹿児島県 HP、閲覧：令和元年 12 月）

表 3.1-31(1) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類	目名	科名	種名	選定基準					
					①	②	③	④	⑤	
1	哺乳類	モグラ(食虫)	トガリネズミ	カワネズミ			LP※1	絶滅危惧Ⅱ類		
2			モグラ	ヒミズ				分布特性上重要		
3				コウベモグラ				分布特性上重要		
4		コウモリ(翼手)	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ				分布特性上重要		
5					キクガシラコウモリ				分布特性上重要	
6			ヒナコウモリ	モモジロコウモリ				分布特性上重要		
7					ノレンコウモリ		VU※2	絶滅危惧Ⅱ類		
8				ヤマコウモリ		VU	絶滅危惧Ⅱ類			
9		サル(霊長)	オナガザル	ニホンザル				分布特性上重要		
10		ネズミ(齧歯)	リス	ムササビ				分布特性上重要		
11			ネズミ	ハタネズミ				分布特性上重要		
12					アカネズミ			分布特性上重要		
13					ヒメネズミ			準絶滅危惧		
14					カヤネズミ			絶滅危惧Ⅱ類		
15		ネコ(食肉)	イヌ	タヌキ				分布特性上重要		
16					キツネ			絶滅危惧Ⅱ類※3		
17			イタチ	テン				分布特性上重要		
18					イタチ			分布特性上重要※4		
19					ニホンアナグマ			分布特性上重要		
20					カワウソ	特天		EX※5	絶滅※6	
21		ウシ(偶蹄)	イノシシ	イノシシ				分布特性上重要		
22			ウシ	カモシカ	特天		LP※7	情報不足※8		
小計		6 目	11 科	22 種	2 種	0 種	5 種	22 種	0 種	
1	鳥類	キジ	キジ	ウズラ			VU	情報不足		
2					ヤマドリ			NT※9	準絶滅危惧※9	
3		カモ	カモ	ヒシクイ	天※10		VU・NT※11	絶滅危惧Ⅱ類		
4					カリガネ			EN	絶滅危惧Ⅰ類	
5					コクガン	天		VU	絶滅危惧Ⅱ類	
6					ツクシガモ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	
7					アカツクシガモ			DD		
8					オシドリ			DD	情報不足	
9					トモエガモ			VU		
10					アカハジロ			DD		
11		ハト	ハト	カラスバト	天	国内※12	NT	準絶滅危惧		
12					アオバト				分布特性上重要	
13		ミズナギドリ	ミズナギドリ	シロハラミズナギドリ			DD			
14		コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ	特天	国内	CR			
15		ペリカン	サギ	サンカノゴイ			EN	絶滅危惧Ⅰ類		
16					ヨシゴイ			NT	絶滅危惧Ⅰ類	
17					オオヨシゴイ			CR	情報不足	
18					ミゾゴイ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	
19					チュウサギ			NT	準絶滅危惧	
20					カラシラサギ			NT	情報不足	
21			トキ	クロトキ			DD	情報不足		
22					ヘラサギ			DD	準絶滅危惧	
23					クロツラヘラサギ			EN	絶滅危惧Ⅰ類	
24		ツル	ツル	ソデグロヅル				準絶滅危惧		
25					マナヅル			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
26					ナベヅル			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
27			クイナ	ヒクイナ			NT	絶滅危惧Ⅱ類		
28		ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	準絶滅危惧		

表 3.1-31(2) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類	目名	科名	種名	選定基準					
					①	②	③	④	⑤	
29	鳥類	チドリ	チドリ	ケリ			DD	情報不足		
30				イカルチドリ				絶滅危惧Ⅱ類		
31				シロチドリ			VU	絶滅危惧Ⅱ類		
32			セイタカシギ	セイタカシギ			VU	絶滅危惧Ⅱ類		
33			シギ	オオソリハシシギ			VU	絶滅危惧Ⅱ類		
34				コシャクシギ			EN	絶滅危惧Ⅰ類		
35				ホウロクシギ			VU	絶滅危惧Ⅱ類		
36				ツルシギ			VU	絶滅危惧Ⅱ類		
37				アカアシシギ			VU	絶滅危惧Ⅱ類		
38				カラフトアオアシシギ		国内	CR	絶滅危惧Ⅰ類		
39				タカブシギ			VU	絶滅危惧Ⅱ類		
40				ハマシギ			NT	準絶滅危惧		
41			ヘラシギ		国内	CR	絶滅危惧Ⅰ類			
42			タマシギ	タマシギ			VU	絶滅危惧Ⅱ類		
43			ツバメチドリ	ツバメチドリ			VU	絶滅危惧Ⅱ類		
44			カモメ	ズグロカモメ			VU	絶滅危惧Ⅱ類		
45				ウミネコ				分布特性上重要		
46				コアジサシ			VU	絶滅危惧Ⅰ類		
47				エリグロアジサシ			VU	絶滅危惧Ⅱ類		
48				アジサシ				情報不足		
49		タカ		ミサゴ	ミサゴ			NT	準絶滅危惧	
50			タカ	ハチクマ			NT	準絶滅危惧		
51				チュウヒ		国内	EN	絶滅危惧Ⅱ類		
52				ツミ				情報不足		
53				ハイタカ			NT	準絶滅危惧		
54				オオタカ			NT	絶滅危惧Ⅱ類		
55				サシバ			VU	絶滅危惧Ⅱ類		
56				クマタカ		国内	EN	絶滅危惧Ⅰ類		
57		フクロウ	フクロウ	オオコノハズク				情報不足		
58				コノハズク				情報不足		
59		ブッポウソウ	ブッポウソウ	ブッポウソウ			EN	絶滅危惧Ⅰ類		
60		ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU	絶滅危惧Ⅱ類		
61		スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ		国内	EN	絶滅危惧Ⅰ類		
62			サンショウクイ	サンショウクイ			VU	情報不足		
63			モズ	アカモズ			EN	分布特性上重要※13		
64			ツバメ	ツバメ				分布特性上重要		
65			ヒタキ	キビタキ				準絶滅危惧		
66			セキレイ	セグロセキレイ				分布特性上重要		
67			ホオジロ	ノジコ				NT		
小計			14 目	28 科	67 種	4 種	8 種	56 種	61 種	0 種
1	爬虫類	カメ	ウミガメ	アカウミガメ			EN	絶滅危惧Ⅱ類		
2			イシガメ	ニホンイシガメ			NT	準絶滅危惧		
3			スッポン	ニホンスッポン			DD	分布特性上重要		
4		有鱗	カナヘビ	ニホンカナヘビ				分布特性上重要		
5			タカチホヘビ	タカチホヘビ				分布特性上重要		
6			ナミヘビ	シマヘビ				分布特性上重要		
7				アオダイショウ				分布特性上重要		
8				ジムグリ				分布特性上重要		
9				シロマダラ				分布特性上重要		
10			ヒバカリ					分布特性上重要		

表 3. 1-31 (3) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類	目名	科名	種名	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
11	爬虫類	有鱗	ナミヘビ	ヤマカガシ				分布特性上重要	
12			クサリヘビ	ニホンマムシ				分布特性上重要	
小計		2 目	7 科	12 種	0 種	0 種	3 種	12 種	0 種
1	両生類	有尾	イモリ	アカハライモリ			NT	準絶滅危惧	
2		無尾	ヒキガエル	ニホンヒキガエル				準絶滅危惧	
3			アマガエル	ニホンアマガエル				分布特性上重要	
4			アカガエル	タゴガエル				分布特性上重要	
5				ニホンアカガエル				分布特性上重要	
6				ヤマアカガエル				分布特性上重要	
7				トノサマガエル		NT	準絶滅危惧		
8				ツチガエル				分布特性上重要	
9			アオガエル	シュレーゲルアオガエル				分布特性上重要	
10				カジカガエル				分布特性上重要	
小計		2 目	5 科	10 種	0 種	0 種	2 種	10 種	0 種
1	昆虫類	トンボ（蜻蛉）	アオイトトンボ	ホソミオツネトンボ				分布特性上重要	
2				オオアオイトトンボ				分布特性上重要	
3			イトトンボ	ホソミイトトンボ				分布特性上重要	
4				ベニイトトンボ			NT	絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	
5				モートンイトトンボ			NT	絶滅危惧Ⅰ類、 分布特性上重要	
6				クロイトトンボ				分布特性上重要	
7				セスジイトトンボ				準絶滅危惧、 分布特性上重要	
8				オオイトトンボ				準絶滅危惧、 分布特性上重要	
9			モノサシトンボ	モノサシトンボ				分布特性上重要	
10			カワトンボ	ハグロトンボ				分布特性上重要	
11				ミヤマカワトンボ				分布特性上重要	
12				ニホンカワトンボ				絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	
13				アサヒナカワトンボ				分布特性上重要	
14			ムカシトンボ	ムカシトンボ				分布特性上重要	
15			ヤンマ	ネアカヨシヤンマ			NT	準絶滅危惧、 分布特性上重要	
16				マルタンヤンマ				分布特性上重要	
17				クロスジギンヤンマ				分布特性上重要	
18				コシボソヤンマ				分布特性上重要	
19				ミルンヤンマ				分布特性上重要	
20			サナエトンボ	ミヤマサナエ				分布特性上重要	
21				ヤマサナエ				分布特性上重要	
22				キイロサナエ			NT	準絶滅危惧、 分布特性上重要	
23				クロサナエ				分布特性上重要	
24				アオサナエ				分布特性上重要	
25				コオニヤンマ				分布特性上重要	
26				ウチワヤンマ				分布特性上重要	
27				オジロサナエ				分布特性上重要	
28				タバサナエ			NT	絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	

表 3.1-31(4) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類	目名	科名	種名	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
29	昆虫類	トンボ (蜻蛉)	サナエトンボ	オグマサナエ			NT	絶滅危惧Ⅰ類、 分布特性上重要	
30			ムカシヤンマ	ムカシヤンマ				準絶滅危惧、 分布特性上重要	
31			エゾトンボ	トラフトンボ				分布特性上重要	
32				コヤマトンボ				分布特性上重要	
33				キイロヤマトンボ			NT	絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	
34				ハネビロエゾトンボ			VU	準絶滅危惧、 分布特性上重要	
35				タカネトンボ				分布特性上重要	
36			トンボ	ショウジョウトンボ				分布特性上重要	
37				ベッコウトンボ		国内	CR	絶滅危惧Ⅰ類、 分布特性上重要	
38				ヨツボシトンボ				分布特性上重要	
39				ハラビロトンボ				分布特性上重要	
40				ハッチョウトンボ				分布特性上重要	
41				シオヤトンボ				分布特性上重要	
42				チョウトンボ				分布特性上重要	
43				コノシメトンボ				分布特性上重要	
44				キトンボ				分布特性上重要	
45				ナツアカネ				分布特性上重要	
46				マユタテアカネ				分布特性上重要	
47				アキアカネ				絶滅危惧Ⅰ類、 分布特性上重要	
48				ノシメトンボ				分布特性上重要	
49				マイコアカネ				分布特性上重要	
50				マダラナニワトンボ			EN		
51				ヒメアカネ				分布特性上重要	
52				ミヤマアカネ				分布特性上重要	
53				リスアカネ				分布特性上重要	
54				ネキトンボ				分布特性上重要	
55				タイリクアカネ				分布特性上重要	
56			バッタ	ヤマトマダラバッタ				絶滅危惧Ⅱ類	
57		カメムシ (半翅)	キンカメムシ	アカスジキンカメムシ				情報不足	
58			アメンボ	エサキアメンボ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
59			コオイムシ	コオイムシ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
60			タイコウチ	タイコウチ				準絶滅危惧	
61		アミメカゲロウ (脈翅)	カマキリモドキ	ツマグロカマキリモドキ				情報不足	
62		チョウ (鱗翅)	セセリチョウ	ダイミョウセセリ				分布特性上重要	
63				ミヤマセセリ				絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	
64				ホソバセセリ				絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	
65				ギンイチモンジセセリ			NT	準絶滅危惧、 分布特性上重要	
66				ヒメキマダラセセリ				分布特性上重要	
67				ミヤマチャバネセセリ				分布特性上重要	

表 3.1-31 (5) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類	目名	科名	種名	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
68	昆虫類	チョウ（鱗翅）	セセリチョウ	オオチャバネセセリ				分布特性上重要	
69				キマダラセセリ				分布特性上重要	
70				コチャバネセセリ				分布特性上重要	
71			シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ				絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	
72				コツバメ				絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	
73				ルリシジミ				分布特性上重要	
74				スギタニルリシジミ 九州亜種				準絶滅危惧 ^{※14} 、 分布特性上重要	
75				キリシマミドリシジ ミ本州以南亜種				準絶滅危惧 ^{※15} 、 分布特性上重要	
76				ツバメシジミ				分布特性上重要	
77				タイワンツバメシジ ミ本土亜種			EN ^{※16}	絶滅危惧Ⅰ類 ^{※17}	
78				カラスシジミ				準絶滅危惧、 分布特性上重要	
79				ベニシジミ				分布特性上重要	
80				トラフシジミ				準絶滅危惧、 分布特性上重要	
81				ゴイシシジミ				分布特性上重要	
82				サツマシジミ				分布特性上重要	
83			タテハチョウ	コムラサキ				分布特性上重要	
84				サカハチチョウ				絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	
85				ミドリヒョウモン				準絶滅危惧、 分布特性上重要	
86				ウラギンスジヒョウ モン			VU	絶滅危惧Ⅰ類、 分布特性上重要	
87				オオウラギンスジ ヒョウモン				絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	
88				ヒョウモンチョウ 本州中部亜種			VU		
89				メスグロヒョウモン				準絶滅危惧、 分布特性上重要	
90				カバマダラ				分布特性上重要	
91				ウラギンヒョウモン				絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	
92				オオウラギンヒョウ モン			CR	絶滅危惧Ⅰ類、 分布特性上重要	
93				オオゴマダラ				分布特性上重要	
94				クロヒカゲ本土亜種				分布特性上重要	
95				イチモンジチョウ				分布特性上重要	
96				ジャノメチョウ				絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	
97				コジャノメ				分布特性上重要	
98				ヒメジャノメ				分布特性上重要	
99				サトキマダラヒカゲ				分布特性上重要	
100				クモガタヒョウモン				絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	
101				コミスジ本州以南 亜種				分布特性上重要	
102				ヒオドシチョウ				準絶滅危惧、 分布特性上重要	

表 3. 1-31 (6) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類	目名	科名	種名	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
103	昆虫類	チョウ (鱗翅)	タテハチョウ	キタテハ				分布特性上重要	
104				ヒメウラナミジャノメ				分布特性上重要	
105				ウラナミジャノメ 本土亜種			VU※18	分布特性上重要	
106			アゲハチョウ	ミヤマカラスアゲハ				分布特性上重要	
107				キアゲハ				分布特性上重要	
108				オナガアゲハ				絶滅危惧Ⅱ類、 分布特性上重要	
109			シロチョウ	ツマキチョウ本土亜種				分布特性上重要	
110				ツマグロキチョウ			EN		
111				ツマベニチョウ				分布特性上重要	
112				スジグロシロチョウ				分布特性上重要	
113			ツトガ	カワゴケミズメイガ			NT	準絶滅危惧	
114			ヒトリガ	マエアカヒトリ			NT	準絶滅危惧	
115			ヤガ	ホソバミツモンケンモン				準絶滅危惧	
116				ベニモンコノハ				情報不足	
117		コウチュウ (鞘翅)	オサムシ	セアカオサムシ			NT	準絶滅危惧	
118			ハンミョウ	ヨドシロヘリハンミョウ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	
119				ハラビロハンミョウ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
120				カワラハンミョウ			EN	絶滅危惧Ⅰ類	
121				アイヌハンミョウ			NT	準絶滅危惧	
122				ルイスハンミョウ			EN	絶滅危惧Ⅱ類	
123				コニワハンミョウ				準絶滅危惧	
124			ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ			NT	準絶滅危惧	
125				ゲンゴロウ			VU	絶滅	
126				コガタノゲンゴロウ			VU		
127				スジゲンゴロウ			EX	絶滅	
128				コマルケシゲンゴロウ			NT		
129				ヒメケシゲンゴロウ			VU		
130				コウベツブゲンゴロウ			NT		
131				ルイスツブゲンゴロウ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
132				シャープツブゲンゴロウ			NT		
133				キベリマメゲンゴロウ			NT		
134			ミズスマシ	オオミズスマシ			NT		
135				コミズスマシ			EN	絶滅危惧Ⅱ類	
136				ミズスマシ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
137			コツブゲンゴロウ	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ			VU		
138			ガムシ	ガムシ			NT	準絶滅危惧	
139				コガタガムシ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
140			クワガタムシ	ネプトクワガタ本土亜種				分布特性上重要	
141				コクワガタ				分布特性上重要	

表 3.1-31(7) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類	目名	科名	種名	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
142	昆虫類	コウチュウ(鞘翅)	クワガタムシ	ヒラタクワガタ 本土亜種				分布特性上重要	
143				ミヤマクワガタ				分布特性上重要	
144				ノコギリクワガタ				分布特性上重要	
145			コガネムシ	アカマダラハナムグリ			DD	絶滅危惧Ⅰ類	
146			テントウムシ	ハラグロオオテントウ				情報不足	
147			カミキリムシ	トラフカミキリ				準絶滅危惧	
148		ハチ(膜翅)	シロアリモドキ キヤドリバチ	シロアリモドキヤドリ バチ			DD	情報不足	
149			ドロバチモドキ	ニッポンハナダカバチ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
小計		6 目	37 科	149 種	0 種	1 種	46 種	138 種	0 種
1	陸産貝類	アマオブネガイ	ゴマオカタニシ	ゴマオカタニシ			NT	準絶滅危惧	
2		ニナ	ヤマタニシ	ヤマタニシ				分布特性上重要	
3				アツブタガイ				分布特性上重要	
4				ケハダヤマトガイ※27			NT	準絶滅危惧	
5				サドヤマトガイ			NT	分布特性上重要	
6				ミジンヤマタニシ				分布特性上重要	
7				ムシオイガイ	ピルスブリムシオイ※27				準絶滅危惧
8			サツマムシオイ				NT	準絶滅危惧	
9			アズキガイ	アズキガイ				分布特性上重要	
10			ゴマガイ	キュウシュウゴマガイ				準絶滅危惧	
11				ヒダリマキゴマガイ				準絶滅危惧	
12			ヤマクルマガイ	ヤマクルマガイ				分布特性上重要	
13		マイマイ	マキゾメガイ	マルナタネガイ				準絶滅危惧	
14			キセルガイ	キュウシュウナミコギセル				準絶滅危惧	
15				カタギセル			NT	準絶滅危惧	
16				シイボルトコギセル				分布特性上重要	
17				ギュリキギセル				分布特性上重要	
18				シリオレギセル				準絶滅危惧	
19				アラナミギセル				準絶滅危惧	
20			ナメクジ	ナメクジ				分布特性上重要	
21			オカモノアラガイ	ヒメオカモノアラガイ				分布特性上重要	
22			ベッコウマイマイ	ベッコウマイマイ※27			DD	絶滅危惧Ⅱ類	
23				テラマチベッコウ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
24				ヒメベッコウ				準絶滅危惧	
25				ヤクシマヒメベッコウ				準絶滅危惧	
26				キヌツヤベッコウ※27			DD	準絶滅危惧	
27				ハリマキビ				準絶滅危惧	
28				ヒラシタラガイ			LP※19	準絶滅危惧※20	
29				カサキビ				準絶滅危惧	
30				タカキビ※27			NT	準絶滅危惧	
31				ウラジロベッコウ				準絶滅危惧	
32				ナミヒメベッコウ				準絶滅危惧	
33			ニッポンマイマイ(ナンバンマイマイ)	コベソマイマイ				準絶滅危惧	
34			オナジマイマイ	ウスカワマイマイ				分布特性上重要	

表 3.1-31 (8) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類	目名	科名	種名	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
35	陸産貝類	マイマイ	オナジマイマイ	フリイデルマイマイ				準絶滅危惧	
36				コハクオナジマイマイ				分布特性上重要	
37				ツクシマイマイ				分布特性上重要	
38				タカチホマイマイ				分布特性上重要	
39				ダコスタマイマイ				分布特性上重要	
40				キュウシュウシロマイマイ※27				準絶滅危惧	
小計		3 目	13 科	40 種	0 種	0 種	10 種	40 種	0 種
1	魚類	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ			EN	絶滅危惧Ⅰ類	
2		コイ	コイ	ニゴイ				情報不足	
3			ドジョウ	ドジョウ			NT	準絶滅危惧	
4		ナマズ	ギギ	アリアケギバチ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	
5		ダツ	メダカ	ミナミメダカ			VU	準絶滅危惧※21	
6		スズキ	アカメ	アカメ			EN	絶滅危惧Ⅰ類	
7			ハゼ	イドミミズハゼ			NT	絶滅危惧Ⅰ類	
8				ヒモハゼ			NT	準絶滅危惧	
9				ゴマハゼ			VU	準絶滅危惧	
10				マサゴハゼ			VU	準絶滅危惧	
11				スナゴハゼ				情報不足	
12				チクゼンハゼ			VU	準絶滅危惧	
小計		5 目	7 科	12 種	0 種	0 種	10 種	12 種	0 種
1	底生動物	アマオブネガイ	アマオブネガイ	カノコガイ				分布特性上重要	
2				ヒメカノコガイ			NT※22		
3		新生腹足	タニシ	マルタニシ			VU	準絶滅危惧	
4			ウミニナ	ウミニナ			NT	分布特性上重要	
5			トゲカワニナ	タケノコカワニナ			VU	準絶滅危惧	
6			カワニナ	カワニナ				分布特性上重要	
7			キバウミニナ	フトヘナタリガイ			NT※23	準絶滅危惧※23	
8				ヘナタリガイ			NT※24	準絶滅危惧※24	
9				カワアイガイ			VU※25	準絶滅危惧※25	
10			カワザンショウガイ	クリイロカワザンショウガイ			NT※26	絶滅危惧Ⅱ類	
11				サツマクリイロカワザンショウガイ				絶滅危惧Ⅰ類	
12				カワザンショウガイ				準絶滅危惧	
13				ウスイロオカチグサ				準絶滅危惧	
14				アカオカチグサ				準絶滅危惧	
15			ミズゴマツボ	ミズゴマツボ			VU	準絶滅危惧	
16			イトカケガイ	オダマキ			NT		
17			マクラガイ	マクラガイ			NT		
18			タケノコガイ	シチクガイ			NT		
19		汎有肺	オカミミガイ	キヌカツギハマシイノミガイ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	
20			モノアラガイ	ヒメモノアラガイ				分布特性上重要	
21				モノアラガイ			NT	準絶滅危惧	
22			ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ			DD	準絶滅危惧	
23		イシガイ	イシガイ	カラスガイ			NT		
24				イシガイ				情報不足	
25		マルスダレガイ	シジミ	ヤマトシジミ			NT	分布特性上重要	
26				マシジミ			VU	準絶滅危惧	

表 3. 1-31 (9) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類	目名	科名	種名	選定基準				
					①	②	③	④	⑤
27	底生動物	マル ス ダ レガイ	マルスダレガイ	ハマグリ			VU		
28			フジノハナガイ	フジノハナガイ			NT		
29		エビ	コブシガニ	マメコブシガニ				分布特性上重要	
30			ベンケイガニ	アカテガニ				分布特性上重要	
31			オサガニ	ヤマトオサガニ				分布特性上重要	
32			スナガニ	ハクセンシオマネ キ			VU	準絶滅危惧	
小計		6 目	22 科	32 種	0 種	0 種	21 種	25 種	0 種

注：1. 種名及び配列については原則として、哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類、陸産貝類、魚類、底生動物は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 30 年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、平成 30 年）、鳥類は「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（日本鳥学会、平成 24 年）に準拠した。

2. 選定基準は表 3. 1-30 参照。

3. 表中の※については以下のとおりである。

※1：「九州地方のカワネズミ」で掲載 ※2：ホンドノレンコウモリで掲載 ※3：ホンドキツネで掲載
 ※4：ニホンイタチで掲載 ※5：ニホンカワウソ（本州以南亜種）で掲載 ※6：ニホンカワウソで掲載
 ※7：「九州地方のカモシカ」で掲載 ※8：ニホンカモシカで掲載 ※9：コンジロヤマドリで掲載
 ※10：亜種ヒシクイ・オオヒシクイが該当 ※11：亜種ヒシクイが VU、亜種オオヒシクイが NT に該当
 ※12：亜種アカガシラカラスバト・ヨナクニカラスバトが該当 ※13：亜種シマアカモズが該当
 ※14：スギタニルリシジミ（九州亜種）で掲載 ※15：キシマミドリシジミ（本州・四国・九州亜種）で掲載
 ※16：タイワンツバメシジミ日本本土亜種で掲載 ※17：タイワンツバメシジミ（本土亜種）で掲載
 ※18：ウラナミジャノメ日本本土亜種で掲載 ※19：「九州以北のヒラシタラガイ」で掲載
 ※20：ヒラシタラで掲載 ※21：ミナミメダカ（陸摩型）で掲載 ※22：ヒメカノコで掲載 ※23：フトヘナタリで掲載
 ※24：ヘナタリで掲載 ※25：カワアイで掲載 ※26：クリイロカワザンショウで掲載
 ※27：鹿児島県レッドデータブックに記載種であるが、誤同定の可能性がある

(3) 注目すべき生息地

注目すべき生息地については、表 3. 1-32 に示す法令や規制等の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から選定した。

対象事業実施区域及びその周囲における注目すべき生息地は表 3. 1-33 及び図 3. 1-29 のとおり、鳥獣保護区 5 か所が存在し、鳥獣保護区の 1 つである観音ヶ池は対象事業実施区域に含まれている。

なお、注意喚起レベルについては、「風力発電立地検討のためのセンシティブティマップ」（環境アセスメントデータベース“EADAS”〔イーダス〕、閲覧：令和元年 12 月）によると、図 3. 1-26 及び図 3. 1-29 のとおり、対象事業実施区域を含むメッシュは「情報なし」となっている。

表 3.1-32(1) 注目すべき生息地の選定基準

選定基準	選定基準	文献その他資料
「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：平成 30 年 6 月 8 日)、「鹿児島県文化財保護条例」(昭和 30 年鹿児島県条例第 48 号)、「日置市文化財保護条例」(平成 17 年日置市条例第 97 号)、「鹿児島市文化財保護条例」(昭和 47 年鹿児島市条例第 17 号)、「薩摩川内市文化財保護条例」(平成 16 年薩摩川内市条例第 112 号)、「いちき串木野市文化財保護条例」(平成 17 年いちき串木野市条例第 177 号)、「始良市文化財保護条例」(平成 22 年始良市条例第 214 号)に基づく天然記念物	特天：特別天然記念物 国天：天然記念物 県天：鹿児島県天然記念物 市天：日置市指定天然記念物、鹿児島市指定天然記念物、薩摩川内市指定天然記念物、いちき串木野市、始良市指定天然物	「国指定文化財等データベース」(文化庁 HP、閲覧：令和元年 12 月)、「鹿児島県内の文化財一覧」(鹿児島県 HP、閲覧：令和元年 12 月)、「文化財・伝統芸能」(日置市 HP、閲覧：令和元年 12 月)、「薩摩川内市の文化財」(薩摩川内市 HP、閲覧：令和元年 12 月)、「文化財マップ」(いちき串木野市 HP、閲覧：令和元年 12 月)、「文化財(ヘリテージ)」(始良市 HP、閲覧：令和元年 12 月)
「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号、最終改正：令和元年 6 月 14 日)及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号、最終改正：令和元年 11 月 7 日)に基づく生息地等保護区等	生息：生息地等保護区	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号、最終改正：令和元年 11 月 7 日)
「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」(ラムサール条約)(昭和 55 年条約第 28 号、最終改正：平成 6 年 4 月 29 日)に基づく湿地	基準 1：特定の生物地理区を代表するタイプの湿地、又は希少なタイプの湿地 基準 2：絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地 基準 3：生物地理区における生物多様性の維持に重要な動植物を支えている湿地 基準 4：動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地。または悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地 基準 5：定期的に 2 万羽以上の水鳥を支える湿地 基準 6：水鳥の 1 種または 1 亜種の個体群で、個体数の 1%以上を定期的に支えている湿地 基準 7：固有な魚類の亜種、種、科の相当な割合を支えている湿地。また湿地というものの価値を代表するような、魚類の生活史の諸段階や種間相互作用、個体群を支え、それによって世界の生物多様性に貢献するような湿地 基準 8：魚類の食物源、産卵場、稚魚の生息場として重要な湿地。あるいは湿地内外における漁業資源の重要な回遊経路となっている湿地 基準 9：湿地に依存する鳥類に分類されない動物の種及び亜種の個体群で、その個体群の 1 パーセントを定期的に支えている湿地	「日本のラムサール条約湿地－豊かな自然・多様な湿地の保全と賢明な利用－」(環境省、平成 25 年)
「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(平成 14 年法律第 88 号、最終改正：平成 27 年 3 月 31 日)に基づく鳥獣保護区	国指定鳥獣保護区 特：特別保護地区 特指：特別保護指定区域 都道府県指定鳥獣保護区	「平成 30 年度鹿児島県鳥獣保護区位置図」(鹿児島県 HP、閲覧：令和元年 12 月)

表 3.1-32(2) 注目すべき生息地の選定基準

選定基準	選定基準	文献その他資料
「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月)に基づく湿地	基準 1：湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合 基準 2：希少種、固有種等が生育・生息している場合 基準 3：多様な生物相を有している場合 基準 4：特定の種の個体群のうち、相当数の割合の個体数が生息する場合 基準 5：生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、繁殖場等）である場合	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月)
「重要野鳥生息地 (IBA)」(日本野鳥の会 HP、閲覧：令和元年 12 月)に基づく生息区分	A1：世界的に絶滅が危惧される種、または全世界で保護の必要がある種が、定期的・恒常的に多数生息している生息地 A2：生息地域限定種 (Restricted-range species) が相当数生息するか、生息している可能性がある生息地 A3：ある 1 種の鳥類の分布域すべてもしくは大半が 1 つのバイオーム※に含まれている場合で、そのような特徴をもつ鳥類複数種が混在して生息する生息地、もしくはその可能性がある生息地 ※バイオーム：それぞれの環境に生きている生物全体 A4 i：群れを作る水鳥の生物地理的個体群の 1%以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト A4 ii：群れを作る海鳥または陸鳥の世界の個体数の 1%以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト A4 iii：1 種以上で 2 万羽以上の水鳥、または 1 万つがい以上の海鳥が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト A4 iv：渡りの隘路にあたる場所で、定められた閾値を超える渡り鳥が定期的に利用するボトルネックサイト	「IMPORTANT BIRD AREAS IN JAPAN 翼が結ぶ重要生息地ネットワーク」(日本野鳥の会 HP、閲覧：令和元年 12 月)
「生物多様性保全の鍵になる重要な地域 (KBA)」(コンサベーション・インターナショナル・ジャパン HP、閲覧：令和元年 12 月)に基づく区分	危機性：IUCN のレッドリストの地域絶滅危惧種 (CR、EN、VU) に分類された種が生息／生育する 非代替性：a) 限られた範囲にのみ分布している種 (RR)、b) 広い範囲に分布するが特定の場所に集中している種、c) 世界的にみて個体が一時的に集中する重要な場所、d) 世界的にみて顕著な個体の繁殖地、e) バイオリージョンに限定される種群	「Key Biodiversity Area 生物多様性保全の鍵になる重要な地域」(コンサベーション・インターナショナル・ジャパン HP、閲覧：令和元年 12 月)
「風力発電立地検討のためのセンシティビティマップ」(環境アセスメントデータベース “EADAS” [イーダス]、閲覧：令和元年 12 月)に基づくレベル区分	メッシュごとに重要種と集団飛来地のランクを合計し注意喚起レベルを決定 注意喚起レベル A1：メッシュのランク 6 注意喚起レベル A2：メッシュのランク 5 注意喚起レベル A3：メッシュのランク 3～4 注意喚起レベル B：メッシュのランク 2 注意喚起レベル C：メッシュのランク 1	「風力発電立地検討のためのセンシティビティマップ」(環境アセスメントデータベース “EADAS” [イーダス]、閲覧：令和元年 12 月)

表 3.1-33 注目すべき生息地

名称	選定基準	区分
丸山公園鳥獣保護区 滝の山鳥獣保護区 清浦ダム鳥獣保護区 観音ヶ池鳥獣保護区 遠見番山鳥獣保護区	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年法律第 88 号、最終改正：平成 27 年 3 月 31 日）	鳥獣保護区

「平成 30 年度鹿児島県鳥獣保護区位置図」（鹿児島県 HP、閲覧：令和元年 12 月）

「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）

「生物多様性の保全の鍵になる重要な地域（KBA）」（コンサベーション・インターナショナル・ジャパン HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成

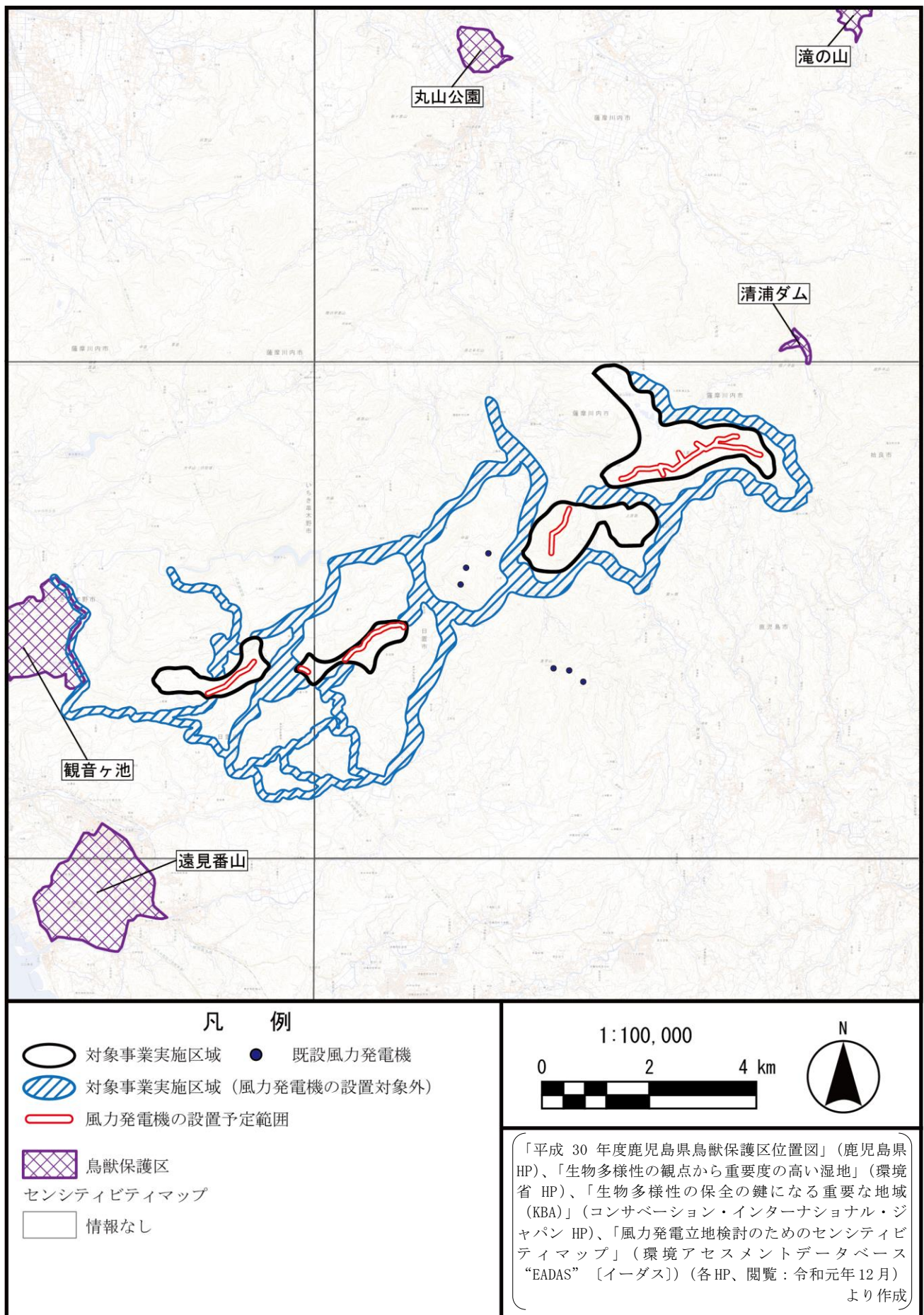


図 3.1-29 動物の注目すべき生息地

2. 植物の生育及び植生の状況

植物相及び植生の状況は、当該地域の自然特性を勘案し、対象事業実施区域及びその周囲（図 3.1-18）を対象に、文献その他の資料（「改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編―鹿児島県レッドデータブック 2016―」（鹿児島県、平成 28 年）等）により整理した。

対象事業実施区域及びその周囲における確認種を抽出した文献その他の資料は、表 3.1-34 のとおりである。

表 3.1-34 文献その他の資料による調査範囲（植物）

文献その他の資料名	調査範囲
「改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編―鹿児島県レッドデータブック 2016―」（鹿児島県、平成 28 年）	日置市、鹿児島市、薩摩川内市、いちき串木野市、姶良市（旧市町村含む）
「東市来町誌」（東市来町、平成 17 年）	旧東市来町
「入来町誌 上巻」（入来町、昭和 39 年）	旧入来町
「川内の生物」（川内町、昭和 56 年）	旧川内町
「姶良市誌」（姶良市、平成 31 年）	姶良市
「薩摩川内市桶脇町藤本周辺の植物」（鹿児島県立博物館研究報告、平成 29 年）	薩摩川内市

(1) 植物相の概要

対象事業実施区域及びその周囲の植物相の概要を表 3.1-35 のとおり整理した。維管束植物（シダ植物及び種子植物）1,545 種（亜種、変種、品種及び雑種を含む。）が確認されている。

表 3.1-35 植物相の概要

分類			主な確認種	
シダ植物			マツバラシ、フユノハナワラビ、イヌシダ、シシガシラ、ヤマヤブソテツ、ゲジゲジシダ、ヘラシダ、ミツデウラボシ等 (180 種)	
種子植物	裸子植物		アカマツ、クロマツ、スギ、ヒノキ、イヌガヤ、イチイ等 (10 種)	
	被子植物	双子葉植物	離弁花類	アカメヤナギ、イヌシデ、ミズナラ、ケヤキ、イタドリ、ウシハコベ、アキカラマツ、ミツバアケビ、ヒトリシズカ、オトギリソウ、ノリウツギ、カマツカ、ヤブマメ、ゲンノショウコ、イヌザンショウ、タチツボスミレ、アオキ、ハナイカダ、シラネセンキュウ等 (590 種)
			合弁花類	リョウブ、イチヤクソウ、ナツハゼ、オカトラノオ、リンドウ、センブリ、キヌタソウ、ムラサキシキブ、ヘラオオバコ、コバノガマズミ、オミナエシ、ミゾカクシ、オトコヨモギ、ナルトサワギク、ヒメジョオン等 (357 種)
		単子葉植物		ヤナギスブタ、ヒルムシロ、ウバユリ、タチシオデ、ヒオウギ、ツユクサ、トダシバ、ススキ、スズダケ、カラスビシャク、ヒメガマ、ハリイ、エビネ、クマガイソウ等 (408 種)
	合計			1, 545 種

注：1. 種名及び配列については、原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、令和元年）に準拠した。

2. 確認種については、表 3.1-34 に示す文献その他の資料より抽出した。

(2) 植生の概要

対象事業実施区域及びその周囲の現存植生図は図 3.1-30、凡例は表 3.1-37 のとおりである。

対象事業実施区域は、標高約 150～600m（標高 500m 以上は一部の範囲）の丘陵地の地形であり、潜在的には、ウラジログシ、スダジイ、タブノキ、イスノキ、クスノキ等の常緑広葉樹を優先樹林とした常緑広葉樹林を形成する場所である。

植生の分布状況として、比較的面積の広い群落は、「ヤブツバキクラス域代償植生」のシイ・カシ二次林、「植林地」のスギ・ヒノキ・サワラ植林である。対象事業実施区域には、その他に、「ヤブツバキクラス域代償植生」のハクサンボクーマテバシイ群落、伐採跡地群落、「植林地」の竹林、「耕作地植生」の畑雑草群落、水田雑草群落等が分布している。

対象事業実施区域及びその周囲の植生自然度は表 3.1-36 及び図 3.1-31 のとおりであり、植生自然度 4、5、6、8 が広がっている。

表 3.1-36 植生自然度の概要

植生自然度	植生区分
10	貧養地小型植物群落、ヨシクラス、セイタカヨシ群落、ツルヨシ群落、オギ群落、ヒルムシロクラス、オニバス群落、溪流辺植生、カワゴケソウクラス、ナガミノオニシバ群落、アイアシ群落、砂丘植生、チガヤハマゴウ群落、海岸断崖地植生、岩壁植生
9	イスノキウラジログシ群落、ルリミノキイチイガシ群落、ミミズバイースダジイ群落、ムクノキエノキ群落、ヤナギ高木群落（Ⅵ）、ヤナギ低木群落（Ⅵ）、マサキトベラ群落
8	シイ・カシ二次林、タブノキヤブニッケイ二次林
7	ハクサンボクーマテバシイ群落、コナラ群落（Ⅶ）、アカマツ群落（Ⅶ）
6	アカメガシワーカーラスザンショウ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、クロマツ植林、その他植林、その他植林（落葉広葉樹）、クスギ植林
5	メダケ群落、ネザサ群落、クズ群落、ススキ群団（Ⅶ）、チガヤススキ群落、ダンチク群落、ミゾソバヨシ群落、河辺一年生草本群落（タウコギクラス等）
4	伐採跡地群落（Ⅶ）、ゴルフ場・芝地、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落、放棄水田雑草群落
3	クスノキ植林、クスノキ巨木林、竹林、モウソウチク林、ハウライチク・ホテイチク林、果樹園、茶畑、常緑果樹園、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
2	外来水草群落、牧草地、畑雑草群落、水田雑草群落、緑の多い住宅地
1	市街地、工場地帯、造成地

注：植生自然度の区分は、「1/2.5 万植生図を基にした自然植生度について」（環境省、平成 28 年）に基づく。

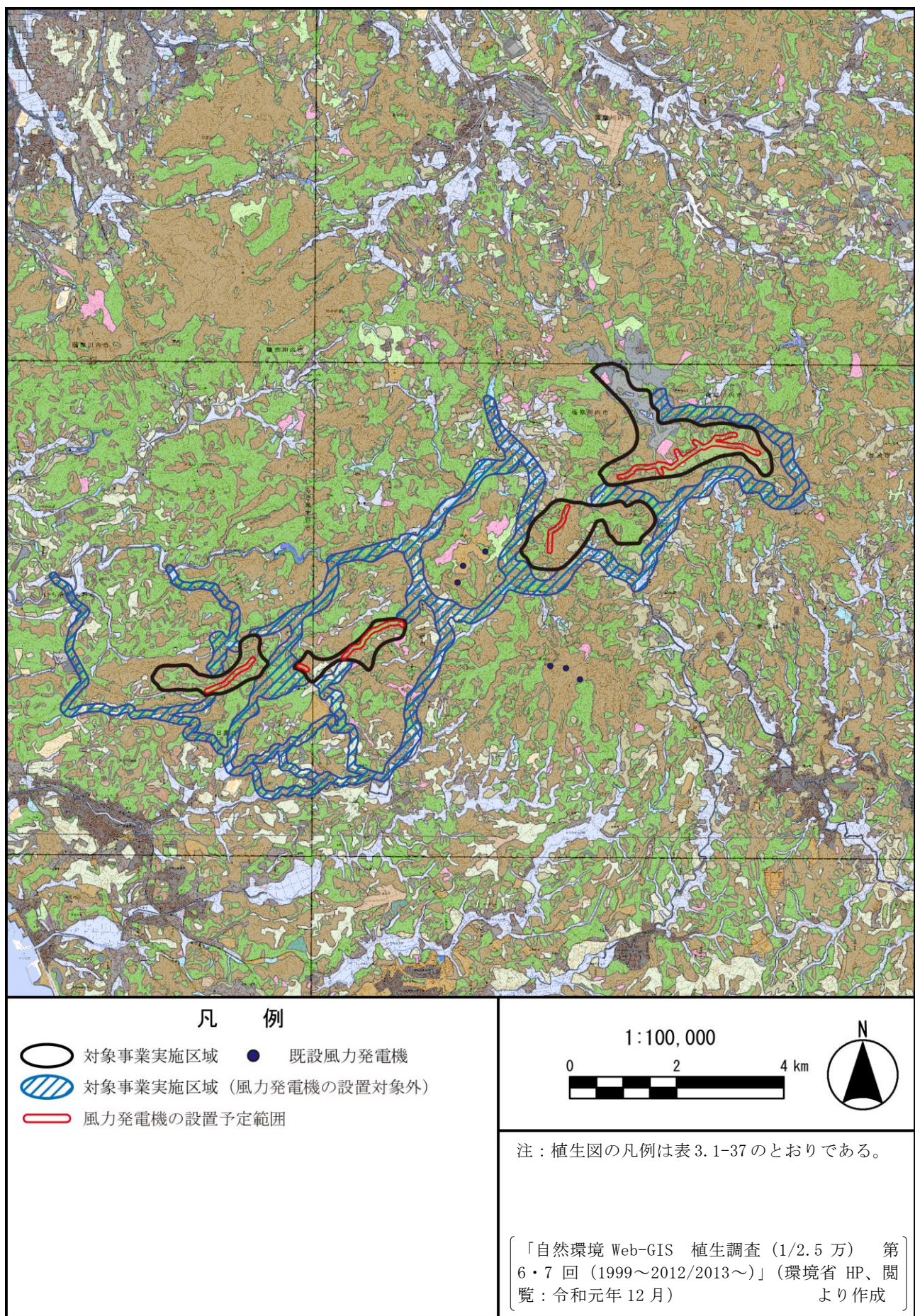


図 3.1-30(1) 文献その他の資料調査による現存植生図

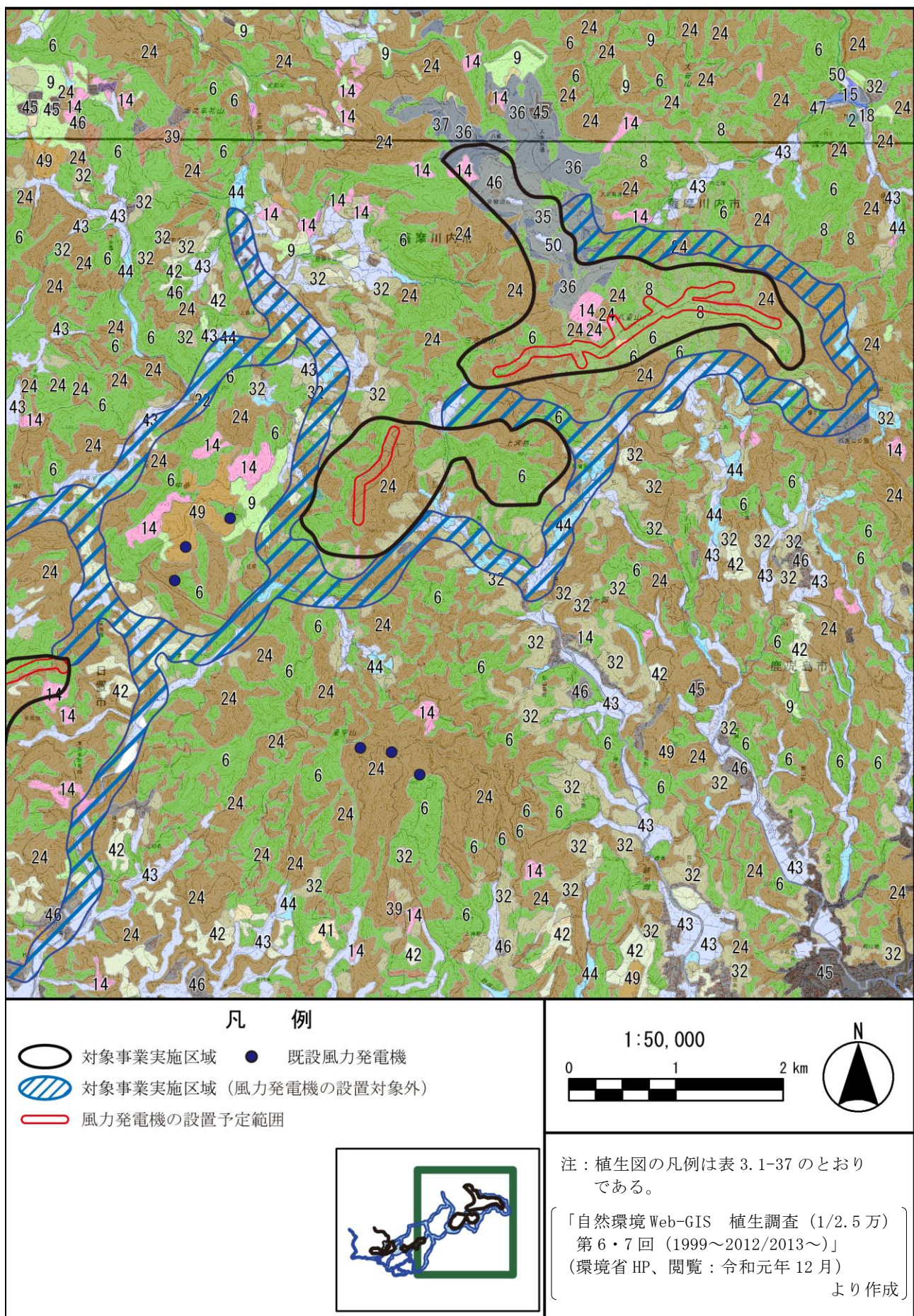


図 3.1-30(2) 文献その他の資料調査による現存植生図 (拡大図：東側)

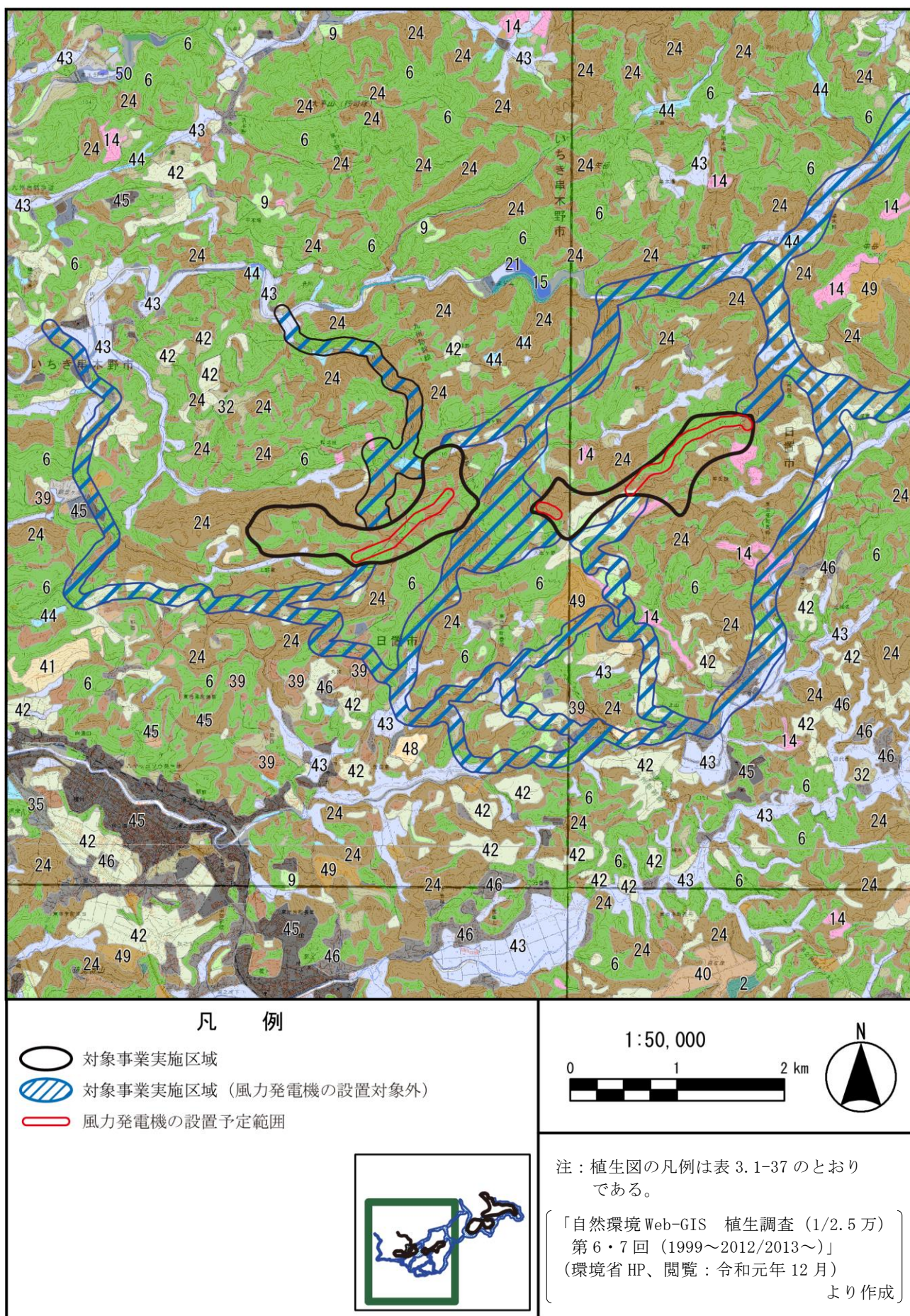


図 3.1-30(3) 文献その他の資料調査による現存植生図（拡大図：西側）

表 3.1-37 現存植生図凡例

植生区分	図面中No.	群落名	統一凡例No.
ヤブツバキクラス域自然植生	 1	ルリミノキーイチイガシ群集	270602
	 2	ミミズバイースダジイ群集	271205
	 3	ムクノキーエノキ群集	300201
	 4	ヤナギ高木群落 (VI)	320100
	 5	ヤナギ低木群落 (VI)	320200
ヤブツバキクラス域代償植生	 6	シイ・カシ二次林	400100
	 7	タブノキーヤブニッケイ二次林	400200
	 8	ハクサンボクーマテバシイ群落	400401
	 9	アカメガシワーカラスザンショウ群落	410700
	 10	メダケ群落	430200
	 11	ネザサ群落	430500
	 12	クズ群落	440200
	 13	ススキ群団 (VII)	450100
	 14	伐採跡地群落 (VII)	460000
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	 15	ヨシクラス	470400
	 16	ミゾソバーヨシ群落	470401
	 17	セイタカヨシ群落	470403
	 18	ツルヨシ群集	470501
	 19	オギ群集	470502
	 20	ヒルムシロクラス	470600
	 21	外来水草群落	470602
	 22	河辺一年生草本群落 (タウコギクラス等)	470900
	 23	岩壁植生	510300
植林地、耕作地植生	 24	スギ・ヒノキ・サワラ植林	540100
	 25	クロマツ植林	540300
	 26	外国産樹種植林	540900
	 27	テーダマツ植林	540903
	 28	その他植林	541000
	 29	その他植林 (落葉広葉樹)	541200
	 30	クヌギ植林	541202
	 31	クスノキ植林	541301
	 32	竹林	550000
	 33	モウソウチク林	550100
	 34	ホウライチク・ホテイチク林	550300
	 35	ゴルフ場・芝地	560100
	 36	牧草地	560200
	 37	路傍・空地雑草群落	570100
	 38	放棄畑雑草群落	570101
	 39	果樹園	570200
	 40	茶畑	570201
	 41	常緑果樹園	570202
	 42	畑雑草群落	570300
	 43	水田雑草群落	570400
	 44	放棄水田雑草群落	570500
その他	 45	市街地	580100
	 46	緑の多い住宅地	580101
	 47	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	580200
	 48	工場地帯	580300
	 49	造成地	580400
	 50	開放水域	580600
	 51	自然裸地	580700

注：1. 図面中 No. は図 3.1-30(2)～(3)の現存植生図内の番号に対応する。

2. 統一凡例 No. とは、「自然環境 Web-GIS 植生調査 (1/2.5 万) 第 6・7 回 (1999～2012/2013～)」
(環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月) の現存植生図に示される 6 桁の統一凡例 No. (凡例コード) である。

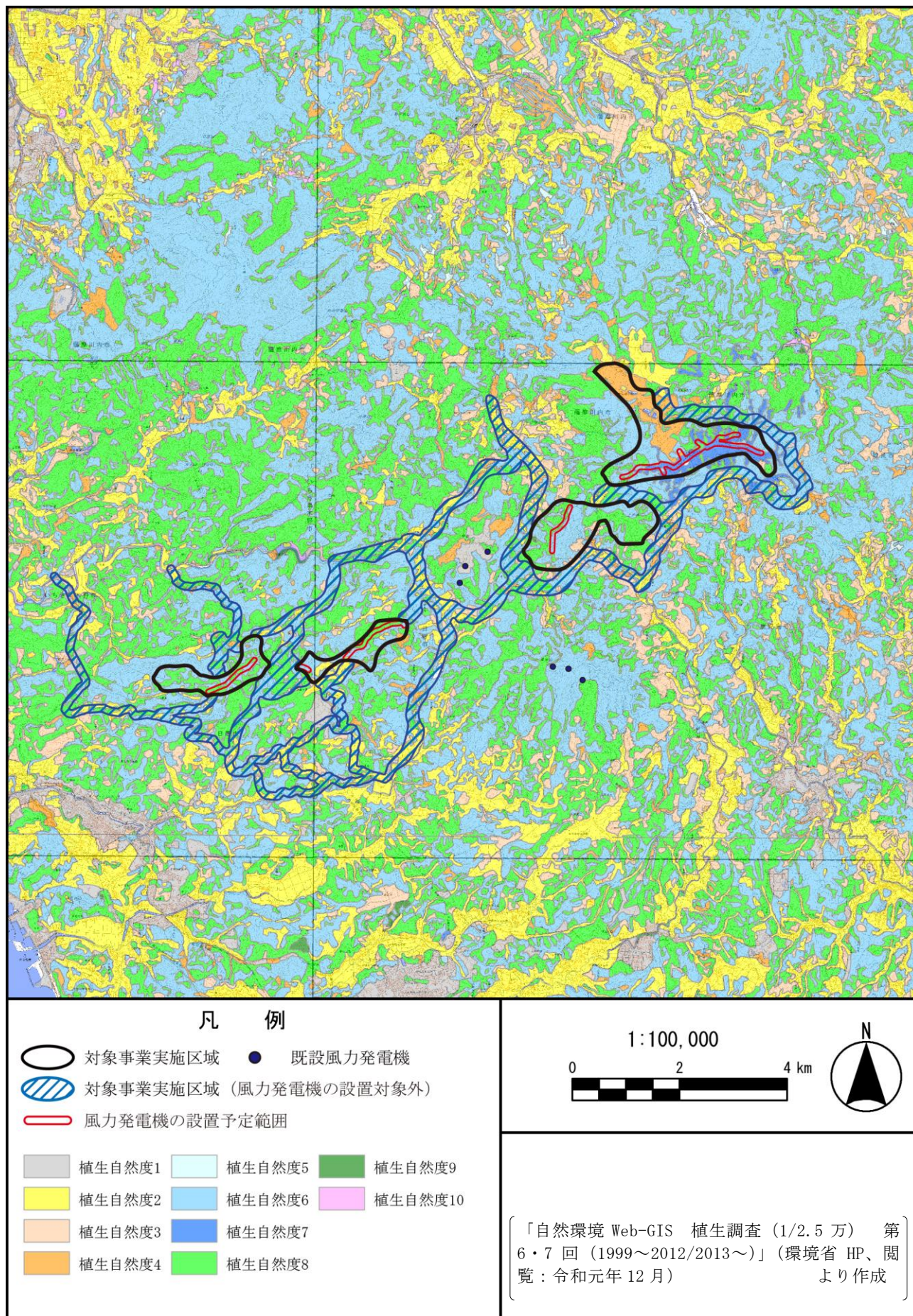


図 3.1-31 (1) 文献その他の資料調査による現存植生図(植生自然度)

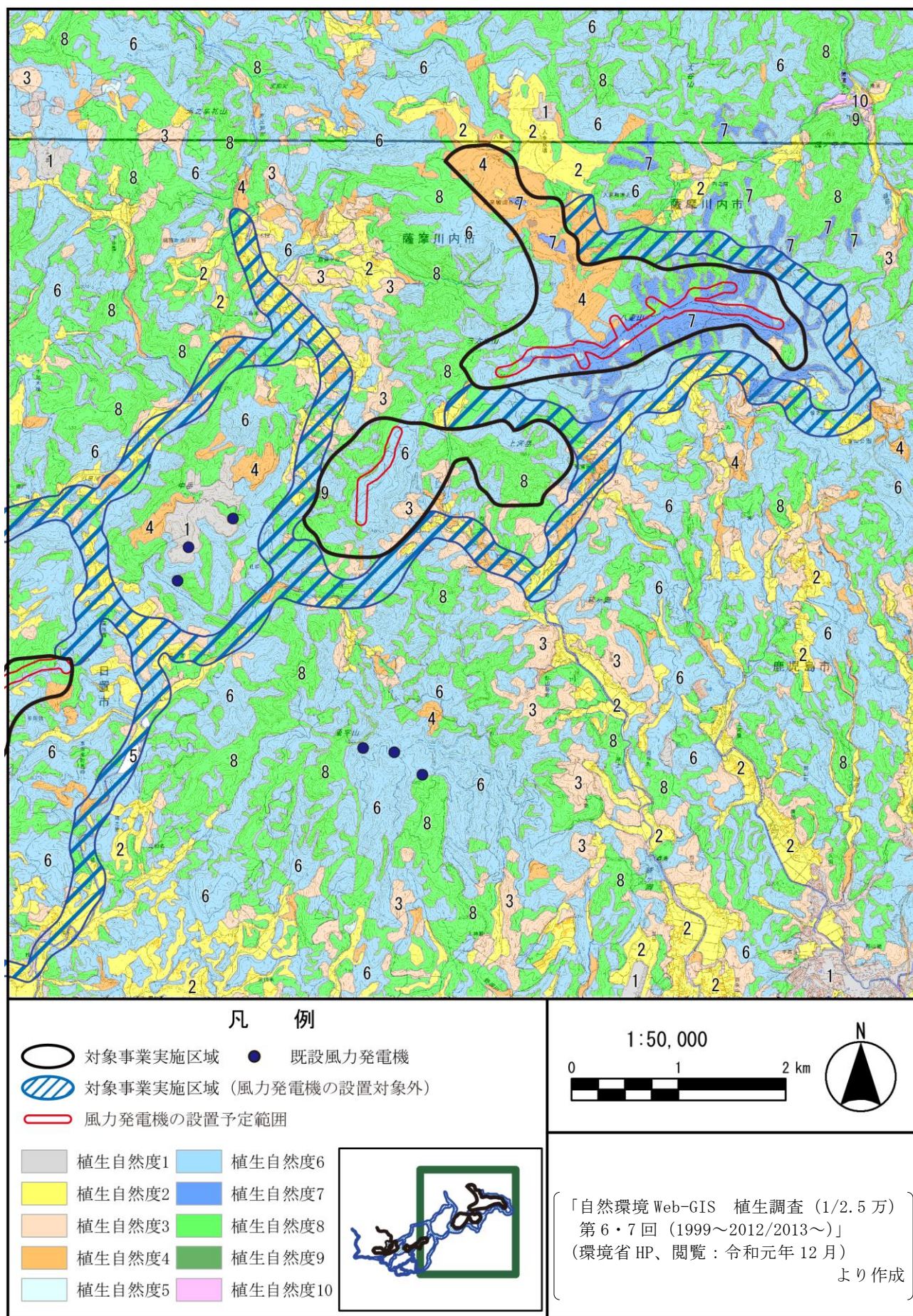


図 3.1-31 (2) 文献その他の資料調査による現存植生図(植生自然度)(拡大図：東側)

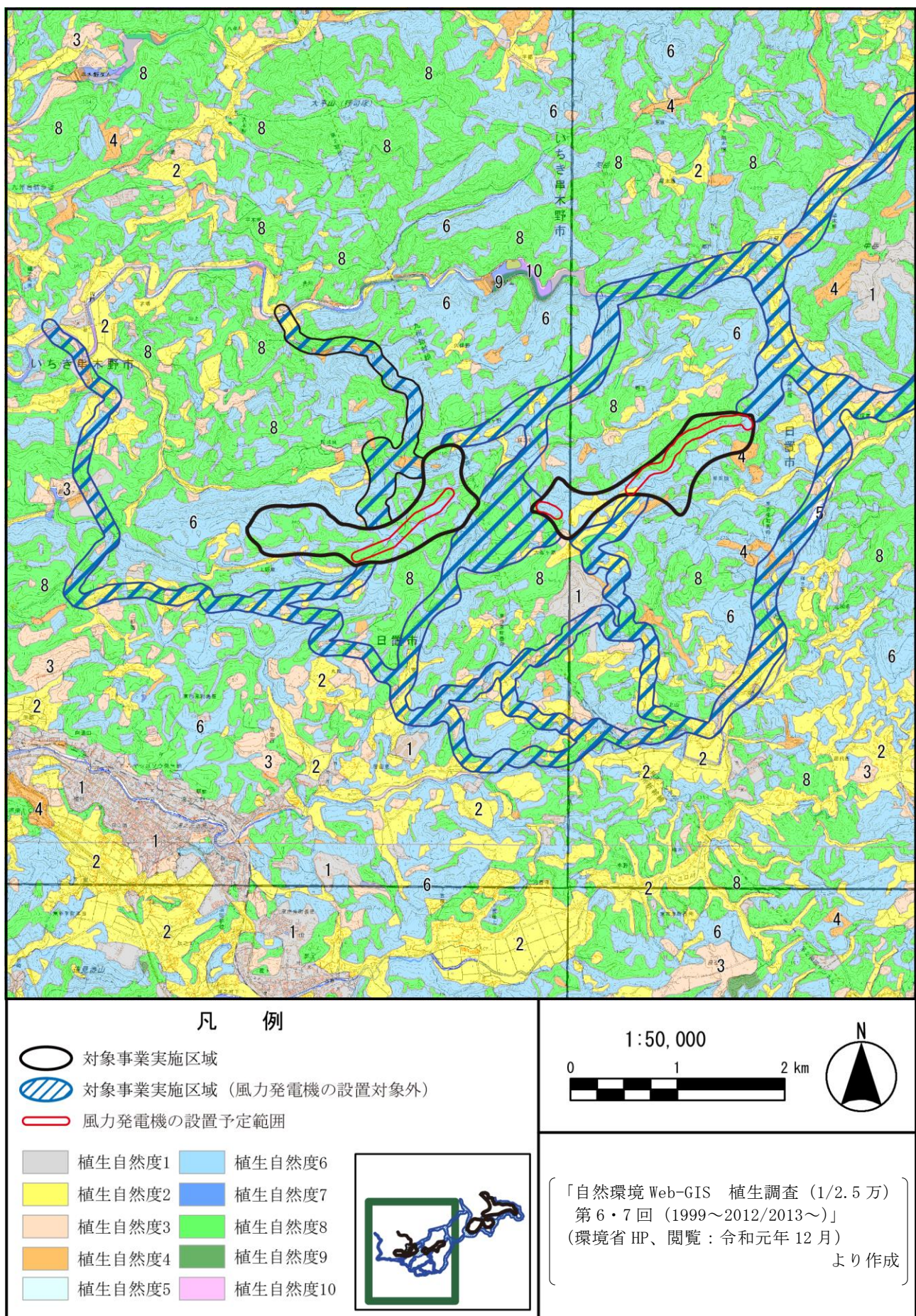


図 3.1-31(3) 文献その他の資料調査による現存植生図(植生自然度)(拡大図：西側)

(3) 植物の重要な種及び重要な群落

植物の重要な種及び重要な群落の選定基準は、表 3.1-38 のとおりである。

表 3.1-38(1) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準			文献その他の資料	重要な種	重要な群落
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：平成 30 年 6 月 8 日)、「鹿児島県文化財保護条例」(昭和 30 年鹿児島県条例第 48 号)、「日置市文化財保護条例」(平成 17 年日置市条例第 97 号)、「鹿児島市文化財保護条例」(昭和 47 年鹿児島市条例第 17 号)、「薩摩川内市文化財保護条例」(平成 16 年薩摩川内市条例第 112 号)、「いちき串木野市文化財保護条例」(平成 17 年いちき串木野市条例第 177 号)、「始良市文化財保護条例」(平成 22 年始良市条例第 214 号)に基づく天然記念物	特天：特別天然記念物 国天：天然記念物 県天：鹿児島県天然記念物 市天：日置市指定天然記念物、鹿児島市指定天然記念物、薩摩川内市指定天然記念物、いちき串木野市指定天然記念物、始良市指定天然物	「国指定文化財等データベース」(文化庁 HP、閲覧：令和元年 12 月)、「鹿児島県内の文化財一覧」(鹿児島県 HP、閲覧：令和元年 12 月)、「文化財・伝統芸能」(日置市 HP、閲覧：令和元年 12 月)、「薩摩川内市の文化財」(薩摩川内市 HP、閲覧：令和元年 12 月)、「文化財マップ」(いちき串木野市 HP、閲覧：令和元年 12 月)、「文化財(ヘリテージ)」(始良市 HP、閲覧：令和元年 12 月)	○	—
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号、最終改正：令和元年 6 月 14 日)及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号、最終改正：令和元年 11 月 7 日)に基づく国内希少野生動植物等	国内：国内希少野生動植物種 特定：特定国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年政令第 17 号、最終改正：令和元年 11 月 7 日)	○	—
③	「環境省レッドリスト 2019」(環境省、平成 31 年)の掲載種	EX：絶滅・・・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅・・・飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類・・・絶滅の危機に瀕している種 CR：絶滅危惧ⅠA 類・・・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN：絶滅危惧ⅠB 類・・・ⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU：絶滅危惧Ⅱ類・・・絶滅の危険が増大している種 NT：準絶滅危惧・・・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	「環境省レッドリスト 2019 の公表について」(環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月)	○	—

表 3.1-38(2) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準		文献その他の資料	重要な種	重要な群落	
④	「改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編ー鹿児島県レッドデータブック 2016ー」(鹿児島県、平成 28 年)の掲載種	絶滅：過去に県内に生息・生育した確実な記録があり、飼育・栽培下を含め、県内ではすでに絶滅したと考えられる種 野生絶滅：過去に県内に生息・生育したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、県内において野生ではすでに絶滅したと考えられる種 絶滅危惧Ⅰ類：現在の状態をもたらしただけの圧迫要因が引き続き作用する場合、県内において近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種 絶滅危惧Ⅱ類：現在の状態をもたらしただけの圧迫要因が引き続き作用する場合、県内において近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられる種 準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息・生育状況の推移から見て、「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有すると判断される種 分布特性上重要：現在のところ県内でごく普通に見られ、絶滅もしくは消滅の危険は低いと考えられるが、その分布の特性から考えて、今後の動向に注意を払っていくべきであると判断される種 情報不足：環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧・消滅危惧のカテゴリーに移行しうる属性を持っているが、生息・生育状況をはじめとして、ランクの決定に足るだけの情報が得られていないもの	「改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編ー鹿児島県レッドデータブック 2016ー」(鹿児島県、平成 28 年)	○	ー
⑤	「鹿児島県希少野生動植物の保護に関する条例」(平成 15 年鹿児島県条例第 11 号)で指定される指定希少野生動植物	希少：指定希少野生動植物種	「指定希少野生動植物の保護について」(鹿児島県 HP、閲覧：令和元年 12 月)	○	ー
⑥	「第 2 回自然環境保全基礎調査動植物分布図」(環境庁、昭和 56 年)、 「第 3 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書全国版」(環境庁、昭和 63 年)、 「第 5 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(環境庁、平成 12 年)に掲載されている特定植物群落	A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C：比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの G：乱獲、その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H：その他、学術上重要な植物群落または個体群	「第 2 回自然環境保全基礎調査動植物分布図」(環境庁、昭和 56 年)、 「第 3 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書全国版」(環境庁、昭和 63 年)、 「第 5 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(環境庁、平成 12 年)	ー	○
⑦	「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan、平成 8 年)に掲載の植物群落	4：緊急に対策必要 3：対策必要 2：破壊の危機 1：要注意	「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J, WWF Japan、平成 8 年)	ー	○
⑧	「第 5 回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書」(環境庁、平成 11 年)に掲載の植生自然度 10 及び植生自然度 9 の植生	植生自然度 10：自然草原(高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区)、岩壁植生等 植生自然度 9：自然林(エゾマツトドマツ群集、ブナ群落等、自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区)	「第 5 回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書」(環境庁、平成 11 年)	ー	○

① 重要な種

植物の重要な種は、「(1)植物相の概要」で確認された種について、選定基準に基づき学術上または希少性の観点から選定した。その結果、重要な種は表 3.1-39 のとおり 136 科 756 種であった。

表 3.1-39(1) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
1	シダ植物	マツバラン	マツバラン			NT	準絶滅危惧	
2		ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ				準絶滅危惧	
3		イワヒバ	イヌカタヒバ			VU		
4		ハナヤスリ	オオハナワラビ				分布特性上重要	
5			フユノハナワラビ				準絶滅危惧	
6		フサシダ	カニクサ				分布特性上重要	
7		コケシノブ	ハイホラゴケ				分布特性上重要	
8		コバノイシカグマ	イヌシダ				分布特性上重要	
9			ウスバイシカグマ			NT	準絶滅危惧	
10		ミズワラビ	イワガネゼンマイ				分布特性上重要	
11			イワガネソウ				分布特性上重要	
12		イノモトソウ	オオバノハチジョウシダ				分布特性上重要	
13			オオバノアマクサシダ				準絶滅危惧	
14			アイコハチジョウシダ				準絶滅危惧	
15			ヤワラハチジョウシダ			EN	準絶滅危惧	
16			マツザカシダ				準絶滅危惧	
17			サツマハチジョウシダ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
18			ヤクシマハチジョウシダ			VU	準絶滅危惧	
19		チャセンシダ	オオタニワタリ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
20			ヒノキシダ				分布特性上重要	
21			チャセンシダ				準絶滅危惧	
22			イヌチャセンシダ				準絶滅危惧	
23		シシガシラ	シシガシラ				分布特性上重要	
24			オオカグマ				分布特性上重要	
25			コモチシダ				分布特性上重要	
26		オシダ	リョウメンシダ				準絶滅危惧	
27			オトコシダ				準絶滅危惧	
28			オニカナワラビ				分布特性上重要	
29			ハガクレカナワラビ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
30			キョスミヒメワラビ				準絶滅危惧	
31			イズヤブソテツ				準絶滅危惧	
32			ミヤジマシダ				分布特性上重要	
33			ナガバヤブソテツ				準絶滅危惧	
34			ヤブソテツ				分布特性上重要	
35			ヤマヤブソテツ				準絶滅危惧	
36			ホソバヤブソテツ				準絶滅危惧	
37			ヒロハヤブソテツ				準絶滅危惧	
38			ツクシヤブソテツ				準絶滅危惧	
39			サイゴクベニシダ				準絶滅危惧	
40			ツクシイワヘゴ				分布特性上重要	
41			オオクジャクシダ				準絶滅危惧	
42			ベニシダ				分布特性上重要	
43			マルバベニシダ				分布特性上重要	
44			イヌタマシダ				準絶滅危惧	
45			オオベニシダ				準絶滅危惧	
46			クマワラビ				分布特性上重要	
47			トウゴクシダ				分布特性上重要	
48			ワカナシダ				準絶滅危惧	
49			ナガサキシダ				分布特性上重要	
50			ナガサキシダモドキ				準絶滅危惧	
51			オクマワラビ				分布特性上重要	
52			ヒメイタチシダ				準絶滅危惧	
53			ヤマイタチシダ				準絶滅危惧	
54			オオヤグルマシダ			CR	絶滅危惧Ⅰ類	
55			キュウシュウイノデ			CR	絶滅危惧Ⅰ類	
56			サイゴクイノデ				準絶滅危惧	
57			イノデモドキ				分布特性上重要	
58			ジュウモンジシダ				分布特性上重要	

表 3.1-39(2) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
59	シダ植物	オシダ	ヒメカナワラビ				準絶滅危惧	
60		ヒメシダ	ハリガネワラビ				分布特性上重要	
61			ヤワラシダ				分布特性上重要	
62			ヒメシダ				準絶滅危惧	
63			ヒメワラビ				分布特性上重要	
64			ミドリヒメワラビ				準絶滅危惧	
65		メシダ	カラクサイヌワラビ				絶滅危惧Ⅱ類	
66			ホソバイヌワラビ				準絶滅危惧	
67			タニイヌワラビ				分布特性上重要	
68			ウラボシノコギリシダ				分布特性上重要	
69			シケチシダ				分布特性上重要	
70			ホソバシケシダ				準絶滅危惧	
71			セイタカシケシダ				準絶滅危惧	
72			シケシダ				分布特性上重要	
73			イワヤシダ				絶滅危惧Ⅱ類	
74			シマシロヤマシダ				情報不足	
75			クワレシダ				分布特性上重要	
76			ウスバミヤマノコギリシダ				準絶滅危惧	
77			イヨクジャク			EN	絶滅危惧Ⅰ類	
78			フクレギシダ		国内	CR	絶滅危惧Ⅰ類	
79		ウラボシ	コマチイワヒトデ			EN	準絶滅危惧	
80			ヒトツバイワヒトデ				準絶滅危惧	
81			タカノハウラボシ				分布特性上重要	
82			ヒメノキシノブ				準絶滅危惧	
83			ツクシノキシノブ				準絶滅危惧	
84			ミヤマノキシノブ				準絶滅危惧	
85			クリハラン				分布特性上重要	
86			ヤノネシダ				準絶滅危惧	
87			イワオモダカ				準絶滅危惧	
88	裸子植物	マツ	アカマツ				分布特性上重要	
89			クロマツ				分布特性上重要	
90		スギ	スギ				準絶滅危惧	
91		ヒノキ	ヒノキ				準絶滅危惧	
92		マキ	ナギ				分布特性上重要	
93		イヌガヤ	イヌガヤ				準絶滅危惧	
94		イチイ	イチイ				絶滅危惧Ⅱ類	
95			カヤ				準絶滅危惧	
96	離弁花類	ツチトリモチ	ツチトリモチ				準絶滅危惧	
97		ヤナギ	アカメヤナギ				分布特性上重要	
98			ジャヤナギ				分布特性上重要	
99			ネコヤナギ				分布特性上重要	
100			イヌコリヤナギ				準絶滅危惧	
101			ヤマヤナギ				分布特性上重要	
102			タチヤナギ				準絶滅危惧	
103		カバノキ	オオバヤシャブシ				情報不足	
104			イヌシデ				分布特性上重要	
105		ブナ	クリ				分布特性上重要	
106			ツブラジイ				分布特性上重要	
107			スダジイ				分布特性上重要	
108			ブナ				絶滅危惧Ⅱ類	
109			シリブカガシ				分布特性上重要	
110			アカガシ				分布特性上重要	
111			ミズナラ				準絶滅危惧	
112			カシワ				準絶滅危惧	
113			イチイガシ				準絶滅危惧	
114			ハナガガシ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
115			シラカシ				分布特性上重要	
116			コナラ				分布特性上重要	

表 3. 1-39 (3) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
117	離弁花類	ブナ	ツクバネガシ				分布特性上重要	
118		ニレ	エノキ				分布特性上重要	
119			ハルニレ				分布特性上重要	
120			ケヤキ				準絶滅危惧	
121		クワ	ツルコウゾ				分布特性上重要	
122		イラクサ	ヤブマオ				分布特性上重要	
123			サイカイヤブマオ				情報不足	
124			メヤブマオ				分布特性上重要	
125			ナガバヤブマオ				準絶滅危惧	
126			コアカソ				分布特性上重要	
127			トキホコリ			VU		
128			ムカゴイラクサ				準絶滅危惧	
129			カテンソウ				情報不足	
130			トウカテンソウ			CR	絶滅危惧Ⅰ類	
131			ミヤマミズ				分布特性上重要	
132			ヤマミズ				準絶滅危惧	
133			アオミズ				絶滅危惧Ⅱ類	
134			イラクサ				準絶滅危惧	
135			イワガネ				分布特性上重要	
136		ボロボロノキ	ボロボロノキ				分布特性上重要	
137		ヤドリギ	オオバヤドリギ				分布特性上重要	
138			ヤドリギ				分布特性上重要	
139		タデ	ミズヒキ				分布特性上重要	
140			シンミズヒキ				分布特性上重要	
141			ウナギツカミ				情報不足	
142			ナガバナヤノネグサ				準絶滅危惧	
143			ミヤマタニソバ				絶滅危惧Ⅰ類	
144			ヒメタデ			VU	情報不足	
145			シロバナサクラタデ				分布特性上重要	
146			オオイヌタデ				分布特性上重要	
147			オオネバリタデ				絶滅危惧Ⅱ類	
148			タニソバ				絶滅危惧Ⅱ類	
149			ヤノネグサ				分布特性上重要	
150			ハナタデ				準絶滅危惧	
151			アキノウナギツカミ				分布特性上重要	
152			ミゾソバ				分布特性上重要	
153			ミチヤナギ				準絶滅危惧	
154			イタドリ				分布特性上重要	
155			スイバ				分布特性上重要	
156			コギシギシ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
157		ヤマゴボウ	ヤマゴボウ				情報不足	
158		ザクロソウ	クルマバザクロソウ				分布特性上重要	
159		ナデシコ	ハマナデシコ				準絶滅危惧	
160			カワラナデシコ				絶滅危惧Ⅱ類	
161			ヤマハコベ				準絶滅危惧	
162		アカザ	ハママツナ				準絶滅危惧	
163		ヒユ	ヒナタイノコズチ				分布特性上重要	
164			ヤナギイノコズチ				分布特性上重要	
165		モクレン	ホオノキ				絶滅危惧Ⅱ類	
166		シキミ	シキミ				分布特性上重要	
167		クスノキ	ニッケイ			NT	準絶滅危惧	
168			カナクギノキ				分布特性上重要	
169		ヤマグルマ	ヤマグルマ				準絶滅危惧	
170		キンボウゲ	ヒメウズ				分布特性上重要	
171			オオバショウマ				準絶滅危惧	
172			ボタンヅル				分布特性上重要	
173			フジセンニンソウ				準絶滅危惧	
174			タカネハンショウヅル				絶滅危惧Ⅱ類	

表 3. 1-39 (4) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
175	離弁花類	キンボウゲ	オキナグサ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	
176			ウマノアシガタ				分布特性上重要	
177			アキカラマツ				分布特性上重要	
178		メギ	メギ				絶滅危惧Ⅱ類	
179			ナンテン				分布特性上重要	
180		アケビ	アケビ				分布特性上重要	
181			ミツバアケビ				分布特性上重要	
182		スイレン	ジュンサイ				絶滅危惧Ⅱ類	
183			コウホネ				絶滅危惧Ⅱ類	
184			ヒツジグサ				絶滅危惧Ⅱ類	
185		マツモ	マツモ				絶滅危惧Ⅰ類	
186		ドクダミ	ハンゲショウ				分布特性上重要	
187		コショウ	サダソウ				準絶滅危惧	
188		センリョウ	ヒトリシズカ				絶滅危惧Ⅱ類	
189			フタリシズカ				分布特性上重要	
190		ウマノスズクサ	ウマノスズクサ				準絶滅危惧	
191			オオバウマノスズクサ				分布特性上重要	
192			キンチャクアオイ			VU	分布特性上重要	
193		マタタビ	ウラジロマタタビ				分布特性上重要	
194			サルナシ				準絶滅危惧	
195			マタタビ				分布特性上重要	
196		モウセンゴケ	モウセンゴケ				分布特性上重要	
197		ケシ	クサノオウ				準絶滅危惧	
198			キケマン				分布特性上重要	
199			ムラサキケマン				分布特性上重要	
200			タケニグサ				分布特性上重要	
201		アブラナ	ハタザオ				準絶滅危惧	
202			ジャニンジン				準絶滅危惧	
203			ミズタガラシ				絶滅危惧Ⅱ類	
204			コイヌガラシ			NT	準絶滅危惧	
205		ベンケイソウ	ツメレンゲ			NT	準絶滅危惧	
206			ヒメレンゲ				準絶滅危惧	
207		ユキノシタ	クサアジサイ				準絶滅危惧	
208			ヤマネコノメソウ				分布特性上重要	
209			ツクシネコノメソウ				分布特性上重要	
210			ウツギ				分布特性上重要	
211			マルバウツギ				分布特性上重要	
212			コガクウツギ				分布特性上重要	
213			ノリウツギ				分布特性上重要	
214			ガクウツギ				絶滅危惧Ⅱ類	
215			ナンゴクヤマアジサイ				分布特性上重要	
216			タコノアシ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
217			ジンジソウ				絶滅危惧Ⅰ類	
218			イワガラミ				分布特性上重要	
219			テリハイワガラミ				分布特性上重要	
220		バラ	ヒメキンミズヒキ				準絶滅危惧	
221			ザイフリボク				絶滅危惧Ⅰ類	
222			ダイコンソウ				分布特性上重要	
223			ヤマブキ				準絶滅危惧	
224			カナメモチ				準絶滅危惧	
225			カワラサイコ				絶滅危惧Ⅰ類	
226			ツチグリ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	
227			キジムシロ				分布特性上重要	
228			ミツバツチグリ				分布特性上重要	
229			オヘビイチゴ				準絶滅危惧	
230			カマツカ				分布特性上重要	
231			ノイバラ				分布特性上重要	
232			ニオイイバラ			NT※1	準絶滅危惧※2	

表 3.1-39(5) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
233	離弁花類	バラ	ヤマイバラ				準絶滅危惧	
234			フユイチゴ				分布特性上重要	
235			ビロードイチゴ				分布特性上重要	
236			クマイチゴ				分布特性上重要	
237			ミヤマフユイチゴ				準絶滅危惧	
238			クサイチゴ				分布特性上重要	
239			バライチゴ				準絶滅危惧	
240			ヒメバライチゴ				分布特性上重要	
241			ナガバモミジイチゴ				分布特性上重要	
242			コバノフユイチゴ				準絶滅危惧	
243			ナンキンナナカマド				分布特性上重要	
244			ウラジロノキ				絶滅危惧Ⅱ類	
245			シロバナシモツケ				準絶滅危惧	
246		マメ	ネムノキ				分布特性上重要	
247			ヤブマメ				分布特性上重要	
248			ホドイモ				準絶滅危惧	
249			ジャケツイバラ				準絶滅危惧	
250			タヌキマメ				準絶滅危惧	
251			オオバヌスビトハギ				分布特性上重要	
252			ヒメノハギ				絶滅危惧Ⅱ類	
253			フジカンゾウ				準絶滅危惧	
254			ケヤブハギ				準絶滅危惧	
255			ヤブハギ				準絶滅危惧	
256			ノササゲ				分布特性上重要	
257			ノアズキ				分布特性上重要	
258			ミヤマトベラ				準絶滅危惧	
259			ツルマメ				分布特性上重要	
260			ニワフジ				情報不足	
261			コマツナギ				分布特性上重要	
262			ヤハズソウ				分布特性上重要	
263			ヤマハギ				分布特性上重要	
264			ハイメドハギ				分布特性上重要	
265			マルバハギ				分布特性上重要	
266			シロヤマハギ				絶滅危惧Ⅱ類	
267			ネコハギ				分布特性上重要	
268			イヌハギ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
269			ナツフジ				分布特性上重要	
270			クズ				分布特性上重要	
271			クララ				準絶滅危惧	
272			ナンテンハギ				準絶滅危惧	
273			ヤブツルアズキ				分布特性上重要	
274			アカササゲ			EN	絶滅危惧Ⅰ類	
275			ヤマフジ				分布特性上重要	
276			フジ				準絶滅危惧	
277		トウダイグサ	コバンノキ				分布特性上重要	
278			ヒメミカンソウ				分布特性上重要	
279		ユズリハ	ユズリハ				分布特性上重要	
280		ミカン	マツカゼソウ				分布特性上重要	
281			タチバナ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
282			コクサギ				準絶滅危惧	
283			ミヤマシキミ				分布特性上重要	
284			サンショウ				分布特性上重要	
285			イヌザンショウ				分布特性上重要	
286		ニガキ	ニガキ				分布特性上重要	
287		ウルシ	ヤマハゼ				分布特性上重要	
288		カエデ	ウリハダカエデ				分布特性上重要	
289		アワブキ	アオカズラ			EN	絶滅危惧Ⅰ類	
290		ツリフネソウ	ツリフネソウ				準絶滅危惧	

表 3. 1-39 (6) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
291	離弁花類	モチノキ	シイモチ				分布特性上重要	
292			ナナミノキ				分布特性上重要	
293			イヌツゲ				分布特性上重要	
294			ツクシイヌツゲ				分布特性上重要	
295			タラヨウ				分布特性上重要	
296			アオハダ				準絶滅危惧	
297			ソヨゴ				分布特性上重要	
298			ウメモドキ				準絶滅危惧	
299		ニシキギ	ツルウメモドキ				分布特性上重要	
300			テリハツルウメモドキ				分布特性上重要	
301			ニシキギ				準絶滅危惧	
302			コマユミ				分布特性上重要	
303			オオコマユミ				準絶滅危惧	
304			ツルマサキ				準絶滅危惧	
305			ツリバナ				準絶滅危惧	
306			マユミ				分布特性上重要	
307			コクテング				分布特性上重要	
308		クロウメモドキ	クマヤナギ				分布特性上重要	
309			オオクマヤナギ				準絶滅危惧	
310			イソノキ				分布特性上重要	
311			ネコノチチ				分布特性上重要	
312		ブドウ	ウドカズラ				分布特性上重要	
313			ノブドウ				分布特性上重要	
314			ツタ				分布特性上重要	
315			エビヅル				分布特性上重要	
316		シナノキ	カラスノゴマ				分布特性上重要	
317		アオイ	ハマボウ				分布特性上重要	
318			ボンテンカ				分布特性上重要	
319		ジンチョウゲ	コショウノキ				分布特性上重要	
320			コガンピ				分布特性上重要	
321			キガンピ				分布特性上重要	
322		グミ	ナワシログミ				分布特性上重要	
323			タイワンアキグミ				準絶滅危惧	
324			アキグミ				分布特性上重要	
325		スマレ	アリアケスマレ				準絶滅危惧	
326			ヒメミヤマスミレ				分布特性上重要	
327			ツクシスマレ				分布特性上重要	
328			コタチツボスマレ				分布特性上重要	
329			コスミレ				分布特性上重要	
330			スマレ				分布特性上重要	
331			アツバスマレ				分布特性上重要	
332			コミヤマスミレ				分布特性上重要	
333			ヒメスマレ				準絶滅危惧	
334			ニオイタチツボスマレ				分布特性上重要	
335			ナガバタチツボスマレ				分布特性上重要	
336			アカネスマレ				分布特性上重要	
337			フモトスマレ				分布特性上重要	
338			ヒゴスマレ				絶滅危惧Ⅱ類	
339			ツボスマレ				分布特性上重要	
340			ノジスマレ				分布特性上重要	
341		キブシ	キブシ				分布特性上重要	
342			ナンバンキブシ				分布特性上重要	
343		ウリ	スズメウリ				分布特性上重要	
344			カラスウリ				分布特性上重要	
345			キカラスウリ				分布特性上重要	
346			モミジカラスウリ				準絶滅危惧	
347		ミソハギ	ヒメミソハギ				準絶滅危惧	
348			ミソハギ				準絶滅危惧	

表 3.1-39(7) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
349	離弁花類	ミソハギ	ミズキカシグサ			VU	準絶滅危惧	
350			ミズマツバ			VU	準絶滅危惧	
351		ヒシ	ヒシ				分布特性上重要	
352		ノボタン	ハシカンボク				準絶滅危惧	
353			ヒメノボタン			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
354		ヒルギ	メヒルギ				準絶滅危惧	
355		アカバナ	ミズタマソウ				分布特性上重要	
356			アカバナ				分布特性上重要	
357			ミズユキノシタ				分布特性上重要	
358			ミズキンバイ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
359		アリノトウグサ	フサモ				準絶滅危惧	
360		ウリノキ	ウリノキ				分布特性上重要	
361		ミズキ	ミズキ				分布特性上重要	
362			クマノミズキ				分布特性上重要	
363			ハナイカダ				分布特性上重要	
364		ウコギ	オカウコギ				分布特性上重要	
365			ウド				準絶滅危惧	
366			タラノキ				分布特性上重要	
367			ヤツデ				分布特性上重要	
368			ハリギリ				分布特性上重要	
369			トチバニンジン				準絶滅危惧	
370		セリ	ノダケ				分布特性上重要	
371			ツクシゼリ				準絶滅危惧	
372			シラネセンキュウ				分布特性上重要	
373			セントウソウ				分布特性上重要	
374			ハマゼリ				絶滅危惧Ⅱ類	
375			ミツバ				分布特性上重要	
376			ハナウド				分布特性上重要	
377			ヤブニンジン				分布特性上重要	
378			ボタンボウフウ				分布特性上重要	
379			カワラボウフウ				準絶滅危惧	
380			ラフレシア				分布特性上重要	
381		合弁花類	リョウブ				分布特性上重要	
382			イチャクソウ				絶滅危惧Ⅱ類	
383			アキノギンリョウソウ				準絶滅危惧	
384			ギンリョウソウ				分布特性上重要	
385			イチャクソウ				準絶滅危惧	
386			ツツジ	ネジキ			分布特性上重要	
387				アセビ			分布特性上重要	
388				ハヤトミツバツツジ		CR	絶滅危惧Ⅰ類	希少
389				ヤマツツジ			分布特性上重要	
390				オンツツジ			分布特性上重要	
391				ナツハゼ			絶滅危惧Ⅰ類	
392			サクラソウ	ミヤマタゴボウ			準絶滅危惧	
393				オカトラノオ			分布特性上重要	
394				ヌマトラノオ			分布特性上重要	
395		イソマツ	ハマサジ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
396		カキノキ	リュウキュウマメガキ				絶滅危惧Ⅱ類	
397		ハイノキ	シロバイ				分布特性上重要	
398			ハイノキ				分布特性上重要	
399			カンザブロウノキ				分布特性上重要	
400		モクセイ	ツクシトネリコ				情報不足	
401			マルバアオダモ				分布特性上重要	
402			オオバイボタ				情報不足	
403			ウスギモクセイ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
404			ヒイラギ				絶滅危惧Ⅰ類	
405		マチン	ホウライカズラ				分布特性上重要	
406		リンドウ	リンドウ				分布特性上重要	

表 3. 1-39 (8) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
407	合弁花類	リンドウ	コケリンドウ				分布特性上重要	
408			ハルリンドウ				準絶滅危惧	
409			フデリンドウ				分布特性上重要	
410			アケボノソウ				分布特性上重要	
411			センブリ				準絶滅危惧	
412			ムラサキセンブリ			NT	準絶滅危惧	
413			ツルリンドウ				分布特性上重要	
414		キョウチクトウ	テイカカズラ				分布特性上重要	
415		ガガイモ	ロクオンソウ			VU	準絶滅危惧	
416			ナンゴクカモメヅル			EN	絶滅危惧Ⅱ類	
417			タチカモメヅル				絶滅危惧Ⅰ類	
418			ガガイモ				情報不足	
419			コカモメヅル				準絶滅危惧	
420		アカネ	タニワタリノキ				分布特性上重要	
421			ヒメアリドオシ				分布特性上重要	
422			キクムグラ				準絶滅危惧	
423			ヤマムグラ				分布特性上重要	
424			ハナムグラ			VU		
425			ヨツバムグラ				準絶滅危惧	
426			ホソバノヨツバムグラ				準絶滅危惧	
427			ハシカグサ				分布特性上重要	
428			ソナレムグラ				分布特性上重要	
429			ルリミノキ				分布特性上重要	
430			サツマルリミノキ				分布特性上重要	
431			ヒロハコンロンカ				準絶滅危惧	
432			ミサオノキ				準絶滅危惧	
433			アカネ				分布特性上重要	
434			ハクチョウゲ			EN		
435			カギカズラ				分布特性上重要	
436		ヒルガオ	ヒルガオ				分布特性上重要	
437			ネナシカズラ				準絶滅危惧	
438		ムラサキ	オニルリソウ				準絶滅危惧	
439			オオルリソウ				準絶滅危惧	
440			マルバチシャノキ				準絶滅危惧	
441		クマツヅラ	コムラサキ				分布特性上重要	
442			ムラサキシキブ				分布特性上重要	
443			ヤブムラサキ				分布特性上重要	
444			クサギ				分布特性上重要	
445			アマクサギ				分布特性上重要	
446		アワゴケ	アワゴケ				準絶滅危惧	
447			ミズハコベ				準絶滅危惧	
448		シソ	カイジンドウ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	
449			タニジャコウソウ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
450			クルマバナ				分布特性上重要	
451			イヌトウバナ				分布特性上重要	
452			ヤマトウバナ				分布特性上重要	
453			ミズネコノオ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
454			カキドオシ				分布特性上重要	
455			ヤマハッカ				分布特性上重要	
456			ヒキオコシ				分布特性上重要	
457			オドリコソウ				分布特性上重要	
458			ヒメキセワタ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
459			ヤマジオウ				分布特性上重要	
460			ヒメサルダヒコ				分布特性上重要	
461			コシロネ				準絶滅危惧	
462			ヤマジソ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
463			イヌコウジュ				分布特性上重要	
464			レモンエゴマ				分布特性上重要	

表 3. 1-39 (9) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
465	合弁花類	シソ	ウツボグサ				準絶滅危惧	
466			アキノタムラソウ				分布特性上重要	
467			ホソバアキノタムラソウ				準絶滅危惧	
468			ミゾコウジュ			NT	準絶滅危惧	
469			ハルノタムラソウ				分布特性上重要	
470			コナミキ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
471			タツナミソウ				準絶滅危惧	
472			ニガクサ				絶滅危惧Ⅱ類	
473			ツルニガクサ				準絶滅危惧	
474		ナス	マルバノホロシ				絶滅危惧Ⅰ類	
475		フジウツギ	コフジウツギ				分布特性上重要	
476		ゴマノハグサ	ゴマクサ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
477			マルバノサワトウガラシ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
478			サワトウガラシ				分布特性上重要	
479			シマウリクサ				準絶滅危惧	
480			サギゴケ				分布特性上重要	
481			スズメハコベ			VU	準絶滅危惧	
482			シオガマギク				準絶滅危惧	
483			コシオガマ				準絶滅危惧	
484			ルリトラノオ			VU		
485			ゴマノハグサ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
486			オオヒナノウスツボ				絶滅危惧Ⅱ類	
487			ヒキヨモギ				分布特性上重要	
488			ハマクワガタ			VU		
489			イヌノフグリ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
490			カワヂシャ			NT	準絶滅危惧	
491			トラノオスズカケ				準絶滅危惧	
492		キツネノマゴ	ハグロソウ				準絶滅危惧	
493			スズムシバナ				絶滅危惧Ⅱ類	
494		イワタバコ	イワタバコ				分布特性上重要	
495		タヌキモ	ミミカキグサ				分布特性上重要	
496			ホザキノミミカキグサ				絶滅危惧Ⅱ類	
497			ミカワタヌキモ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	
498			タヌキモ			NT		
499		ハエドクソウ	ハエドクソウ				分布特性上重要	
500		スイカズラ	コツクバネウツギ				分布特性上重要	
501			キダチニンドウ				分布特性上重要	
502			スイカズラ				分布特性上重要	
503			ニワトコ				分布特性上重要	
504			ガマズミ				分布特性上重要	
505			ハクサンボク				分布特性上重要	
506		オミナエシ	オミナエシ				準絶滅危惧	
507			オトコエシ				分布特性上重要	
508		キキョウ	サイヨウシャジン				分布特性上重要	
509			ホタルブクロ				絶滅危惧Ⅱ類	
510			ツルギキョウ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
511			ツルニンジン				準絶滅危惧	
512			ツクシタニギキョウ				準絶滅危惧	
513			シデシャジン				絶滅危惧Ⅰ類	
514			キキョウ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
515		キク	ノブキ				準絶滅危惧	
516			キッコウハグマ				分布特性上重要	
517			マルバテイショウソウ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	
518			ホソバノヤマハハコ				準絶滅危惧	
519			ヒメヨモギ				準絶滅危惧	
520			ヨモギ				分布特性上重要	
521			ノコンギク				分布特性上重要	
522			シラヤマギク				分布特性上重要	

表 3.1-39(10) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
523	合弁花類	キク	ウラギク			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
524			センダングサ				準絶滅危惧	
525			ヤブタバコ				準絶滅危惧	
526			ヒメガンクビソウ				分布特性上重要	
527			シマカンギク				分布特性上重要	
528			ノジギク				準絶滅危惧	
529			ノアザミ				分布特性上重要	
530			ヤマアザミ				絶滅危惧Ⅱ類	
531			ツクシアザミ				準絶滅危惧	
532			イズハハコ			VU	準絶滅危惧	
533			クサヤツデ				準絶滅危惧	
534			フジバカマ			NT		
535			サケバヒヨドリ				分布特性上重要	
536			ヒヨドリバナ				分布特性上重要	
537			アキノハハコグサ			EN	絶滅危惧Ⅱ類	
538			ヤマジノギク				分布特性上重要	
539			ソナレノギク				準絶滅危惧	
540			オグルマ				絶滅危惧Ⅱ類	
541			ニガナ				分布特性上重要	
542			ハイニガナ				準絶滅危惧	
543			ホソバニガナ			EN	絶滅危惧Ⅰ類	
544			ヨメナ				分布特性上重要	
545			チョウセンヤマニガナ				準絶滅危惧	
546			ムラサキニガナ				分布特性上重要	
547			コオニタビラコ				分布特性上重要	
548			ヤブタビラコ				分布特性上重要	
549			センボンヤリ				準絶滅危惧	
550			モミジガサ				分布特性上重要	
551			モミジコウモリ			NT	絶滅危惧Ⅰ類	
552			フキ				分布特性上重要	
553			コウゾリナ				分布特性上重要	
554			シュウブソウ				分布特性上重要	
555			ヒナヒゴタイ			EN	絶滅危惧Ⅱ類	
556			サワオグルマ				絶滅危惧Ⅰ類	
557			メナモミ				準絶滅危惧	
558			アキノキリンソウ				分布特性上重要	
559			シロバナタンポポ				準絶滅危惧	
560			オナモミ			VU		
561			ヤクシソウ				分布特性上重要	
562	単子葉植物	オモダカ	ヘラオモダカ				絶滅危惧Ⅱ類	
563			ウリカワ				絶滅危惧Ⅱ類	
564		トチカガミ	マルミスブタ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
565			スブタ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
566			ヤナギスブタ				絶滅危惧Ⅰ類	
567			クロモ				絶滅危惧Ⅱ類	
568			ミズオオバコ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
569			セキショウモ				絶滅危惧Ⅱ類	
570		ヒルムシロ	イトモ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
571			コバノヒルムシロ			VU	情報不足	
572			ササバモ				絶滅危惧Ⅱ類	
573			ヤナギモ				分布特性上重要	
574		アマモ	コアマモ				準絶滅危惧	
575			アマモ				絶滅危惧Ⅱ類	
576		イバラモ	トリゲモ			VU	情報不足	
577		ユリ	ノギラン				分布特性上重要	
578			ヤマラッキョウ				準絶滅危惧	
579			クサスギカズラ				分布特性上重要	
580			ハラン				絶滅危惧Ⅱ類	

表 3. 1-39(11) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
581	単子葉植物	ユリ	シライトソウ				分布特性上重要	
582			ホウチャクソウ				絶滅危惧Ⅱ類	
583			ツクシショウジョウバカマ				準絶滅危惧	
584			オオバギボウシ				絶滅危惧Ⅱ類	
585			コバギボウシ				準絶滅危惧	
586			ノヒメユリ			EN	絶滅危惧Ⅰ類	
587			ウバユリ				分布特性上重要	
588			コオニユリ				分布特性上重要	
589			カノコユリ			VU	準絶滅危惧	
590			ジャノヒゲ				準絶滅危惧	
591			ナガバジャノヒゲ				準絶滅危惧	
592			ナルコユリ				準絶滅危惧	
593			オオナルコユリ				分布特性上重要	
594			アマドコロ				分布特性上重要	
595			キチジョウソウ				分布特性上重要	
596			オモト				準絶滅危惧	
597			サツマサンキライ				分布特性上重要	
598			サルトリイバラ				分布特性上重要	
599			タチシオデ				絶滅危惧Ⅱ類	
600			シオデ				準絶滅危惧	
601			ヤマジノホトトギス				分布特性上重要	
602			ホトトギス				分布特性上重要	
603			アマナ				絶滅危惧Ⅰ類	
604		ビャクブ	ヒメナベワリ				分布特性上重要	
605		ヒガンバナ	ショウキズイセン				絶滅危惧Ⅰ類	
606		キンバイザサ	キンバイザサ				準絶滅危惧	
607			コキンバイザサ				準絶滅危惧	
608		ヤマノイモ	ヤマノイモ				分布特性上重要	
609			カエデドコロ				分布特性上重要	
610			ヒメドコロ				分布特性上重要	
611			オニドコロ				分布特性上重要	
612		アヤメ	ヒオウギ				準絶滅危惧	
613		イグサ	ヒメコウガイゼキショウ				準絶滅危惧	
614			タチコウガイゼキショウ				絶滅危惧Ⅱ類	
615			アオコウガイゼキショウ				絶滅危惧Ⅱ類	
616			ホソイ				準絶滅危惧	
617			ハリコウガイゼキショウ				分布特性上重要	
618		ツユクサ	シマイボクサ				分布特性上重要	
619		ホシクサ	アマノホシクサ			CR	絶滅危惧Ⅰ類	
620			オオホシクサ				絶滅危惧Ⅱ類	
621			イトイヌノヒゲ				分布特性上重要	
622			ニッポンイヌノヒゲ				絶滅危惧Ⅰ類	
623			クロホシクサ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
624			ヒロハイヌノヒゲ				準絶滅危惧	
625		イネ	アオカモジグサ				分布特性上重要	
626			タチカモジグサ				準絶滅危惧	
627			トダシバ				分布特性上重要	
628			ミノゴメ				分布特性上重要	
629			ヤマカモジグサ				分布特性上重要	
630			スズメノチャヒキ				準絶滅危惧	
631			キツネガヤ				分布特性上重要	
632			ノガリヤス				準絶滅危惧	
633			カンチク				絶滅危惧Ⅱ類	
634			ウンヌケモドキ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
635			トボシガラ				分布特性上重要	
636			ムツオレグサ				準絶滅危惧	
637			ドジョウツナギ				準絶滅危惧	
638			コバノウシノシツペイ				分布特性上重要	

表 3.1-39(12) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
639	単子葉植物	イネ	ウシノシッパイ				準絶滅危惧	
640			ハイチゴザサ				分布特性上重要	
641			カモノハシ				準絶滅危惧	
642			アシカキ				絶滅危惧Ⅱ類	
643			サヤヌカグサ				準絶滅危惧	
644			アゼガヤ				分布特性上重要	
645			トウササクサ				準絶滅危惧	
646			ミノボロ				分布特性上重要	
647			ササガヤ				分布特性上重要	
648			オギ				分布特性上重要	
649			ネズミガヤ				分布特性上重要	
650			オオバチヂミザサ				準絶滅危惧	
651			アイアシ				分布特性上重要	
652			クサヨシ				準絶滅危惧	
653			ゴキダケ				分布特性上重要	
654			リュウキュウチク				分布特性上重要	
655			メダケ				分布特性上重要	
656			ヤダケ				分布特性上重要	
657			オオバヤダケ				絶滅危惧Ⅱ類	
658			ミヤコザサ				分布特性上重要	
659			ナリヒラダケ				準絶滅危惧	
660			イヌアワ				準絶滅危惧	
661			オカメザサ				分布特性上重要	
662			ソナレシバ				準絶滅危惧	
663			カニツリグサ				分布特性上重要	
664			マコモ				分布特性上重要	
665			シバ				分布特性上重要	
666			ナガミノオニシバ				準絶滅危惧	
667			コウライシバ				分布特性上重要	
668		サトイモ	ヤマコンニャク			VU	準絶滅危惧	
669			ヒメテンナンショウ				分布特性上重要	
670		ウキクサ	アオウキクサ				分布特性上重要	
671		ガマ	ガマ				準絶滅危惧	
672		カヤツリグサ	イトハナビテンツキ				準絶滅危惧	
673			イトテンツキ			NT	準絶滅危惧	
674			エナシヒゴクサ				絶滅危惧Ⅰ類	
675			ナルコスゲ				分布特性上重要	
676			オニスゲ				分布特性上重要	
677			カサスゲ				分布特性上重要	
678			タイワンスゲ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
679			マスクサ				分布特性上重要	
680			ヤマアゼスゲ				準絶滅危惧	
681			ホソバヒカゲスゲ				準絶滅危惧	
682			ヒゴクサ				分布特性上重要	
683			テキリスゲ				準絶滅危惧	
684			ナキリスゲ				準絶滅危惧	
685			サツマスゲ				準絶滅危惧	
686			キノクニスゲ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
687			ゴウソ				準絶滅危惧	
688			ヌカスゲ				分布特性上重要	
689			ノゲヌカスゲ				準絶滅危惧	
690			キシウナキリスゲ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
691			シバスゲ				分布特性上重要	
692			コジュズスゲ				絶滅危惧Ⅱ類	
693			フサナキリスゲ				分布特性上重要	
694			ツルナシオオイトスゲ				絶滅危惧Ⅱ類	
695			アゼスゲ				絶滅危惧Ⅱ類	
696			ヤワラスゲ				分布特性上重要	

表 3.1-39(13) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
697	単子葉植物	カヤツリグサ	ヒナガヤツリ				分布特性上重要	
698			カヤツリグサ				分布特性上重要	
699			クロミノハリイ			CR	情報不足	
700			スジヌマハリイ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
701			チャボイ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
702			ヒメヒラテンツキ				分布特性上重要	
703			クロテンツキ				分布特性上重要	
704			イヌノハナヒゲ				準絶滅危惧	
705			ヒメカンガレイ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	
706			ツクシカンガレイ				絶滅危惧Ⅱ類	
707			フトイ				分布特性上重要	
708			カンガレイ				分布特性上重要	
709			ヒゲアブラガヤ				準絶滅危惧	
710			ツクシアブラガヤ			EN	絶滅危惧Ⅱ類	
711			アブラガヤ				分布特性上重要	
712			カガシラ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
713			ケシンジュガヤ				準絶滅危惧	
714			ハナミョウガ				分布特性上重要	
715		ラン	シラン			NT	情報不足	
716			マメヅタラン			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
717			ミヤマムギラン			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
718			キリシマエビネ			EN	絶滅危惧Ⅰ類	希少
719			エビネ			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
720			ダルマエビネ			VU	絶滅危惧Ⅰ類	
721			サクラジマエビネ			CR	絶滅危惧Ⅰ類	希少
722			ナツエビネ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
723			キエビネ			EN	絶滅危惧Ⅱ類	
724			ギンラン				絶滅危惧Ⅰ類	
725			キンラン			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
726			サイハイラン				絶滅危惧Ⅱ類	
727			シュンラン				準絶滅危惧	
728			カンラン			EN	絶滅危惧Ⅰ類	希少
729			ナギラン			VU	準絶滅危惧	
730			クマガイソウ			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
731			セッコク				準絶滅危惧	
732			キバナノセッコク			EN	絶滅危惧Ⅱ類	
733			カキラン				準絶滅危惧	
734			タシロラン			NT	絶滅危惧Ⅱ類	
735			ツチアケビ				絶滅危惧Ⅱ類	
736			クロヤツシロラン				絶滅危惧Ⅱ類	
737			アキザキヤツシロラン				絶滅危惧Ⅰ類	
738			アケボノシュスラン				準絶滅危惧	
739			ミヤマウズラ				分布特性上重要	
740			シュスラン				準絶滅危惧	
741			ムカゴトンボ			EN	準絶滅危惧	
742			ムカゴソウ			EN	準絶滅危惧	
743			ムヨウラン				絶滅危惧Ⅱ類	
744			ユウコクラン				分布特性上重要	
745			クモキリソウ				絶滅危惧Ⅰ類	
746			ボウラン			NT	分布特性上重要	
747			ニラバラン				分布特性上重要	
748			フウラン			VU	絶滅危惧Ⅰ類	希少
749			ガンゼキラン			VU	絶滅危惧Ⅱ類	希少
750			オオバノトンボソウ				準絶滅危惧	
751			ヤマトキシソウ				絶滅危惧Ⅱ類	
752			カシノキラン			VU	絶滅危惧Ⅱ類	
753			ナゴラン			EN	絶滅危惧Ⅰ類	希少
754			クモラン				絶滅危惧Ⅰ類	

表 3. 1-39 (14) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	⑤
755	単子葉植物	ラン	ショウキラン				絶滅危惧Ⅰ類	
756			キヌラン				絶滅危惧Ⅱ類	
計	5 類	136 科	756 種	0 種	1 種	113 種	747 種	7 種

注：1. 種名及び配列については原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和元年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、令和元年）に準拠した。

2. 選定基準は表 3. 1-38 参照。

3. 確認種には、亜種、変種、品種及び雑種を含んでいる。

4. 表中の※については以下のとおりである。

※1：ヤクシマイバラが該当 ※2：ヤブイバラ（ニオイイバラ）で掲載

② 重要な群落

対象事業実施区域及びその周囲の重要な群落は表 3.1-40、分布位置は図 3.1-32 のとおり、「第 2 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁自然保護局 生物多様性センター、昭和 53 年）、「第 3 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁自然保護局 生物多様性センター、昭和 63 年）、「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁自然保護局 生物多様性センター、平成 12 年）において、「ヤッコウソウ自生のスダジイ林」の 1 件の特定植物群落が指定されている。「植物群落レッドデータ・ブック」（NACS-J, WWF Japan、平成 8 年）において、旧東市来町における植物群落が 1 件掲載されているが、詳細な位置情報は公表されていない。

重要な群落として植生自然度 10 及び 9 に該当する植生についても抽出した。1/2.5 万植生図の統一凡例に対応する植生自然度は表 3.1-41 のとおりである。なお、対象事業実施区域内においては、植生自然度 9 が局所的に分布している。

表 3.1-40 重要な植物群落

名称	対象範囲	選定基準	
		⑥	⑦
ヤッコウソウ自生のスダジイ林	—	B	

注：選定基準は表 3.1-38 参照。

「第 5 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」
 （環境庁自然保護局 生物多様性センター、平成 12 年）
 「植物群落レッドデータ・ブック」（NACS-J, WWF Japan、平成 8 年）より作成

表 3.1-41 重要な植物群落（植生自然度）

選定基準	植生区分	1/2.5 万植生図 統一凡例
⑧		
植生自然度 10	自然草原（高山ハイデ、風衝草原、自然草原等）、岩壁植生等	貧養地小型植物群落、ヨシクラス、セイタカヨシ群落、ツルヨシ群集、オギ群集、ヒルムシロクラス、オニバス群落、溪流辺植生、カワゴケソウクラス、ナガミノオニシバ群集、アイアシ群集、砂丘植生、チガヤーハマゴウ群集、海岸断崖地植生、岩壁植生
植生自然度 9	自然林（エゾマツートドマツ群集、ブナ群落等、自然植生のうち低木林、高木林）	ルリミノキーイチイガシ群集、ミミズバイースダジイ群集、ムクノキーエノキ群集、ヤナギ高木群落（VI）、ヤナギ低木群落（VI）、マサキートベラ群集

注：選定基準は表 3.1-38 参照。

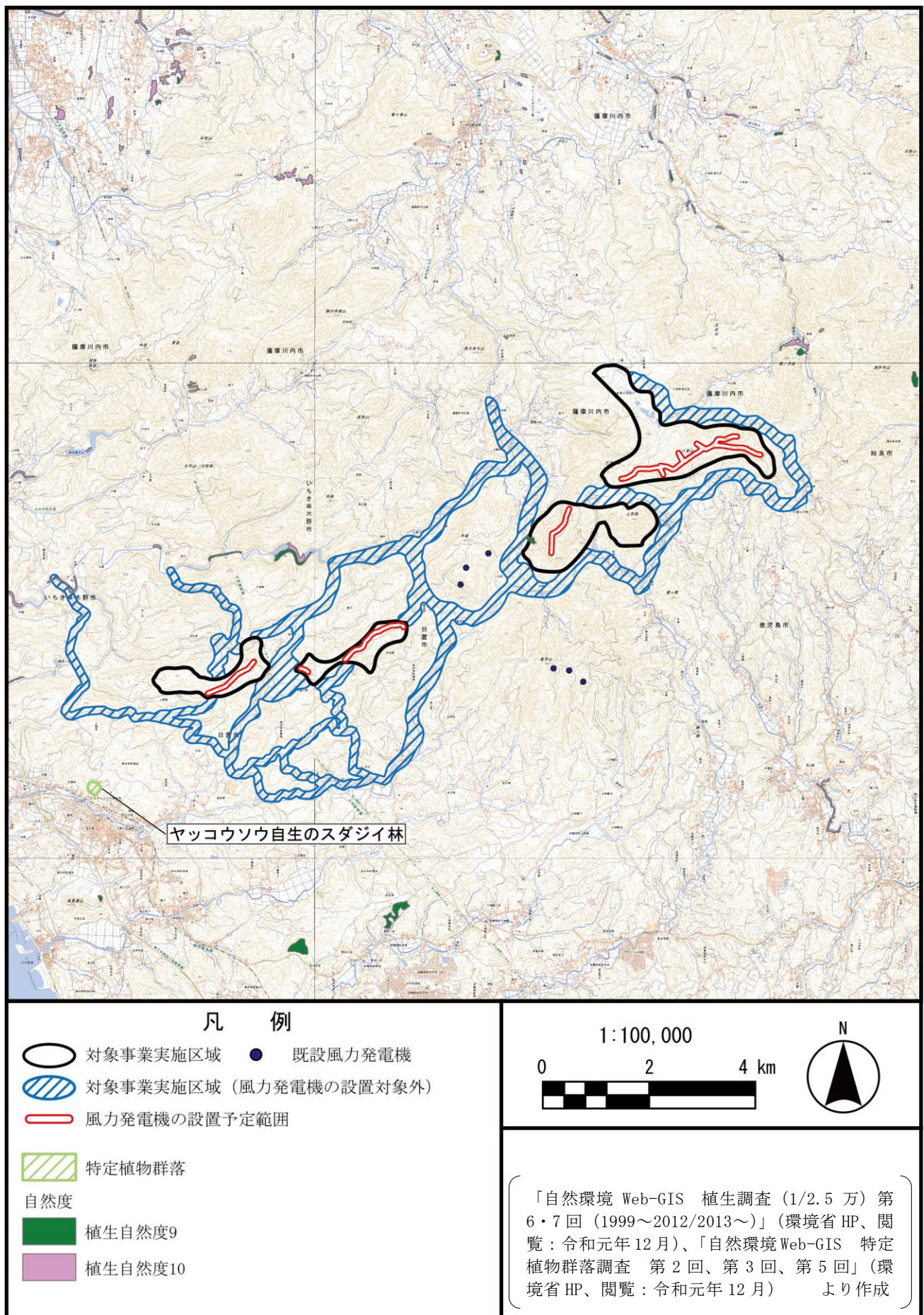


図 3.1-32 重要な植物群落の分布位置図

(4) 巨樹・巨木林・天然記念物

対象事業実施区域の周囲における巨樹・天然記念物は、表 3.1-42 及び図 3.1-33 のとおりであり、「自然環境 Web-GIS 巨樹・巨木林調査データベース」（環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月）によると、対象事業実施区域の周囲には巨樹が 5 件分布しているが、対象事業実施区域内には存在しない。

また、対象事業実施区域の周囲における天然記念物は、表 3.1-43 及び図 3.1-33 のとおりであり、対象事業実施区域の周囲には植物に係る天然記念物が 5 件分布しているが、対象事業実施区域内には存在しない。

表 3.1-42 対象事業実施区域の周囲の巨樹

番号	市名	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)
1	薩摩川内市	オガタマノキ	670	22
2	薩摩川内市	ケヤキ	390	30
3	いちき串木野市	クスノキ	400	40
4	いちき串木野市	ソテツ	170	10
5	いちき串木野市	ムクノキ	470	35

「自然環境 Web-GIS 巨樹・巨木林調査データベース」
(環境省 HP、閲覧：令和元年 12 月) より作成

表 3.1-43 対象事業実施区域の周囲の天然記念物

記号	指定	市名	名称	所在地
A	国	日置市	ヤッコソウ発生地	日置市東市来町湯田
B	国	薩摩川内市	永利のオガタマノキ	薩摩川内市永利町石神
C	市	薩摩川内市	鷹之巣神社のイチイガシ	入来、鷹ノ巣神社境内。幹周 4.4m。
D	市	薩摩川内市	鷹之巣神社のナギ	入来、鷹ノ巣神社境内。幹周 2.3m。
E	県	いちき串木野市	仙人岩の植物群落	いちき串木野市冠岳

「鹿児島県内の文化財一覧」（鹿児島県 HP、閲覧：令和元年 12 月）
「文化財・伝統芸能」（日置市 HP、閲覧：令和元年 12 月）
「薩摩川内市の文化財」（薩摩川内市 HP、閲覧：令和元年 12 月）
「文化財（ヘリテージ）」（始良市 HP、閲覧：令和元年 12 月）より作成

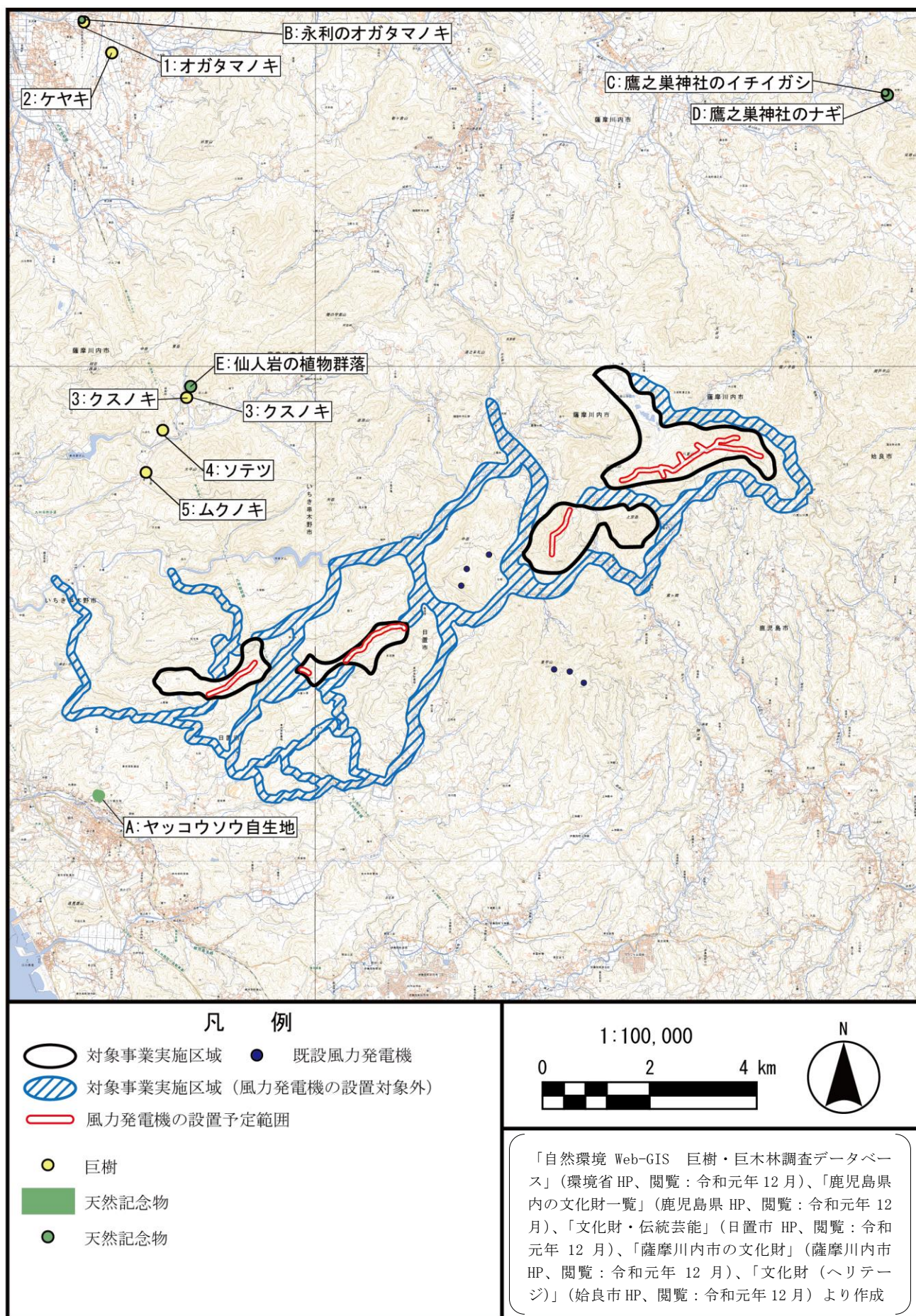


図 3.1-33 巨樹・天然記念物の分布位置図

3. 生態系の状況

(1) 環境類型区分

対象事業実施区域及びその周囲の環境類型区分の概要は表 3.1-44、その分布状況は図 3.1-34 のとおりである。

地形と植生区分の対応関係により、対象事業実施区域及びその周囲の環境は、自然林、二次林、植林地、草原・低木林、耕作地等、河辺・塩沼地等、市街地等及び河川・湖沼の 8 つの環境類型区分に分類される。

対象事業実施区域の環境類型区分は、主に二次林、植林地、耕作地等が広がり、一部に自然林、草原・低木林が分布している。

表 3.1-44 環境類型区分の概要

No.	環境類型区分	植生区分
1	自然林	ルリミノキーイチイガン群集、ミミズバイースダジイ群集、ムクノキーエノキ群集
2	二次林	シイ・カシ二次林、タブノキーヤブニッケイ二次林、ハクサンボクーマテバシイ群落、アカメガシワーカラスザンショウ群落、メダケ群落、ネザサ群落
3	植林地	スギ・ヒノキ・サワラ植林、クロマツ植林、外国産樹種植林、その他植林、その他植林（落葉広葉樹）、クヌギ植林、クスノキ植林、竹林、モウソウチク林、ホウライチク・ホテイチク林、テーダマツ植林
4	草原・低木林	クズ群落、ススキ群団（Ⅶ）、伐採跡地群落（Ⅶ）
5	耕作地等	ゴルフ場・芝地、牧草地、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落、果樹園、茶畑、常緑果樹園、外来水草群落、畑雑草群落、水田雑草群落、放棄水田雑草群落
6	河辺・塩沼地等	ヤナギ高木群落（Ⅵ）、ヤナギ低木群落（Ⅵ）、ヨシクラス、ミゾソバーヨシ群落、セイタカヨシ群落、ツルヨシ群集、オギ群集、ヒルムシロクラス、河辺一年生草本群落（タウコギクラス等）、岩壁植生
7	市街地等	市街地、緑の多い住宅地、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、工場地帯、造成地
8	河川・湖沼	ヨシクラス、ヒルムシロクラス等

注：植生区分は現存植生図凡例（表 3.1-37 参照）による。

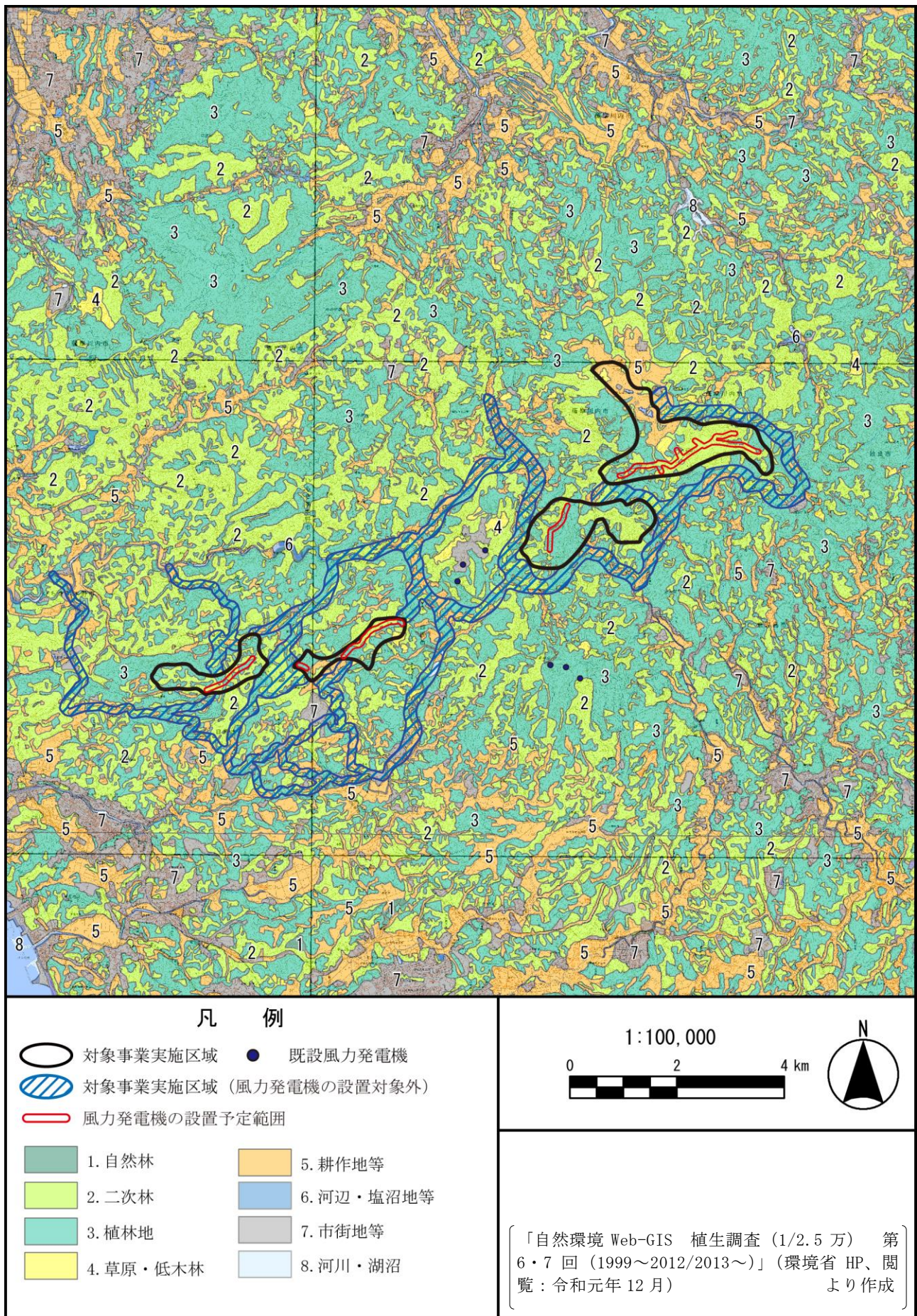


図 3.1-34 環境類型区分図

(2) 生態系の概要

地域の生態系（動植物群）を把握するために、対象事業実施区域及びその周囲の植生及び動植物相に関する文献その他の資料を基に、主要な生物種の相互作用として食物連鎖図の概要を図 3.1-35 に整理した。

環境類型区分別の食物連鎖をみると、以下のとおりである。

① 自然林・二次林・植林地

植生としては、主にシイ・カシ二次林、ハクサンボク・マテバシイ群落、スギ・ヒノキ・サクラ植林、クロマツ植林が広範囲を占め、これらの植生の構成種を生産者とし、コウチュウ類、セミ類、コガネムシ類等の昆虫類による 1 次消費者、ノウサギ、ネズミ類等の小型哺乳類（シラカシ、スダジイの植物の実を食用にしている場合は一次消費者）、ヤマガラ、ヒヨドリ、キビタキ等の小型鳥類等による 2 次消費者、アオダイショウ、ニホンマムシ等の爬虫類による 3 次消費者、オオタカ、クマタカ等の猛禽類による 4 次消費者で構成していると考えられる。

② 草原・低木林

植生としては、主にススキ群団、伐採跡地群落の低茎～高茎草本群落であり、これらの植生の構成種を生産者とし、バッタ類、チョウ類等の草食昆虫類による 1 次消費者、カマキリ類、クモ類、トンボ類等の肉食昆虫類による 2 次消費者、トノサマガエル等の両生類による 3 次消費者、アオダイショウ、ニホンマムシ等の爬虫類による 4 次消費者、サシバによる高次消費者で構成していると考えられる。

③ 耕作地等

植生としては、主に畑地雑草群落、水田雑草群落等であり、これらの植生の構成種を生産者とし、ノウサギ、カヤネズミ等の小型哺乳類による 1 次消費者、ホンドキツネ、ホンドテンの哺乳類による高次消費者で構成していると考えられる。

④ 河川・湖沼

植生としては、ヨシクラス、ヒルムシロクラスであり、これらの植生の構成種を生産者とし、マルタニシ、カワニナ、モンカゲロウ等の底生動物等による 1 次消費者、カジカガエル、アカハライモリ等の両生・爬虫類、ドジョウ、コイ・フナ類等の魚類による 2 次消費者、コウノトリ、サギ類、カワセミ等の鳥類による高次消費者で構成していると考えられる。

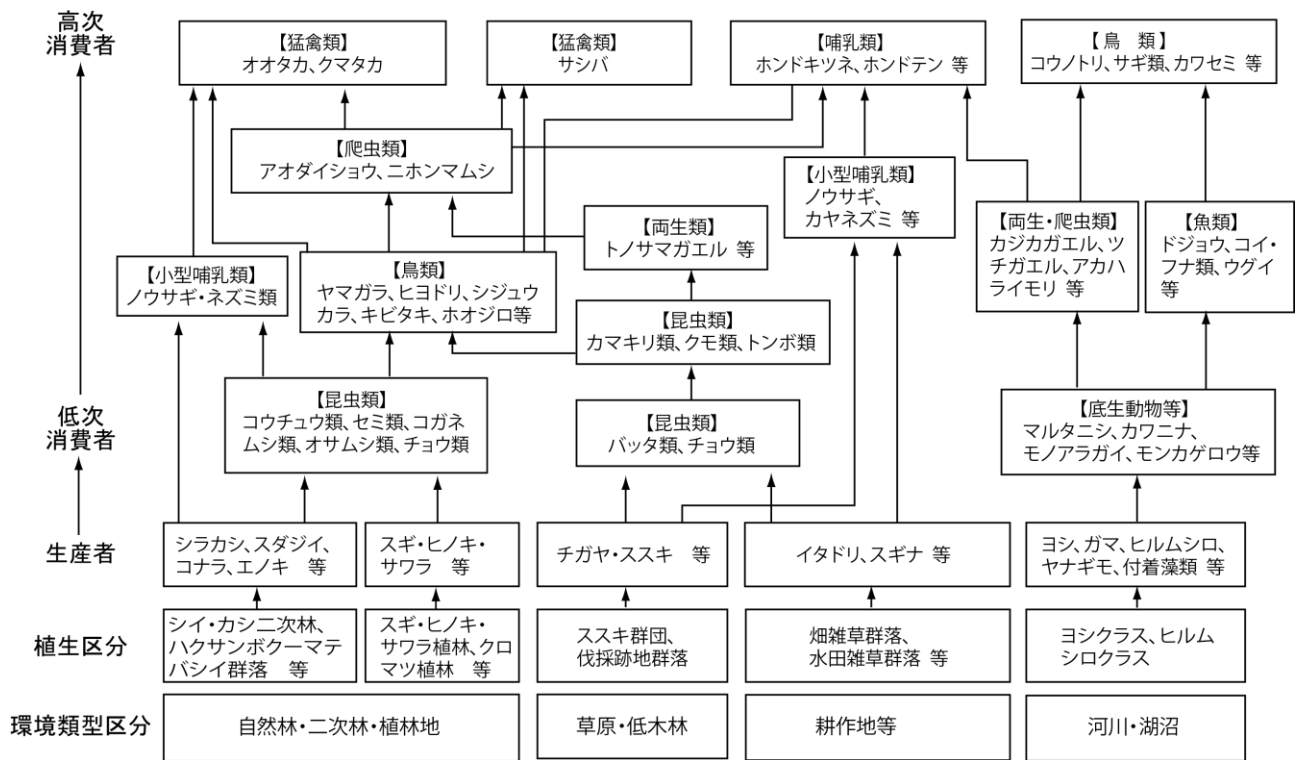


図 3.1-35 食物連鎖模式図

(3) 重要な自然環境のまとまりの場

対象事業実施区域及びその周囲の自然環境について、重要な自然環境のまとまりの場の抽出を行った。抽出された重要な自然環境のまとまりの場及び自然植生は表 3.1-45 及び図 3.1-36 のとおりである。

表 3.1-45 対象事業実施区域及びその周囲の重要な自然環境のまとまりの場

重要な自然環境のまとまりの場		抽出理由
自然植生	植生自然度 10	環境省植生図におけるヨシクラス、ツルヨシ群集等に該当する植生である。
	植生自然度 9	環境省植生図における、ルリミノキーイチイガシ群集、ミミズバイースダジイ群集、ムクノキーエノキ群集、ヤナギ高木群落等に該当する植生である。
自然公園	蘭傘田池県立自然公園 吹上浜金峰山県立自然公園	自然公園法及びそれに基づく都道府県の条例の規定に基づき、その都道府県を代表する優れた風景地について指定された自然公園の一種である。
保安林		水源涵養林や土砂崩壊防止機能を有する緑地等、地域において重要な機能を有する自然環境である。
鳥獣保護区	丸山公園、滝の山、清浦ダム、観音ヶ池、遠見番山	鳥獣の保護を図るため、保護の必要があると認められた地域である。
巨樹・巨木林		自然環境保全基礎調査において定められた原則幹回りが 3m 以上の巨木及び巨木林である。
特定植物群落	(選定基準：B) ヤッコウソウ自生のスダジイ林	自然環境保全基礎調査において定められた特定植物群落選定基準の「A：原生林もしくはそれに近い自然林」、「B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群」、「C：比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群」、「D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの」、「E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの」、「F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの」、「G：乱獲、その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群」、「H：その他、学術上重要な植物群落または個体群」に該当する植物群落である。

「自然環境 Web-GIS 植生調査 (1/2.5 万) 第 6・7 回 (1999～2012/2013～)」(環境省 HP)
「国土数値情報」(国土交通省 HP)
「平成 30 年度 鹿児島県鳥獣保護区位置図 1」(鹿児島県 HP)
「自然環境 Web-GIS 特定植物群落調査 第 2 回、第 3 回、第 5 回」(環境省 HP)
「自然環境 Web-GIS 巨樹・巨木林調査データベース」(環境省 HP)
(各 HP、閲覧：令和元年 12 月)

より作成

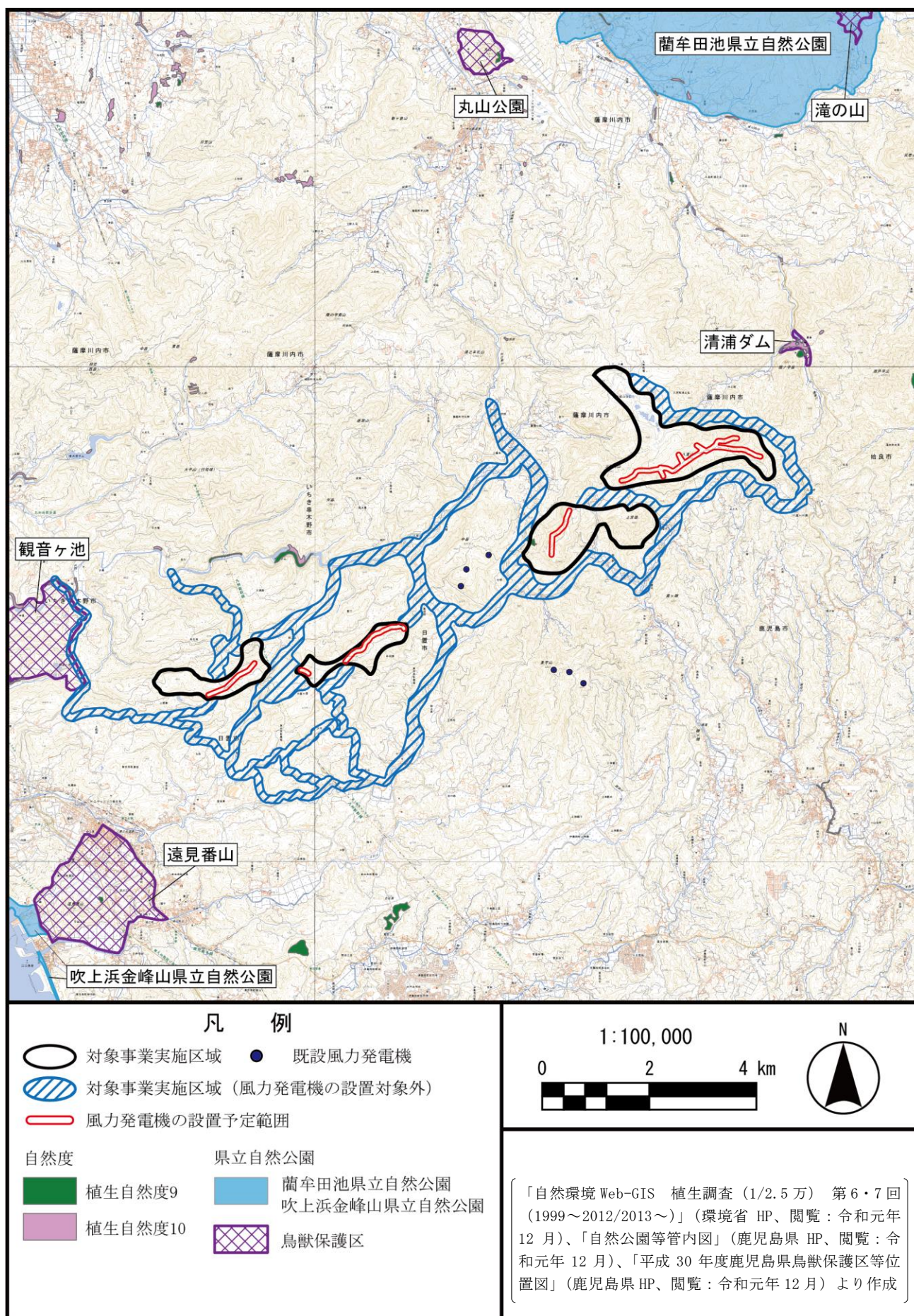


図 3.1-36(1) 重要な自然環境のまとまりの場

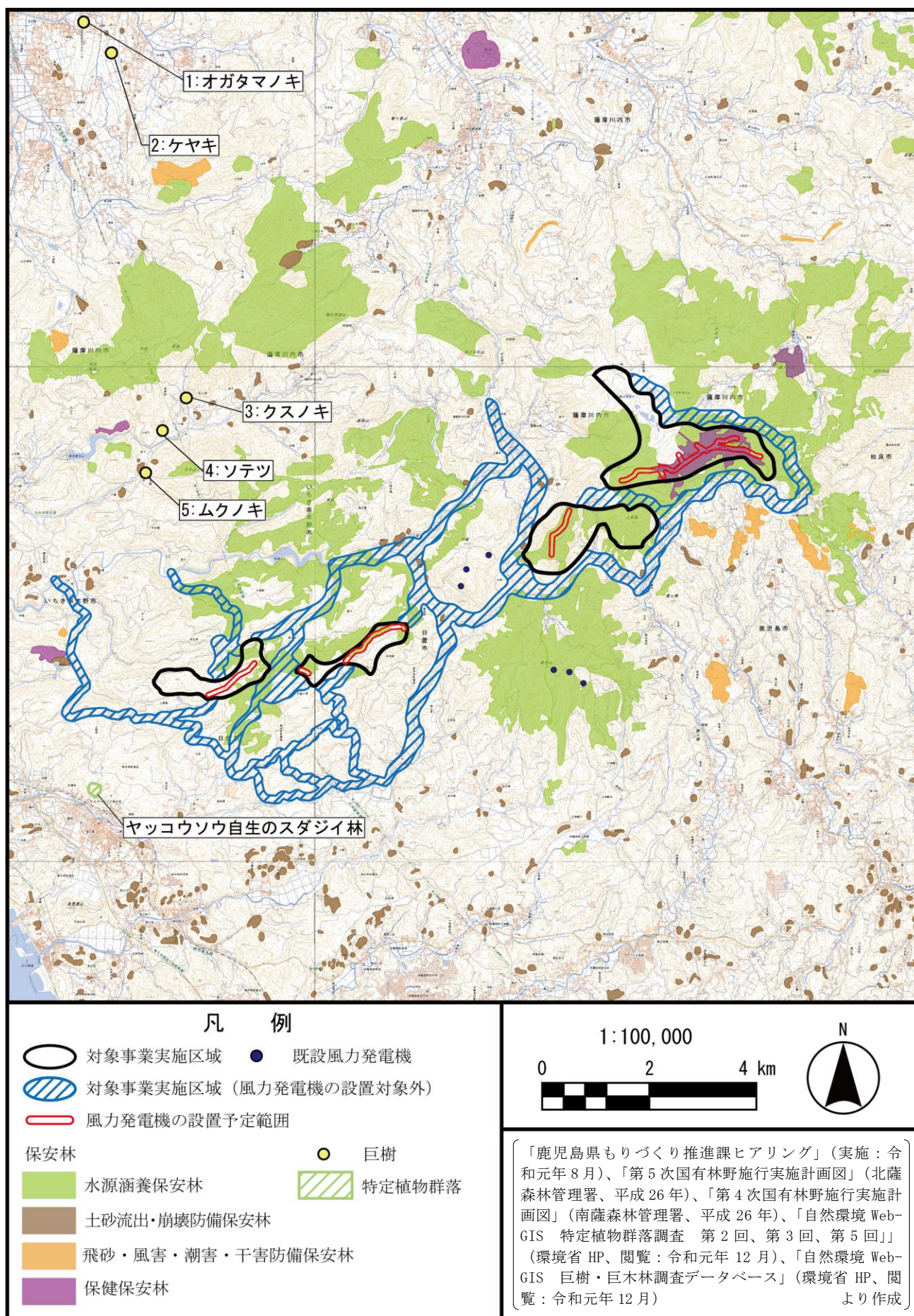


図 3.1-36(2) 重要な自然環境のままとりの場

3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

1. 景観の状況

対象事業実施区域は鹿児島県の西部に位置し、西には東シナ海がある。対象事業実施区域の北側には蘭牟田池県立自然公園、西側には吹上浜金峰山県立自然公園がある。

鹿児島県ではすべての市町村が景観行政団体になっており、鹿児島市及び薩摩川内市では景観計画を策定している。

(1) 主要な眺望点の分布及び概要

文献その他の資料調査結果を踏まえ、以下の条件を勘案し抽出した。

- ・ 公的な HP や観光パンフレット等に掲載されている情報であること。
- ・ 不特定かつ多数の利用がある地点又は眺望利用の可能性のある地点であること。

対象事業実施区域及びその周囲の主要な眺望点は、表 3.1-46 及び図 3.1-37 のとおりである。

表 3.1-46 主要な眺望点

番号	眺望点	概 要
①	向山自然公園	入来町の中央部にあり、3 つの山に囲まれた公園。古くは龍遊山と呼ばれ、相対する清色城から見た形が龍が遊んでる姿に似ていることに由来している。
②	飯盛山展望所	蘭牟田池県立自然公園内にある展望所。360 度のパノラマが広がり、桜島、霧島連山が見渡せる。
③	八重山公園	一般国道 328 号の入来峠からの八重地区の入口に位置する公園。鹿児島市街地や桜島を望め、天気恵まれた日は、薩摩半島の最南端の開聞岳が望める。
④	八重の棚田（甲突池）	甲突川の源流域である八重地区の急傾斜地に広がる石積みの棚田。好天時には鹿児島市街地、更には噴煙たなびく桜島と錦江湾を遠く臨むことができる。
⑤	伊集院森林公園	日置市で最も高い重平山の東南部に位置し、桜島、錦江湾、霧島など 360 度の展望が開けている。
⑥	城山公園（展望台）	伊集院地域市街地のほぼ中央部に位置する公園で標高 142m の小高い丘になっている。市街地より徒歩で約 10 分の近距離に位置する公園。展望台からは、市街地・東シナ海・桜島などが望める。
⑦	矢筈岳	標高 302m。飯牟礼台地の東側に位置し、眼下には飯牟礼地域のお茶畑のほか、伊集院市街地、重平山、八重岳が広がり、東側には桜島や、晴天時には霧島連山も望める。
⑧	江口浜展望所	休憩所やイベント広場などが備わる吹上浜初の人工ビーチ。東シナ海に面し、夕日が望める。
⑨	冠岳展望公園	いちき串木野市の市街地から、北西方向にある冠岳は東岳、中岳、西岳の三つの峰からなる。その西岳の中腹にある展望公園からは、東シナ海といちき串木野市街地を一望でき、南西方向には、薩摩半島最西端の南さつま市笠沙などを望むことができる。

注：表中の番号は、図 3.1-37 中の番号に対応する。

「観光」（日置市 HP）
「地域振興局・支庁」（鹿児島県 HP）
「鹿児島市景観計画・景観条例・景観形成重点地区」（鹿児島市 HP）
「こころ 薩摩川内観光物産ガイド」（薩摩川内市観光物産協会 HP）
「鹿児島観光サイト どんどんかごしまの旅」（公益社団法人 鹿児島観光連盟 HP）
「鹿児島市観光サイト よかとこかごまナビ」（鹿児島観光コンベンション協会 HP）
(各 HP、閲覧：令和元年 12 月)

より作成

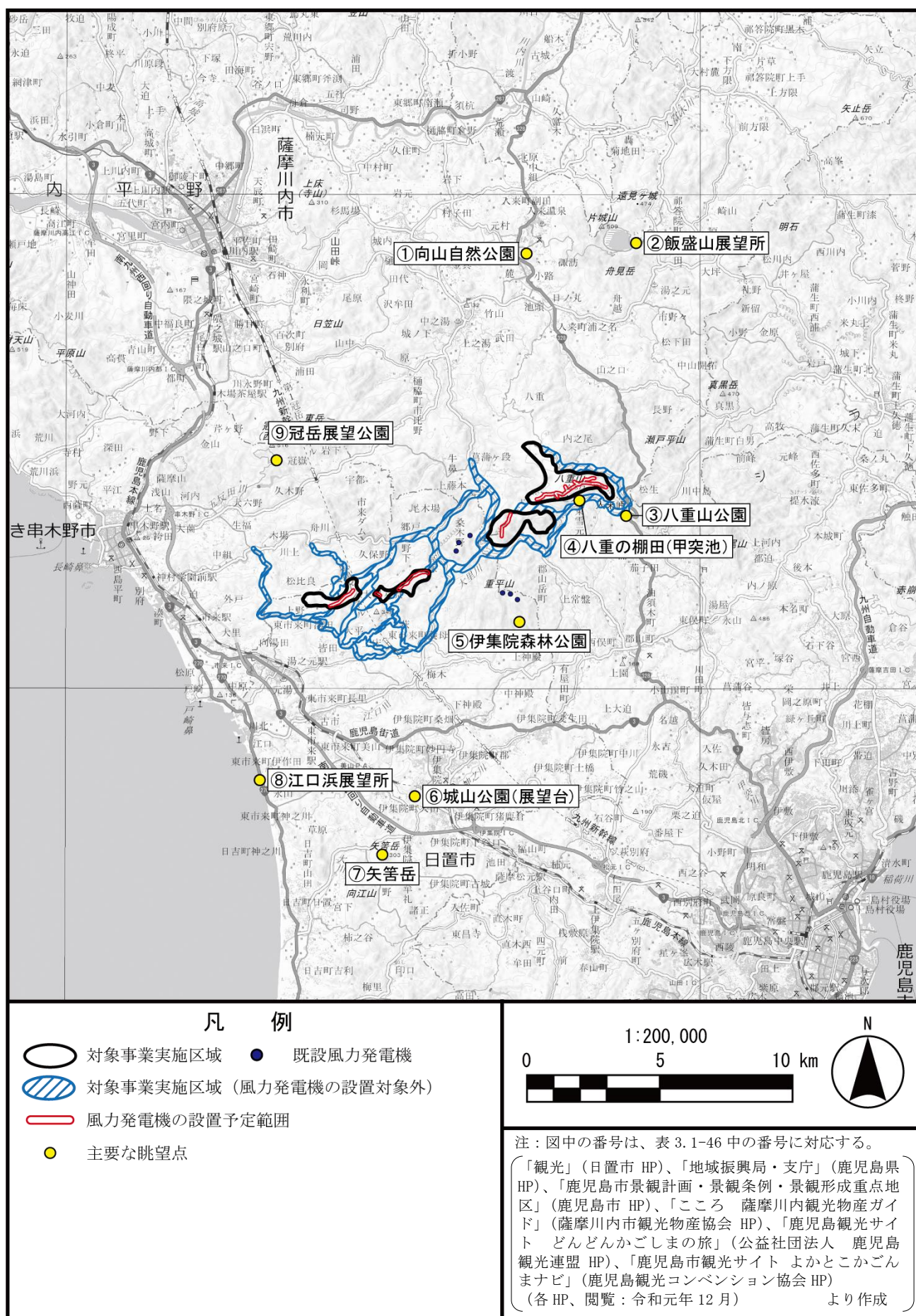


図 3.1-37 主要な眺望点の状況

(2) 景観資源

「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」（環境庁、平成元年）による景観資源は、表 3.1-47 及び図 3.1-38 のとおりである。対象事業実施区域及びその周囲には八原高原、始良火山等がある。

表 3.1-47 景観資源

区 分	名 称	関係市町
火山群	蘭牟田火山	薩摩川内市
	始良火山	日置市、鹿児島市、始良市、いちき串木野市
火山性高原	吉野台地	鹿児島市、始良市
火口・カルデラ	蒲生町のマール	始良市
	始良カルデラ	鹿児島市、始良市
非火山性高原	上床（寺山）	薩摩川内市
	下木場高原	薩摩川内市
	八原高原	薩摩川内市
	高塚台地	日置市
非火山性孤峰	丸山	薩摩川内市
	遠見番山	日置市
断崖・岩壁	仙人岳	いちき串木野市
	岩下の断崖	薩摩川内市
	清浦南部の断崖	薩摩川内市
	清浦の断崖	薩摩川内市
岩峰・岩柱	古城滑石	薩摩川内市
	子授け岩	日置市
峡谷・溪谷	清浦近くの溪谷	薩摩川内市
自由蛇行河川	川内川の蛇行	薩摩川内市、さつま町
	神之川の蛇行	日置市
瀬	ヒグイ	さつま町
滝	轟滝	鹿児島市
	藤本滝	薩摩川内市
	三方塚山近くの滝	薩摩川内市
	長野集落近くの滝	薩摩川内市
	平木場近くの滝	薩摩川内市
	湯の滝	薩摩川内市
湖沼	斉連ヶ池	いちき串木野市
	須貫段池	薩摩川内市
	一角池	薩摩川内市
	蘭牟田池	薩摩川内市
砂丘	吹上浜（北部）	いちき串木野市
	吹上浜（南部）	日置市
海食崖	江口蓬萊	日置市
岩門	メガネ橋	いちき串木野市
節理	寺山の板状節理	薩摩川内市
	材木岩	いちき串木野市、薩摩川内市
	串木野長崎鼻	いちき串木野市
岩脈	串木野長崎鼻	いちき串木野市

〔「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」（環境庁、平成元年）より作成〕

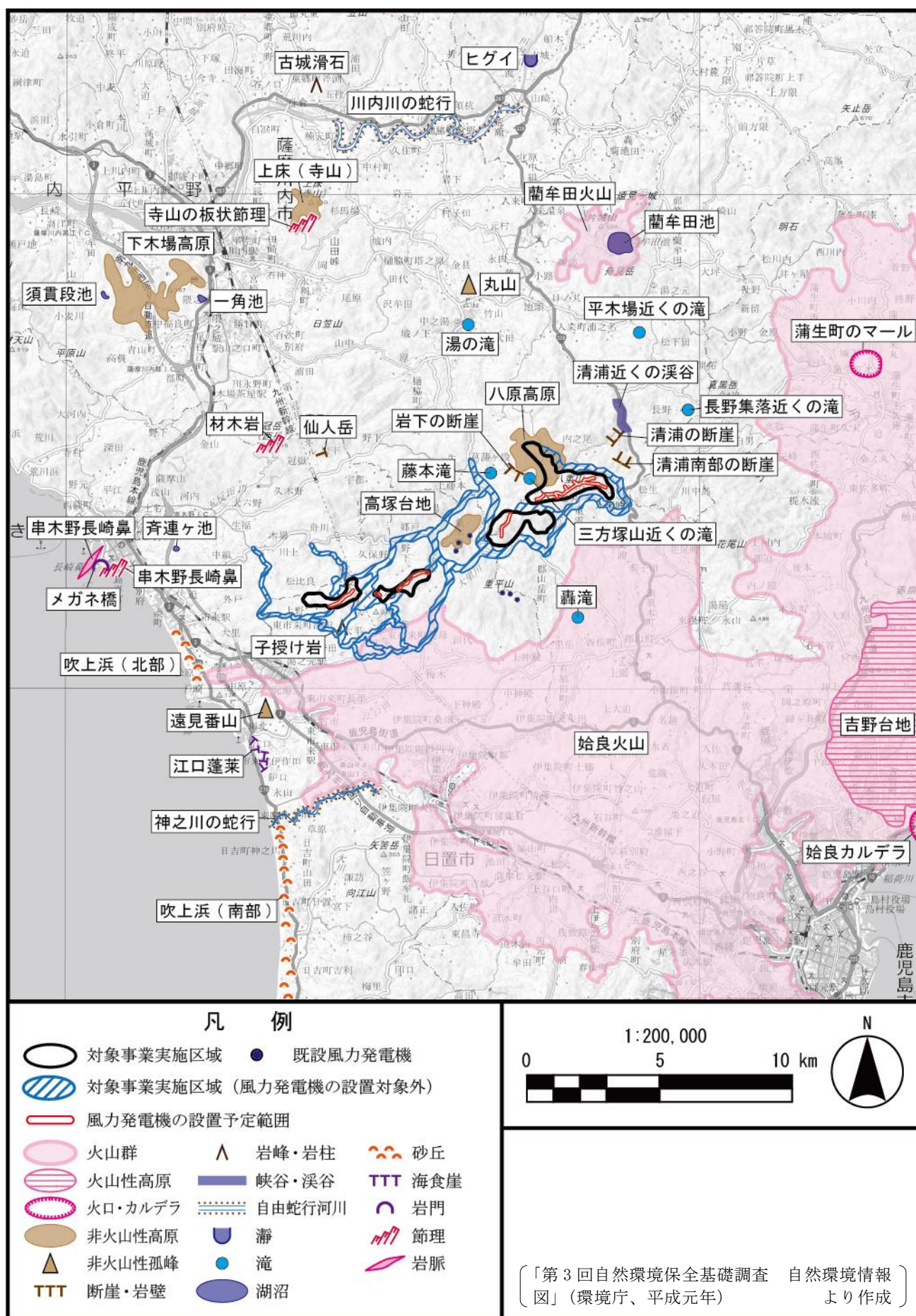


図 3.1-38 景観資源の状況

2. 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

対象事業実施区域及びその周囲における人と自然との触れ合いの活動の場の状況は表 3.1-48 及び図 3.1-39 のとおりである。

表 3.1-48 人と自然との触れ合いの活動の場

番号	名 称	想定する 主な活動	概 要
①	日置市伊集院 森林公園	自然観賞 散策	旧伊集院町制 30 周年を記念して建設された公園。日置市で最も高い重平山の東南部に位置している。周囲は天然の照葉樹に覆われ、森林浴や昆虫採集等が楽しめる。
②	江口浜海浜公園	海水浴 イベント	吹上浜初の人工ビーチをはじめ、トイレ・シャワー棟、イベント広場、江口蓬莱館等が整備されている。国際サンドアートフェスティバル等のイベントも開催されている。
③	観音ヶ池市民の森	自然観賞 キャンプ	県推奨の「森林浴の森」70 選の一つで、千本桜、ツツジ、アジサイなど四季を通じて憩いの場となっている。サクラの咲く時期には花見客で賑わい、キャンプを行うこともできる。
④	串木野ダム	自然観賞 散策	五反田川の上流に所在する。周辺ではサクラの他、小水林間広場やウォーキングトレイルもある。
⑤	冠岳花川砂防公園	自然観賞 散策	10 本の年代橋や多目的広場、水鏡、展望桜などがある。「蓮苑」は湧水を利用した池で、6 月～8 月に睡蓮や蓮の花が咲く。
⑥	九州自然歩道 (南薩コース)	自然観賞 散策	全長約 176 km あり、指宿市山川からいちき串木野市・薩摩川内市の市境までのコースである。
⑦	九州自然歩道 (北薩コース)	自然観賞 散策	全長約 99 km あり、いちき串木野市・薩摩川内市の市境から久七峠までのコースである。
⑧	踐祚の滝	自然観賞	木々に囲まれた場所にあり、石積状でできた滝。洗心の滝、仙人の滝とともに、岩下仙峡と呼ばれている。
⑨	清浦ダム	自然観賞 散策	桜の名所。内之尾川と樋脇川の合流地点に所在する。ダム一帯は、休憩所などが整備されているため散策も行うことができる。
⑩	八重の棚田	自然観賞	面積約 12.4ha。八重地区に位置し、棚田の水を潤している「甲突池」が隣接している。「田植え体験」等のイベントも開催されている。
⑪	八重山公園	自然観賞 散策	八重山の麓に位置。多目的広場や散策広場、野外ステージなどの屋外施設に、宿泊研修として利用できる「交流促進センターてんがら館」の他、コテージやキャンプ場が完備されている。

注：表中の番号は、図 3.1-39 中の番号に対応する。

「遊ぶ・体験する」(日置市 HP)
「レジャー・スポーツ施設」(いちき串木野市 HP)
「こころ」(薩摩川内観光物産 HP)
「よかところかごんまナビ」(公益財団法人鹿児島観光コンベンション協会 HP)
「どんどんかごしまの旅」(鹿児島県観光連盟 HP)
「九州自然歩道」(鹿児島県 HP)
「NATS 自然大好きクラブ」(環境省 HP)
(各 HP、閲覧：令和元年 12 月)

より作成

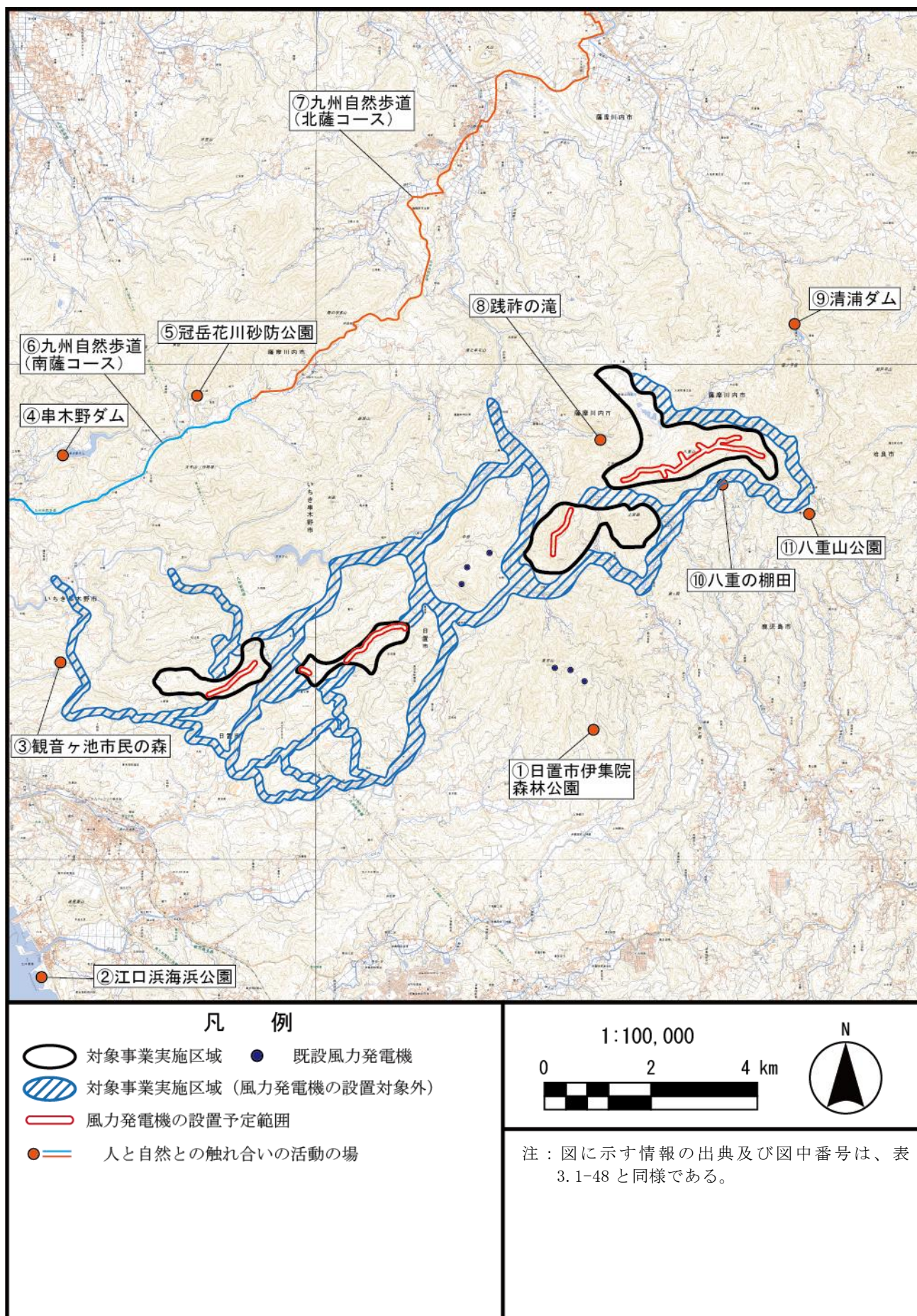


図 3.1-39 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

3.1.7 一般環境中の放射性物質の状況

鹿児島県では、九州電力株式会社川内原子力発電所の周辺環境への影響を監視するため、環境放射線監視調査を実施している。

対象事業実施区域及びその周囲における空間放射線量率の平成 30 年の測定結果は表 3.1-49 のとおりであり、最大は常盤局の 74nGy/h である。測定地点は図 3.1-40 のとおりである。

表 3.1-49 空間放射線量率測定結果（平成 30 年）

（単位：nGy/h）

測定局 測定期間	永利小局	市比野小局	八重山局	川上小局	上市来小局	野下局	常盤局	長里局
1 月	39	41	36	40	38	69	74	65
2 月	39	39	36	40	37	69	74	65
3 月	38	37	35	39	37	69	74	65
4 月	38	36	34	39	36	69	74	64
5 月	39	37	34	40	37	69	74	65
6 月	38	36	34	39	36	69	74	65
7 月	39	36	34	39	35	69	74	64
8 月	38	36	34	38	33	69	74	65
9 月	39	36	33	39	34	69	74	64
10 月	39	36	34	39	36	69	73	64
11 月	39	38	35	40	36	69	74	65
12 月	38	38	35	40	36	69	74	64

注：永利小局、市比野小局、八重山局、川上小局及び上市来小局についてはシンチレーション検出器、野下局、常盤局及び長里局については電離箱検出器による連続測定である。

「川内原子力発電所周辺環境放射線調査結果報告書（平成 30 年 1 月～3 月）」（鹿児島県、平成 30 年）
「川内原子力発電所周辺環境放射線調査結果報告書（平成 30 年 4 月～6 月）」（鹿児島県、平成 30 年）
「川内原子力発電所周辺環境放射線調査結果報告書（平成 30 年 7 月～9 月）」（鹿児島県、平成 31 年）
「川内原子力発電所周辺環境放射線調査結果報告書（平成 30 年 10 月～12 月）」（鹿児島県、平成 31 年）
より作成

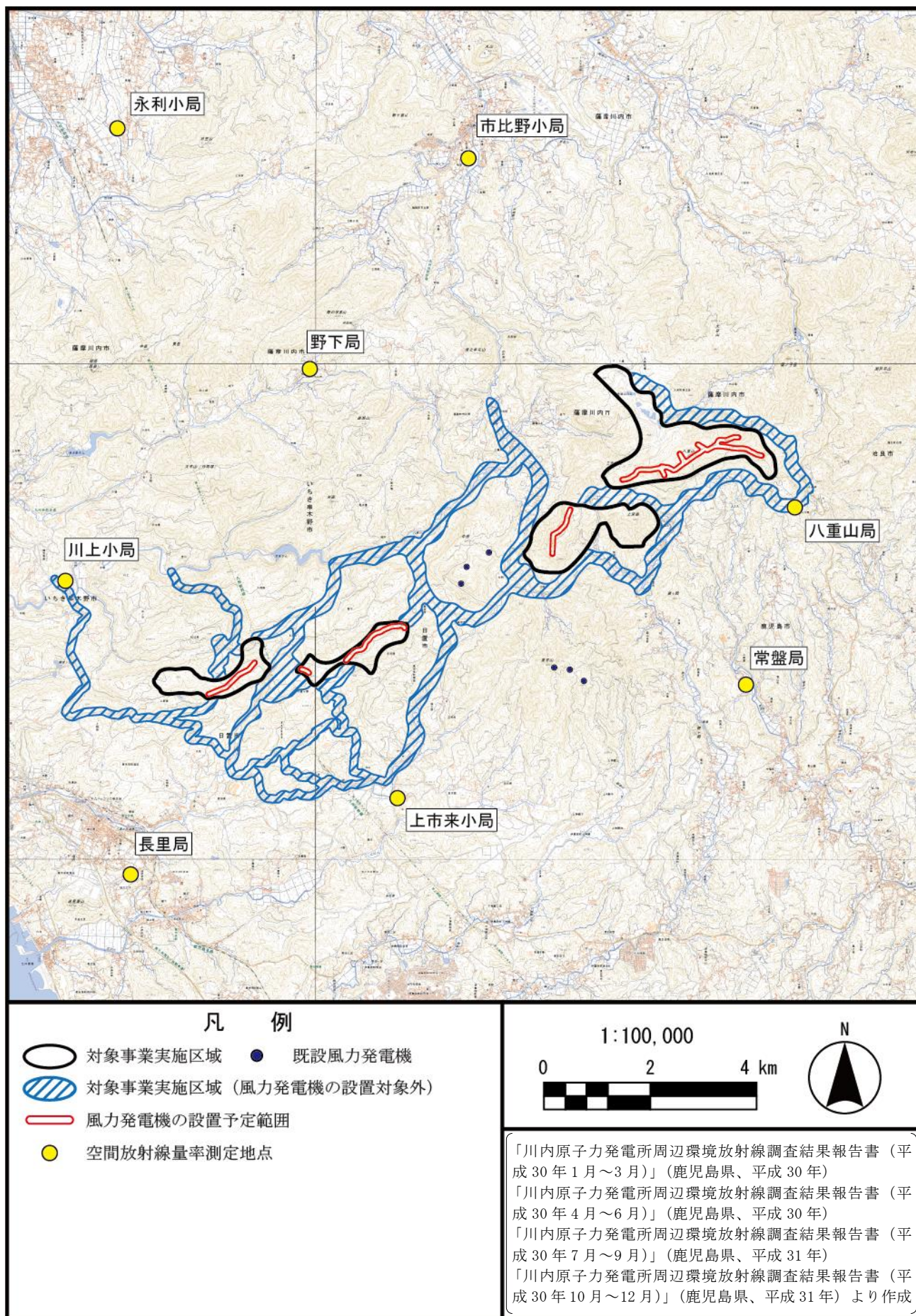


図 3.1-40 空間放射線量率測定地点